科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸ゼミナール	文芸学部　専門基礎分野	1	2	１年生後期の必修科目として、学問の専門性に触れるとともに、コースでの演習を予備体験する。	１．文学・芸術を専門的に学ぶために何が必要かわかるようになる。（知識・理解） ２．専門的に学ぶための文献資料を、適切な媒体によって自ら入手し、具体的学修ができるようになる。（技能）（関心・意欲・態度） ３．専門課程でおこなう調査研究の成果を、適切な方法でプレゼンテーションできるようになる。（技能）（思考・判断・表現）	１．文学・芸術を専門的に学ぶために何が必要か、ある程度わかるようになる。（知識・理解） ２．専門的に学ぶための文献資料を、適切な媒体によって、ある程度探すことができる。（技能）（関心・意欲・態度） ３．専門課程でおこなう調査研究の成果を、ある程度プレゼンテーションできるようになる。（技能）（思考・判断・表現）
生活英会話	文芸学部　専門基礎分野	1	2	The course will be orgainzed around conversation skills & strategies and/or conversational topics and functions (e.g. requests, complaints). Students will participate in a variety of interactive speaking activities (role plays, informal discussions, focused language games, and listening excercises).	Students will be able to engage in conversation in a fluent and appropriate manner. This includes improved use of communcation strategies (e.g. clarification, gestures, ellaboration), vocabulary for conversational topics, and grammar (question formation and phrases used in conversational functions & situations).(技能）（知識・理解）（思考・判断・表現）	Students will be able to engage in conversation in a fluent and appropriate manner. This includes improved use of communcation strategies (e.g. clarification, gestures, ellaboration), vocabulary for conversational topics, and grammar (question formation and phrases used in conversational functions & situations).(技能）（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語Ⅳ	文芸学部　専門基礎分野	2	2	This class focuses on listening and speaking skills. While Eigo I covered conversational skills and topics, this course focuses more on discussions, presentations, and listening. It also involves more academic (but still “fun”) topics. Classes consist of many communicative activities in English to improve students' fluency.	1. The course aims to improve students' listening skills and strategies.（技能・理解） 2. The course reviews conversation skills and develops students' discussion and presentation skills in English.(技能）（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. The course aims to improve students' listening skills and strategies.（技能・理解） 2. The course reviews conversation skills and develops students' discussion and presentation skills in English.(技能）（知識・理解）（思考・判断・表現）
CALL	文芸学部　専門基礎分野	1	1	This class involves English learning through the use of computers. While other classes focus on skills and strategies, this course focuses on learning vocabulary and listening fluency. Individual study strategies are also a major goal, and classes often include time to study on your own (after considering your language level, goals, and learning preferences).	This class aims to increase students’ academic vocabulary level and improve their listening fluency. Students’ language learning strategies, reading level, and computer skills should also greatly improve.（知識・理解・技能）	This class aims to increase students’ academic vocabulary level and improve their listening fluency. Students’ language learning strategies, reading level, and computer skills should also greatly improve.（知識・理解・技能）
メディアの英語	文芸学部　専門基礎分野	2	2	新聞・雑誌やTVニュースなど、主に、時事的な話題や題材を通した英語学習を行う。インターネットを含めた多様なメディアの英語に接し、一般的な常識の範囲内で理解できるような社会的事象に関して、英語を通して多角的に理解を深め、グローバルな視点を持てるようにする。少し高度な内容―例えば、新聞の社説や特集記事、ドキュメンタリー―の英語を読んだり聞いたりして、正確に理解し、要約したり、自分の意見を述べられるようにする。	1.時事的な話題や社会事象に関して、新聞の社説・特集記事・ドキュメンタリーの英語を読んだり聞いたりして、正確に理解することができる。（知識・理解） 2.時事的な話題や社会事象に関して、自分の意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.時事的な話題や社会事象に関して、英語で情報を得ることができるようになる。（関心・意欲・態度） 2.英語で得た時事的な話題や社会事象に関する情報を正確に理解することができる。（知識・理解）
英語英米文学プレゼミ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	大きく「アメリカ文学・アメリカ文化」「イギリス文学・イギリス文化」「英語学・英語教育」の３つの分野に分け、それぞれの分野に関する卒業論文執筆の準備作業を行う。具体的には、論文という文章形式についての理解を深め、自分の卒業論文で取り扱う題材を決定し、論証方法などについて学ぶ。資料収集や、研究成果の口頭発表などの練習も行う。	卒業論文執筆に必要な準備をする技術や、論文執筆に対する能動的な態度を身に着ける。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	卒業論文執筆に必要な準備がある程度できている。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
フランス文学概論 B	文芸学部　専門基礎分野	1	2	フランス語圏文学と、その背景のフランス文化を知る。フランス語で書かれた文学を作品と人物の紹介によって体系的に概観する。なじみのあるテーマからフランス文学入門を図る。作品に触れるきっかけとして、翻訳・翻案（アダプテーション）は切っても切れない関係にある。本科目では舞台、映画、ミュージカル、オペラなどの具体例を鑑賞し、芸術との関連からも文学を考える。	１．フランス語圏の文学の基礎的知識を持ち、ジャンルの特性を踏まえ、くまなく概観することができる（知識・理解）。 ２．フランス語圏の文学史上の特異な作家の名前を複数挙げ、文脈の中に位置づけ、その特徴を列挙することができる（技能）。 ３．課題になったすべてのフランス文学作品を翻訳で熟読している（関心・意欲・態度）。 ４．芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。 ５．フランス語圏文学の学修を通して、文学の意義を客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。	１．フランス語圏の文学の基礎的知識を持ち、ジャンルの特性を踏まえ、概観することができる（知識・理解）。 ２．フランス文学史上の特異な作家の名前を複数挙げ、文脈の中に位置づけ、その特徴を列挙することができる（技能）。 ３．課題になったフランス文学作品を一作以上翻訳で読んでいる（関心・意欲・態度）。 ４．芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。 ５．フランス語圏文学の学修を通して、文学の意義を論述することができる（思考・判断・表現）。
現代文化論 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	近年、アメリカを中心に盛んに論じされている「世界文学」について、ダムロッシュの著書を中心に紹介し、問題点と可能性を知ることができる。	1. 世界文学について自ら事例を考えて論じることができる（思考・判断・表現） 2. 世界文学概念の限界を説明できる（知識・理解）	1.世界文学の概念を説明できる（知識・理解） 2. 世界文学として論じられる作品を複数挙げることができる（知識・理解）
比較芸術論	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	「アート」の名で語られる、現代のさまざまな表現を対象とし、それらと社会との関わりについて考える講義である。主として、アートプロジェクトと呼ばれる参加型アート、地域活性を目的とした芸術祭、文化政策の動向、グラフィティなどのストリートアート、医療や福祉の文脈でのアート、震災とアートなど、最新のテキストや映像とともに考察する。	1　現代アートの概況とプロジェクト事例について説明することができる（知識・理解） 2　現代アートを社会的文脈のもとで論じることができる（思考・判断・表現）	1　現代アートの概況について説明することができる（知識・理解） 2　さまざまな現代アートの作品やプロジェクトを具体的に説明することができる（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
現代文化論C	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	アメリカ、イギリスから起こったポピュラー音楽の動きが、歴史や社会と連動しながら、それぞれの時代の若者たちがどのようにカウンターカルチャーを築いてきたを概観し、さらにはそのような世界での動きに呼応する動きが、日本でどのように起こったかも確認する。	1.ポピュラー音楽とカウンターカルチャーについて、先行研究などを踏まえて、正確に理解している（知識・理解） 2.ポピュラー音楽とカウンターカルチャーについて、独自の考察を展開することができる（思考）	1.ポピュラー音楽とカウンターカルチャーについて、先行研究などを踏まえて、それなりに理解している（知識・理解） 2.ポピュラー音楽とカウンターカルチャーについて、一般的な言説を説くことができる（思考）
現代文化論B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	映像作品（アニメーションを含む）と文芸作品との関係を中心に、原作の映像作品よる受容と変容を考察する。	1. アダプテーションの可能性について論じることができる（思考・判断・表現） 2.アダプテーションの問題点について論じることができる（思考・判断・表現）	1.アダプテーションの概念について説明できる（知識・理解） 2.授業で扱ったアダプテーションの例について説明できる（知識・理解）
文芸教養演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	ヨーロッパ、アメリカなど世界の小説、戯曲、詩などのテクストを丹念に読みながら文学についての理解を深める。テクストは原則として日本語で書かれたもの（翻訳を含む）を用いる。テクストというメディアのもつ重層的な意味を読みとり、その意味体系を構造的に理解する訓練と、自己の考察を説得的に提示する訓練を主眼とする。さらに、それらのテクストが現代社会に生きる自己とどのような関係があり、どのような意味を持つかを比較相対化して考える姿勢を培うことを目指す。	1. 小説の基本的な技巧を用いて、作品を分析することができる（思考・判断・表現）	1. 小説の基本的な技巧について説明することができる（知識・理解）
文芸教養演習ⅡA	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	主に20世紀半ば以降に起こった文学・芸術その他の文化事象を取り上げ、ポップカルチャーの概念のもと、その歴史や社会背景を踏まえた上で、それが現在の社会や文化とどのようにつながり、関わっているかについて考察する。	1.対象となる文学・芸術その他の文化事象について、先行研究などを踏まえて、正確に理解している（知識・理解） 2.対象となる文学・芸術その他の文化事象について、独自の考察を展開することができる（思考・判断・表現） 3.研究の成果を、文章や視覚表現によって、わかりやすく表現することができる。（思考・判断・表現）	1.対象となる文学・芸術その他の文化事象について、先行研究などを踏まえて、それなりに理解している（知識・理解） 2.対象となる文学・芸術その他の文化事象について、一般的な言説を説くことができる（思考・判断・表現） 3.研究の成果を、文章や視覚表現にまとめることができる。（思考・判断・表現）
文芸教養演習ⅡB	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	中国の代表的な文学作品に触れ、中国文化への理解を深めつつ、中国のことにかぎらず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身の考えをみなに伝える力を身につける。	1. テキストから中国文化の特色を十分理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる。（思考・判断・表現）	1. テキストから中国文化の特色を一定程度理解し、説明することができる。（知識・理解） 2. 発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。（思考・判断・表現）
文芸教養演習ⅡD	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	日本のアート、ポピュラーカルチャーについて丹念に調べ、理解を深める。またそれに関する参考文献を調べ、自己の考察を説得的に提示できるようになることを目指す。さらに、それらが現代社会に生きる自己とどのような関係があり、どのような意味を持つかを比較相対化して考える姿勢を培うことを目指す。	1．文化研究の手法を用いて、作品や事象を分析することができる（思考・判断・表現）	1．作品や事象を広い視野でとらえ、説明することができる（知識・理解）
文芸教養演習ⅡE	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	西洋哲学思想あるいは東洋思想に関する代表的な根本テキスト(翻訳)を読む。その際，関連する優れた解説本がある場合は，それも併せて読みレポートし，その哲学・思想についての見識を拡げる。履修者の人数が多い場合はグループワークを通じて，少ない場合は各個人にてレポートし，プレゼン形式にて考察・分析のプロセスおよび結果を発表，全体でのディスカッションを経て，対象となる哲学・思想の理解・考察を深める。	1. テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し，入手することができる。（技能） 2. 入手した資料をもとに，テーマに設定された各哲学・思想について深く理解し，具体的に説明できる。（知識・理解） 3. 理解した哲学・思想にもとづき，自らの有効な考え意見を構築し，哲学的に展開することができる。（思考・判断・表現） 4. 自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（思考・判断・表現） 5. 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） 6. 授業で培った理解と実践した発表を総合する哲学的思想的なレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	1. テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し，入手することができる。（技能） 2. 入手した資料をもとに，テーマに設定された各哲学・思想について概要を理解し，大まかに説明できる。（知識・理解） 3. 自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（思考・判断・表現） 4. 授業で培った理解と実践した発表を総合するレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
文芸教養演習ⅡF	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	ヨーロッパ、南北アメリカなど世界の歴史の史料や歴史書などのテクストを丹念に読み解き、時代の理解を深め、自らが研究し、解決すべき課題を発見する。テクストは原則として日本語で書かれたもの（翻訳を含む）を用いる。テクストというメディアのもつ重層的な意味を読みとり、その意味体系と特徴を構造的に理解する訓練と、自己の考察を説得的に提示する訓練を主眼としつつ、さらなる研究が望まれる問題点を発見と、その解決法を構想する力を涵養する。それらのテクストが現代社会に生きる自己とどのような関係があり、どのような意味を持つかを比較相対化して考える具体的な道筋を付ける。	1.対象とする時代の史料や歴史書などについて、深い知識を習得している。（知識・理解） 2.対象とする時代の史料や歴史書などのテクスト、メディアを、正確に読み解くことができる。（技能） 3.対象とする時代の史料や歴史書などのテクスト、メディアのもつ重層的な意味を深く習得している。（知識・理解） 4.対象とする時代のテクスト、メディアのもつ意味体系と特徴を構造的に理解し、自己の考察を説得的に提示する能力を身につけている。（思考・判断・表現） 5.対象とする時代のテクスト、メディアの持つ意味体系と特徴にさらなる研究が望まれる問題点を発見し、自分なりにその解決法を案出することができる（思考・判断・表現） 6.対象とする時代の史料や歴史書などのテクスト、メディアと、現代社会に生きる自己との関係や意味を理解している（思考・判断・表現）	1.対象とする時代の史料や歴史書などについて基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2.対象とする時代の史料や歴史書などのテクストを一通り読み解くことができる。（技能） 3.対象とする時代の史料や歴史書などのテクスト、メディアのもつ重層的な意味を習得している。（知識・理解） 4.対象とする時代の思料や歴史暑などのテクスト、メディアについて、自分なりに研究すべき課題を見つけることができる（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸教養演習ⅡG	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	この授業は、日本の歴史のうち、特に江戸時代の史料や歴史書などのテクストを丹念に読み解き、時代の理解を深める。テクストというメディアのもつ重層的な意味を読みとり、その意味体系を構造的に理解する訓練と、自己の考察を説得的に提示する訓練を主眼とする。さらに、それらのテクストが現代社会に生きる自己とどのような関係があり、どのような意味を持つかを比較相対化して考える姿勢を培うことを目指す。	1.江戸時代の史料や歴史書などについて、深い知識を習得している。（知識・理解） 2.江戸時代の史料や歴史書などのテクストを、正確に読み解くことができる。（技能） 3.江戸時代の史料や歴史書などのテクストの、メディアのもつ重層的な意味を深く習得している。（知識・理解） 4.江戸時代のメディアのもつ意味体系を構造的に理解し、自己の考察を説得的に提示する能力を身につけている。（技能） 5.江戸時代の史料や歴史書などのテクストと、現代社会に生きる自己との関係や意味を理解している。（知識・理解） 6.歴史学の方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(思考･判断･表現) 7.江戸時代の研究全般に対する高い関心･意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心･意欲･態度)	1.江戸時代の史料や歴史書などについて基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2.江戸時代の史料や歴史書などのテクストを一通り読み解くことができる。（技能） 3.江戸時代の史料や歴史書などのテクストの、メディアのもつ重層的な意味を習得している。（知識・理解） 4.歴史学の方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(思考･判断･表現) 5.江戸時代の研究全般に対する関心･意欲をもって授業に臨んでいる。(関心･意欲･態度)
英米文化概論Ａ	文芸学部　専門基礎分野	1	2	アメリカ文化の理解を深めるために、地理や歴史の基本的な事柄を学び、比較的馴染み深い現代アメリカの社会的・文化的事象の背景を理解する。多文化的特質を持つアメリカ文化のを理解するための複合的な視野を身に付ける。	1.アメリカ文化の特質について深く理解できる。（知識・理解） 2.多様なアメリカ文化について自分の意見を表現できる。（思考・判断・表現） 3.アメリカ文化の多様性に関心を持ち、批評的態度を持ちながら文化を享受できる。（関心・意欲・態度）	1.アメリカ文化を形作る地理的・歴史的背景を理解できる。（知識・理解） 2.多様なアメリカ文化に関心を持ち、自らの学びを深めることができる。（関心・意欲・態度）
フランス語学概論Ⅰ	文芸学部　専門基礎分野	2	2	「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、答えを探る。アルファベットで表記する点は英語と同じだが、英語との相違点もあるので、特に発音や文法について、整理をする。まずフランス語の基本文型や構文を知り、フランス語の単語の使い方、文の作り方を知る。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状も確認する。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を修得済みであるか、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の入門レベルの語彙の発音・表記・意味・用法・語用をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の入門レベルの基本文型と構文を理解し、日本語でわかりやすく説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の入門レベルの語彙の発音・表記・意味・用法・語用を理解し、実践的に運用できる（技能）。 2．フランス語の入門レベルの基本文型と構文を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学の学修を通して、言葉の本質についての考えを述べることができる（関心・意欲・態度）。
フランス語学概論Ⅱ	文芸学部　専門基礎分野	2	2	「フランス語とはどのような言語なのか」を考える。アルファベットで表記する点は英語と同じだが、英語との相違点もあるので、特に発音や文法について、整理をする。まずフランス語の基本文型や構文を知り、フランス語の単語の使い方、文の作り方、会話の進み方を知る。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状も確認する。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を修得済みであるか、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法・語用をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の初級レベルの基本文型と構文を理解し、日本語でわかりやすく説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて説得的に答えることができる（関心・意欲・態度）。 5．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法・語用を理解し、実践的に運用ができる（技能）。 2．フランス語の初級レベルの基本文型と構文を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて答えることができる（関心・意欲・態度）。 5．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考えを述べることができる（関心・意欲・態度）。
自己表現実習	文芸学部　専門基礎分野	2	1	人生を振り返りつつ「私」について語ること（自己の語り）、相手に認めてもらうために行う表現（自己呈示）、相手とのコミュニケーションを想定した表現技術という３つの側面から自己表現を捉え実践的な実習を行う。自分史の語りについての理念的な把握と自分史制作、アートパフォーマンスの社会学的な分析とオーディエンスを想定したパフォーマンス企画、プレゼンテーション技術の実際，という構成で自己表現を単なる知識ではなく自らのワザとなるように学修する.	（１）自分史の語りについての理念的な把握ができる（知識・理解） （２）自分史を常に編集可能な制作物として完成させることができる（思考・判断・表現） （３）アートパフォーマンスの社会学的な分析について理解できる（知識・理解） （４）オーディエンスを想定した独創的で説得力のあるパフォーマンスを企画できる（技能） （５）プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している（技能） （６）プレゼンテーションの基礎のみならず応用技術を学修している（技能）	（１）自分史の語りについての理念的な把握ができる（知識・理解） （２）自分史を制作物として完成させることができる（思考・判断・表現） （３）アートパフォーマンスの社会学的な分析について理解できる（知識・理解） （４）オーディエンスを想定したパフォーマンスを企画できる（技能） （５）プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している（技能）
Web基礎実習B	文芸学部　専門基礎分野	1・2	1	コンピュータやインターネットを表現のツールとして使用するための各種の基礎技術について広く学ぶ。主としてWWWに係る技術や方法の実践を行う。静止画像や動画像の特徴・変換・WWWでの公開方法、HTML5.0及びスタイルシート3.0を用いたWWWページのレイアウト技術などを学び、WebアプリやSNSで、自らが表現したいものを適切な方法で表現できることを目標とする。	（１）表現のツールとして，コンピュータやインターネットを使用する基礎・応用技術について理解している（知識・理解） （２）静止画像や動画を素材として加工・編集ができる（技能） （３）HTML5.0及びスタイルシート3.0を用いたWWWページのレイアウト技術を使える（技能） （４）WebアプリやSNSで、独創的な表現を達成できる（思考・判断・表現）	（１）表現のツールとして，コンピュータやインターネットを使用する基礎技術について理解している（知識・理解） （２）静止画像や動画を素材として加工ができる（技能） （３）HTML5.0及びスタイルシート3.0を用いたWWWページのレイアウト技術を使える（技能） （４）WebアプリやSNSで、自分の表現を達成できる（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
コンピュータネットワーク実習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	何台かのパソコンやプリンタ、ハブやルータなどのネットワーク機器をを履修者自身の手によって実際に接続し、コンピュータネットワークを作り上げる。さらにそのうちの1～2台にサーバコンピュータとしての役割を持たせ、Webサーバや電子メールサーバなどのプログラムをインストールし、Webページや電子メールのサービスを行い、それをその他のパソコンから使用する。また、ネットワーク上にはデータがどのように流れているのかを、管理用ソフトウェアを使用して観察する。	コンピュータネットワークの構成とサーバおよびクライアントの働きについて体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 他者からのコンピュータネットワーク構築要件を理解し，自らの知識を適用して最適なコンピュータネットワークを構築できる。(技能) 各種サーバソフトェアをインストールし，自らの知識を適用して適切に運用することができる。(技能) コンピュータネットワークの不具合の原因を特定し，それに対処することができる。(技能) 他の履修者との協同ネットワーク構築に積極的に参加する。(関心・意欲・態度)	コンピュータネットワークの構成とサーバおよびクライアントの働きについて最低限の説明ができる。(知識・理解) 他者から指示されたとおりのコンピュータネットワークを構築できる。(技能) 他者から指示されたとおりに各種サーバソフトェアをインストールし，指示されたとおりに運用することができる。(技能) 他者から指示された「コンピュータネットワークの不具合への対処方法」を実行することができる。(技能)
プレゼンテーション実習	文芸学部　専門基礎分野	2	1	様々なメディア教材を利用してプレゼンテーションの種類とその特徴、メディアの使い分けやオーディエンスの期待を理解することについて、実際のケースを想定して学修し、効果的なプレゼンテーションとはどういうものかという問題意識を喚起し、最善のプレゼンテーションの方法を模索する姿勢を身につける。シナリオ作り、話し方、アイコンタクト、文字の大きさ、ムービーの使い方、画像やアニメーションの効果、時間配分と聴衆の数、聴衆のわかり易さへの配慮など、プレゼンテーションを効果的に成り立たせる諸要素ごとに理解を深める。	（1）プレゼンテーションにかかわる様々なメディアコンテンツの基礎的・応用的特性を理解する（知識・理解） （2）プレゼンテーションの種類と必要性に応じてメディアの使い分けができる（技能） （3）オーディエンスの期待を充分に理解できる（思考・判断・表現） （4）実際のケースを想定して学修する際に想像力を独創的に働かせることができる（思考・判断・表現） （5）効果的なプレゼンテーションを独創的に行うことができる（技能）	（1）プレゼンテーションにかかわる様々なメディアコンテンツの基礎的特性を理解する（知識・理解） （2）プレゼンテーションの必要性に応じてメディアの使い分けができる（技能） （3）オーディエンスの期待を理解できる（思考・判断・表現） （4）実際のケースを想定して学修する際に想像力を働かせることができる（思考・判断・表現） （5）効果的なプレゼンテーションを行うことができる（技能）
日本演劇史Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	明治期から現代に至るまでの日本演劇は様々に変化をとげてきた。西洋化、近代化にはじまり大衆化と芸術性のバランスの課題も常につきまとうことの一つである。また、演劇の上演を可能にする環境の変化、社会における演劇のあり方も当然ながら舞台作品に大きく影響を与えている。この科目では近現代の日本演劇について通時的な流れを理解し、同時に共時的な問題点についての意識をもてるように演劇を考えるための知見を深める。	明治期から現代に至るまでの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につける。（知識・理解） 近現代の日本演劇が抱えてきた問題を理解し、その理由を考察できるようになる（思考・判断・表現）	明治期から現代に至るまでの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項についてある程度の知識を身につける。（知識・理解） 近現代の日本演劇が抱えてきた問題を理解する（関心・意欲・態度）
東洋美術史概論	文芸学部　専門基礎分野	1	4	免許法における美術理論及び美術史に相当する。古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、基本的な知識を修得する。中国、インド、ベトナム、カンボジア、タイ、インドネシア地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて理解する。また、美術作品を通じ、アジア地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を獲得する。	1．古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、通史的に十分理解している。（知識・理解） 2．中国、インド、ベトナム、カンボジア、タイ、インドネシア地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて十分理解している。（知識・理解） 3．美術作品を通じ、アジア地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	1．古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、通史的に一通り理解している。（知識・理解） 2．中国、インド、ベトナム、カンボジア、タイ、インドネシア地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて部分的に理解している。（知識・理解） 3．美術作品を通じ、アジア地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を一通り獲得している。（関心・意欲・態度）
デッサン演習Ⅰ	文芸学部　専門基礎分野	1・2	4	デッサン演習Ⅰは美術分野の中で絵画のみならず、全ての美術実技全般の基盤をなすものであり、美術実技科目のうち最も重要な科目の一つとして位置付けている。この科目では木炭デッサンを中心に対象の観察、形態把握に関わる知識と技術を学び、観察力、形態描写力の習得に重点を置き、実体を的確に把握し表現する描写力を養う。	①形態把握の基礎的知識を理解し、説明ができる。（知識・理解） ②木炭、木炭紙、カルトン、パンなどの画材の使用法、手入れなどを合理的に管理ができる。（知識・理解・実践） ③形態の測り方を説明でき、正確に形態を捉えることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ④観察力が向上し、工夫しながら丁寧に描くことがる。（思考・判断・表現） ⑤最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践）	①形態把握の基礎的知識を理解し、説明ができる。（知識・理解） ②木炭、木炭紙、カルトン、パンなどの画材の使用法、手入れなどを合理的に管理ができている。（知識・理解） ③形態の測り方を理解し、正確に形態を捉えようと努力している。（知識・理解）（思考・判断・表現） ④一人で形態把握がある程度できている。（思考・判断・表現） ⑤最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践）
絵画演習Ⅰ	文芸学部　専門基礎分野	1・2	4	絵画演習Ⅰは全ての美術実技の基盤をなすものであり、デッサンⅠと共に美術実技科目のうち最も重要な科目の一つとして位置付けている。美術実技の経験は美術史の理解を深め、美術史の知識は油彩表現の論理的背景となり得るので、両者をともに学ぶ意義は大きい。 この科目は、デッサン演習Ⅰと同様に対象の観察、形態把握と的確な描写力を養成すると共に、油彩画の基本的技法を修得し絵画表現全般の礎とする。 この授業では、油彩絵の具に慣れることから始める。	①画材の基礎知識（絵の具、筆、パレット、ペインティングナイフ、溶剤などの扱い）を習得し、実践、説明ができる。（知識・理解） ②キャンバスを一人で張れる。（知識・理解）（技能） ③油彩絵の具に慣れ、厚塗りができる。（思考・判断・表現）（技能） ④油彩画の基礎知識と技術を理解し説明ができる。（知識・理解） ⑤色彩表現、特にバルールを理解し説明できる。（知識・理解） ⑥形態を正確に描写できる。　（思考・判断・表現）（技能） ⑦遠近感、量感、質感を表現できる。（思考・判断・表現）（技能） ⑧的確な構成ができる。　（思考・判断・表現）（技能） ⑨最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践）	①画材の基礎知識（絵の具、筆、パレット、ペインティングナイフ、溶剤などの扱い）を習得し、実践ができる。（知識・理解） ②キャンバスを一人で張れる。（知識・理解）（技能） ③油彩絵の具に慣れ、厚塗りを心がけている。（思考・判断・表現）（技能） ④油彩画の基礎知識と技術を理解している。（知識・理解） ⑤絵画表現の基礎が身についた。（知識・理解） ⑥形態を一応描写できる。（思考・判断・表現） ⑦遠近感、量感、質感を意識した表現ができる。（思考・判断・表現） ⑧構成を意識できる。（思考・判断・表現） ⑨最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
彫刻演習Ⅰ	文芸学部　専門基礎分野	1・2	4	「彫刻の基礎」 水粘土による彫刻制作に取り組む。彫刻制作に未経験の人を主として対象とする。 立体表現の基本である「量感」と「動勢」の把握を中心として、彫刻における重要な諸概念の理解を目指す。また制作の楽しさを体感することから、粘土という可塑的な素材の取り扱いに慣れることを目指す。	（モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素について、それらの関係を具体的に説明できる。　（知識・理解） （モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素が充実した彫刻表現をすることができる。（思考・判断・表現） 彫刻表現と素材の関係性について十分に理解し、制作を行うことができる。（思考・判断・表現） 粘土の管理・扱いについて十分に理解し、制作を行うことができる。　（技能） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュし、視覚化することで、文字の日記やメモとは違った自己の思考や興味等の視覚的再認識をすることができる。　（思考・判断・表現）	（モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素について、言葉が示す内容をそれぞれ説明できる。　（知識・理解） （モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素を意識した彫刻表現をすることができる。（思考・判断・表現） 彫刻表現と素材の関係性について意識し、制作を行うことができる。（思考・判断・表現） 粘土の基本的性質を知った上で、制作を行うことができる。　（技能） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュすることができる。　（思考・判断・表現）
日本文学各論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに古代散文を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、古代散文の特徴を理解する。	1．古代散文に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2．古代散文に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．古代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	1．古代散文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．古代散文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．古代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）
日本文学各論 D	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに近代散文を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、近代散文の特徴を理解する。	1．近代散文に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2．近代散文に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．近代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	1．近代散文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．近代散文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．近代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）
日本文学各論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに古代韻文を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、古代韻文の特徴を理解する。	1．古代韻文に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2．古代韻文に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．古代韻文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	1．古代韻文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．古代韻文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．古代韻文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）
日本文学各論 C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに近代韻文を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、近代韻文の特徴を理解する。	1．近代韻文に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解） 2．近代韻文に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．近代韻文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	1．近代韻文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．近代韻文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．近代韻文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）
日本語学各論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本語の文法に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および文法の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う	1．文法に関する知識を得て、文法に対する理解が深まる。（知識・理解） 2．文法の調査・分析に関する技能が習得できる。（技能） 3．文法に関する学問的な捉え方をし、その結果が表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．文法に対する関心・意欲・態度が強まる。（関心・意欲・態度）	1．文法に関する知識を得て、文法に対する理解がある程度まで深まる。（知識・理解） 2．文法の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（技能） 3．文法に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．文法に対する関心・意欲・態度が喚起される。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本語学各論 B	文芸学部　専門分野 I	2	4	日本語の方言に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および方言の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う。	1．方言に関する知識を得て、方言に対する理解が深まる。（知識・理解） 2．方言の調査・分析に関する技能が習得できる。（技能） 3．方言に関する学問的な捉え方をし、その結果が表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．方言に対する関心・意欲・態度が強まる。（関心・意欲・態度）	1．方言に関する知識を得て、方言に対する理解がある程度まで深まる。（知識・理解） 2．方言の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（技能） 3．方言に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．方言に対する関心・意欲・態度が喚起される。（関心・意欲・態度）
日本文学講読 A	文芸学部　専門分野 II	2	1	古典籍（和本）に関する体系的な知識を身につけ、変体仮名の読解能力と、翻刻、校訂などの基礎能力を身につける。	1、古典籍（和本）の種類や形態について説明できる（知識・理解） 2、字典の使い方を理解し、正しく字母を探すことができる（知識・理解） 3、代表的な物語作品を変体仮名で読むことができる（知識・理解） 4、読んだ変体仮名を正しく翻刻（翻字）することができる（知識・理解） 5、通行している全集等の本文が校訂されていることを理解し、校訂本文の長所と短所について説明することができる（知識・理解）	1、古典籍（和本）の種類について知っている（知識・理解） 2、字典の使い方を理解し、字母を探すことができる（知識・理解） 3、字典を用いて、学習済みの物語作品を変体仮名で読むことができる（知識・理解） 4、読んだ変体仮名を翻刻（翻字）することができる（知識・理科） 5、通行している全集等の本文が校訂されていることを理解し、校訂本文とは何か簡単に説明することができる（知識・理解）
日本文学講読 B	文芸学部　専門分野 II	2	1	古代から中近世までの日本文学作品を個別に取り上げ、それぞれの時代性や、文化、芸術、言語や表現の問題に配慮しながら作品を精読する。	1，講読対象となる作品の文学史的位置づけを、当時の文化、芸術や代表的な文学に触れた上で説明することができる（知識・理解） 2，講読対象となる作品を、歴史的仮名遣いを正しく理解した上で、音読することができる（知識・理解） 3，講読対象となる作品を古典文法や古語の意味に基づき、読解することができる（知識・理解） 4，講読対象となる作品について、修辞や先行作品の引用などふまえた上で、その表現の特徴を説明することができる（知識・理解） 5，講読対象となる作品について、注釈書等の先行する見解や読みの揺れを把握し、問題点を発見することができる（思考・判断・表現）	1，講読対象となる作品の文学史的位置づけを、当時の文化、芸術や文学に触れた上で説明することができる（知識・理解） 2，講読対象となる作品を、歴史的仮名遣いを理解した上で、音読することができる（知識・理解） 3，講読対象となる作品を古語や古典文法を意識しながら、読解することができる（知識・理解） 4，講読対象となる作品について、修辞や先行作品の引用などがあることを知った上で、その表現の特徴の一部を説明することができる（知識・理解） 5，講読対象となる作品について、注釈書等の先行する見解や読みの揺れを把握することができる（思考・判断・表現）
日本文学演習 II A	文芸学部　専門分野 II	3	2	日本文学（古代韻文）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。日本文学作品（古代韻文）それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。II は比較的高度な本文を選び、より高度な学習を行う。	1，日本文学（古代韻文）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（古代韻文）の読解のための基本的な調査、分析方法に理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等を用いながら、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究をふまえ、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめ、レポートをある程度作成することができる（思考・判断・表現）
日本文学演習 II B	文芸学部　専門分野 II	3	2	日本文学（古代散文）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。日本文学作品（古代散文）それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。II は比較的高度な本文を選び、より高度な学習を行う。	1，日本文学（古代散文）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（古代散文）の読解のための基本的な調査、分析方法に理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等を用いながら、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究をふまえ、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめ、レポートをある程度作成することができる（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本文学演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	日本文学（中近世文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。日本文学作品（中近世）それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅱは比較的高度な本文を選び、より高度な学習を行う。	1，日本文学（中近世文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（中近世文学）の読解のための基本的な調査、分析方法に理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等を用いながら、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究をふまえ、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめ、レポートをある程度作成することができる（思考・判断・表現）
日本文学演習ⅡD	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	日本文学（近現代文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。日本文学作品（近現代文学）それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅱは比較的高度な本文を選び、より高度な学習を行う。	1，日本文学（近現代文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（近現代文学）の読解のための基本的な調査、分析方法に理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等を用いながら、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究をふまえ、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめ、レポートをある程度作成することができる（思考・判断・表現）
日本語学演習ⅡA	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	近代日本語における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果をより専門的に口頭発表・レポートにまとめる。	１．近代日本語に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解） ２．近代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能） ３．近代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度がいっそう顕著になる。（関心・意欲・態度）	１．近代日本語に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解） ２．近代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能） ３．近代日本語に対する専門的な関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
日本語学演習ⅡB	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	古代日本語における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果をより専門的に口頭発表・レポートにまとめる。	１．古代日本語に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解） ２．古代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能） ３．古代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度がいっそう顕著になる。（関心・意欲・態度）	１．古代日本語に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解） ２．古代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能） ３．古代日本語に対する専門的な関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
日本語学演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	日本語の方言における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果をより専門的に口頭発表・レポートにまとめる。	１．日本語方言に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解） ２．日本語方言の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能） ３．日本語方言に対する関心やそれを究明する意欲・態度がいっそう顕著になる。（関心・意欲・態度）	１．日本語方言に関する専門的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解） ２．日本語方言の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能） ３．日本語方言に対する専門的な関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
英米文学小説講読 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	英語圏の児童文学の講読を通して、英語圏の文学芸術の理解を深める。授業では、英語で書かれたテクストとともに日本語の翻訳も活用する。特に、子ども読者を主な対象とする児童文学の場合、文化の差異を前提としつつ、どのように普遍的な人間理解へ子どもをたちを導こうとしているのか、一年の授業をとおしてじっくりと学ぶ。	1．児童文学の特質や社会的役割について理解する。（知識・理解） 2．英語圏の児童文学を翻訳を用いながら、精読し、解釈することができる。（知識・技能・思考） 3．講義で取り上げた作品について抱いた関心を、自分の言葉で表現することが出来る。（関心・思考・表現）	1．児童文学の特質や社会的役割についてある程度、理解している。（知識・理解） 2．英語圏の児童文学を翻訳に頼りながらも、精読し、解釈することができる。（知識・技能・思考） 3．講義で取り上げた作品について抱いた関心を、自分の言葉である程度、表現することが出来る。（関心・思考・表現）
英米文学小説講読 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	英語で書かれた長編小説を一年かけてじっくり学ぶ。英語で書かれたテクストとともに日本語の翻訳も活用し、英米の長編小説の講読を通して英米の文学・芸術・文化への興味や関心を喚起し、固有の文化を尊重しつつ、普遍的な人間理解に通ずる文学・芸術の受容の仕方を学ぶ。	1．英語で書かれた長編小説を、翻訳を用いながら、精読し、解釈することができる。（知識・技能・思考） 2．講義で取り上げた作品について抱いた関心を、自分の言葉で表現することが出来る。（関心・思考・表現）	1．英語で書かれた長編小説を、翻訳に頼りながらも、精読し、解釈することができる。（知識・技能・思考） 2．講義で取り上げた作品について抱いた関心を、自分の言葉で表現することが出来る。（関心・思考・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英米文学各論 D	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	北米の児童文学について、その歴史と発展について学ぶ。イギリスや他の国の児童文学と比較し、どのような特徴がみられるか、歴史や社会背景を踏まえて考察する。作品への多様なアプローチを例示することで、北米文化の理解や英文学研究全体に対する関心を深める。	1. 北米の児童文学の歴史と発展について理解している。（知識・理解） 2. 具体的な作品について、講義の内容と絡めて考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 北米の児童文学の歴史と発展について、ある程度、理解している。（知識・理解） 2. 具体的な作品について、ある程度、講義の内容を踏まえて考察することができる。（思考・判断・表現）
英米文学各論 E	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代に至るまで、世界中の文学や演劇に大きな影響を与えているシェイクスピアの作品について学ぶ。シェイクスピアの時代と主な作品について講義し、シェイクスピア作品への多様なアプローチを例示することによって、学生の理解を深め、文学研究全体に対する関心を高める。現代に息づくシェイクスピアの存在について理解し、社会と文化への視野を広げる。	1. シェイクスピアの作品とその時代の演劇の在り方について理解し、作品を鑑賞・解釈することができる。（知識・理解・思考） 2. 具体的な作品について、講義の内容と絡めて考察することができる。（関心・思考）	1. シェイクスピアの作品とその時代の演劇の在り方について、ある程度理解し、作品を鑑賞・解釈することができる。（知識・理解・思考） 2. 具体的な作品について、講義の内容を踏まえて、何らかの考察をすることができる。（関心・思考）
英米文学各論 F	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主に20世紀に英語で書かれた戯曲について学ぶ。作品への多様なアプローチを例示することによって、学生の理解を深め、文学研究全体に対する関心を高める。	1. 演劇に親しみ、作品を鑑賞・解釈することができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 具体的な作品について、講義の内容と絡めて考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 演劇に親しみ、作品を鑑賞・解釈することがある程度できる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 具体的な作品について、講義の内容を踏まえて、何らかの考察をすることができる。（思考・判断・表現）
英語学各論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	英語学という上位の研究領域の中から、特定の下位の研究領域を取り上げて、その領域の観点から英語の特徴を考察する。「英語学各論B」では「コミュニケーション」という観点から、文法および意味論を中心に取り上げる。	1. 英語コミュニケーションの本質について、世間の誤った言説に惑わされず、学問的に深く理解することができる。（知識・理解） 2. 人間が、言語を用いてコミュニケーションをしているにもかかわらず、実際には言外の意味を多用している事実に気づき、その知識を利用して読解や発信を高度に的確に行うことができる。（思考・判断・表現）	1. 英語コミュニケーションの本質について、世間の誤った言説に惑わされず、学問的に理解することができる。（知識・理解） 2. 人間が、言語を用いてコミュニケーションをしているにもかかわらず、実際には言外の意味を多用している事実に気づき、その知識を利用して読解や発信を的確に行うことができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	英語学に関連する文献を読む。入門期にある学生を対象とするので、英語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文献を読む。「英語英米文学演習IA」では、意味論、語用論、社会言語学などの研究領域に関連する文献を中心に取り上げる。	1. 英語で書かれた英語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで読み取ることができる。（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた英語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたいことをおおよそ読み取ることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	英語学に関連する文献を読む。入門期にある学生を対象とするので、英語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文献を読む。「英語英米文学演習IB」では、英語の通時的・空間的バリエーションに関連する文献を中心に取り上げる。	1. 英語で書かれた英語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで読み取ることができる。（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた英語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたいことをおおよそ読み取ることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅠC	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	比較的易しいアメリカ文学作品を英語原文で読む。作品の読解を通して、受講学生自身に問題発見を促すような授業を展開する。文学作品の読解を通して積極的な問題意識を喚起し、自らの興味と関心の在処を探らせる。	1.英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識を深く理解できる（知識・理解） 2.英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学の特質を理解できる。（知識・理解） 2.英語で書かれた文学作品に対する興味を持ち、主体的に読書する習慣を身につけることができる。（関心・意欲・態度）
英語英米文学演習ⅠD	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	比較的易しい文学批評を読む。批評行為に馴染みの薄い受講生に対して、受講学生自身が問題を発見しつつ、文学を研究するためのさまざまなアプローチ方法の基礎を身につけることを目指す。	1.比較的易しい文学批評を読み、個別の作品の読解に応用できる。（知識・理解） 2.批評的態度を持ちながら、個々の作品に対して自分なりの問題意識に基づいて考察を深め、批評的意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.比較的易しい文学批評を読み、その内容を理解できる。（知識・理解） 2.自分の問題意識に基づいて考察し、個々の作品に関して批評的意見を述べることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅠE	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	イギリス文学作品を取り上げ、入門的な文学研究を行う。文学作品を読解・解釈するための英語力を養うと共に、内容に関して受講生の問題意識を喚起し、自らの興味と関心の在処を探らせる。各々が積極的かつ自発的に問題発見をし、考察する能力を培う。	1. イギリス文学作品を読解する基本的な英語力と英文学研究の基本を身に付ける。（知識・理解） 2. 作品に対して自発的に関心や問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に着ける。（関心・思考・表現）	1. イギリス文学作品を読解する基本的な英語力と英文学研究の基本がある程度、身についている。（知識・理解） 2. 作品に対して何らかの関心や問題を見出し、作品を解釈しようとしている。（関心・思考・表現）
英語英米文学演習ⅠF	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	イギリス文学作品と共に比較的易しい文学批評を読む。批評行為に馴染みの薄い受講生に対して、受講学生自身が問題を発見しつつ、文学を研究するためのさまざまなアプローチ方法の基礎を身につけられる授業を展開する。	1. イギリス文学作品を読解するさらに高い英語力を身に着ける。（知識・理解） 2. 文学批評の基本的な知識を身に着け、より深く作品の解釈ができるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. イギリス文学作品を読解するための英語力がある程度、身についている。（知識・理解） 2. 文学批評の基本的な知識がある程度あり、作品の解釈に活かそうとしている。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英米文化各論 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	英米文化概論Aで学んだアメリカの地理と歴史を通した文化へのアプローチを踏まえ、各論では個別の文化事象を取り上げて講義する。特に、20世紀の大衆文化・消費社会をリードしてきたアメリカのポピュラーカルチャー、たとえば映画や音楽などを幅広くとりあげて、アメリカ文化についての理解を深めることを目的とする。	1.地理的・歴史的背景を踏まえた上で、個別具体的なアメリカ文化の特徴を理解できる。（知識・理解） 2.アメリカ文化を形作る様々な文化事象について深く考察し、自分の意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.地理的・歴史的背景の元に形作られたアメリカ文化の特徴を理解できる。（知識・理解） 2.アメリカ文化を形作る様々な文化事象に興味を持ち、主体的に学びたいという意欲を持つことができる。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英米文化各論 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	英米文化概論Bで学んだイギリスの地理と歴史を通した文化へのアプローチを踏まえ、各論Bでは個別の文化事象を取り上げて講義する。特にイギリスのポピュラー・カルチャーを取り上げ、「芸術」という言葉で表現されるハイ・カルチャーだけでなく、人々の生活の中で身近に見受けられる文化的な現象を考察の対象とすることで、受講者のイギリス文化に対する関心を一層喚起し、文化研究の多様な在り方を示すことが目標である。	1.地理的・歴史的背景を踏まえた上で、個別具体的なイギリス文化の特徴を理解できる。（知識・理解） 2.イギリス文化を形作る様々な文化事象について深く考察し、自分の意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.地理的・歴史的背景の元に形作られたイギリス文化の特徴を理解できる。（知識・理解） 2.イギリス文化を形作る様々な文化事象に興味を持ち、主体的に学びたいという意欲を持つことができる。（関心・意欲・態度）
英米文化演習 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	アメリカ文化に関する文献の読解を通して、アメリカ文化に対する理解を深める。新聞・雑誌・インターネット・映像などの身近なものから、評論・批評にいたるまで、さまざまな資料を使用し、文化研究に対する興味を幅広く喚起する。	1.様々なメディアを通して、アメリカ文化に関する情報を読み解き、理解できる。（知識・理解） 2.多様なアメリカ文化に関して自分自身の意見を表現し、情報発信できる（思考・判断・表現）	1.身近なメディアで取り上げられるアメリカ文化に関する情報の要点を読み解き、理解できる。（知識・理解） 2.アメリカ文化の多様な側面を、主体的に探求する態度を持つことができる。（関心・意欲・態度）
英米文化演習 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	イギリス文化に関する文献の読解を通して、イギリス文化に対する理解を深める。新聞・雑誌・インターネット・映像などの身近なものから、評論・批評にいたるまで、さまざまな資料を使用し、文化研究に対する興味を幅広く喚起する。	1.様々なメディアを通して、イギリス文化に関する情報を読み解き、理解できる。（知識・理解） 2.多様なイギリス文化に関して自分自身の意見を表現し、情報発信できる（思考・判断・表現）	1.身近なメディアで取り上げられるイギリス文化に関する情報の要点を読み解き、理解できる。（知識・理解） 2.イギリス文化の多様な側面を、主体的に探求する態度を持つことができる。（関心・意欲・態度）
英米詩講読	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	童謡など、易しい韻文を取り上げ、英語独特のリズム・パターンや韻を踏むこと（ライム）が定型詩においてどのような効果を生み出すかを学習する。英語を文字として読むことのみならず、リズムや韻を体で感じることによって、学生の英語への視野を広げ、話す英語のリズムにも親しむ。	1. 英語の童謡や易しい韻文を通して、英語独得のリズムやライムについて理解する。（知識・理解） 2. 英語全体に関し、その「音」への関心を持つ。（関心・意慾・態度）	1. 英語の童謡や易しい韻文を通して、英語独得のリズムやライムについて理解する。（知識・理解） 2. 英語全体に関し、その「音」への関心を持つ。（関心・意慾・態度）
英米戯曲講読	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	戯曲を読むための基本的なスキルを学ぶ。小説にはない「台詞」と「ト書き」の役割を学習することから出発して、徐々に戯曲の全体像を把握できるようにする。黙読されるト書きを手掛かりに、俳優たちが舞台をどう動きまわり、台詞にどのような感情を込めて発声するかを理解できるようになることを目指す。また、小説と異なる戯曲ジャンルに親しむことによって、文学・芸術全体への視野を広げ、さらなる学習意欲を喚起する。	1. 英語で書かれた戯曲を読むための基本的な英語力と戯曲に関する知識を身に着ける。（知識・理解） 2. 個々の戯曲を読解、鑑賞し、他の文学・芸術と関連付け、考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた戯曲を読むための基本的な英語力と戯曲に関する知識がある程度、身についている。（知識・理解） 2. 個々の戯曲を読解、鑑賞し、考察することができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅡA	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	英語学という上位の研究領域の中から特定の下位研究領域を取り上げて、その領域の観点から英語の特徴を考察する。受講生自らが具体的な問いを立て、それについて調べ、調べたことをもとにして自分の考えを発表する演習形式の授業を行う。「英語英米文学演習ⅡA」では、意味論、語用論、社会言語学などの研究領域を中心に取り上げる。	英語で書かれた英語学関連のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで読み取ることができる。（思考・判断・表現）	英語で書かれた英語学関連のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことをおおよそ読み取ることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅡB	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	英語学という上位の研究領域の中から特定の下位研究領域を取り上げて、その領域の観点から英語の特徴を考察する。受講生自らが具体的な問いを立て、それについて調べ、調べたことをもとにして自分の考えを発表する演習形式の授業を行う。「英語英米文学演習ⅡB」では英語の通時的・空間的バリエーションを中心に取り上げる。	英語で書かれた英語学関連のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで読み取ることができる。（思考・判断・表現）	英語で書かれた英語学関連のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことをおおよそ読み取ることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	比較的難しいアメリカ文学作品を英語原文で読む。作品の読解を通して、受講学生自身に問題発見を促すような授業を展開する。文学作品の読解を通して積極的な問題意識を喚起し、自らの興味と関心の在処を探らせる。	1.英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識を深く理解できる（知識・理解） 2.難易度の高い英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学の特質を理解できる。（知識・理解） 2.英語で書かれた文学作品に対する興味を持ち、主体的に英語で書かれた文学作品を読む習慣を身につけることができる。（関心・意欲・態度）
英語英米文学演習ⅡD	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	比較的難しい文学批評を読む。批評行為に馴染みの薄い受講生に対して、受講学生自身が問題を発見しつつ、文学を研究するためのさまざまなアプローチ方法の基礎を身につけられるような授業を展開する。	1.難易度の高い文学批評を読み、実際に文学作品の読解に応用することができる。（知識・理解） 2.批評的態度を持ちながら、個々の作品に対して自分なりの問題意識に基づいて考察を深め、批評的意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.難易度の高い文学批評を読み、その内容を正確に理解できる。（知識・理解） 2.自分の問題意識に基づいて考察し、個々の作品に関して批評的意見を述べることができる。（思考・判断・表現）
英語英米文学演習ⅡE	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	イギリス文学作品の精読・解釈を通して、文学的な表現を深く味わうための英語力を養う。内容に関して受講生が積極的かつ自発的に問題発見をし、考察する能力を養成すると共に、各々が抱いた問題意識を、多様な観点から掘り下げて考えることを促す。	1.英語で書かれた難易度の高い文学作品を読み解くことのできる英語力が身についている。（知識・技能） 2.文学作品の精読・解釈を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を述べることができる。（思考・判断・表現）	1.英語で書かれた難易度の高い文学作品をある程度読み解くことのできる英語力が身についている。（知識・技能） 2.文学作品の精読・解釈を通して、自分自身の問題意識について関連付け、何らかの意見を述べることができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語英米文学演習ⅡF	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	イギリス文学作品と共に、解釈を深めるため、比較的難易度の高い文学批評を読む。受講学生自身が問題を発見しつつ、文学を研究するためのさまざまなアプローチ方法を身につけられる授業を展開する。	1．英語で書かれた難易度の高い文学作品を読み解くことのできる更に高い英語力が身についている。（知識・理解）（技能） 2．文学作品の精読・解釈を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を述べることができる。（思考・判断・表現） 3．文学批評の知識を身に着け、より深く作品の解釈ができるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1．英語で書かれた難易度の高い文学作品を読み解くことのできる英語力がある程度、身についている。（知識・理解）（技能） 2．文学作品の精読・解釈を通して、自分自身の問題意識について考察し、何らかの意見を述べることができる。（思考・判断・表現） 3．文学批評の知識がある程度身についており、作品の解釈を試みている。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語翻訳演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	英語教育の一環として実践されてきた「英語和訳」は「翻訳」といかに違うかを自覚してもらうため、文学作品に限らずさまざまな短い英語のテキストを取り上げ、翻訳のスキルを学ぶ。言葉の裏に潜む文化を読み取る能力を養うことのみならず、英語のテキストを翻訳する時に必要となる日本語を書く能力を磨いてもらうことを目指す。	1.身につけた英語翻訳の基礎的スキルを活用し、優れた翻訳を実践できる。（技能） 2.翻訳の質的な向上のために、文化的背景を踏まえた翻訳を実践できる。（思考・判断・表現）	1.英語翻訳のための基礎的スキルを身につけることができる。（技能） 2.機械翻訳も含めた英文和訳と翻訳の質的な違いについて、理解できる。（知識・理解）
英語翻訳演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	まだ日本語に訳されていないテキストを取り上げ、受講者に分担してもらって、「英語和訳」と異なる「翻訳」のスキルを学びながら日本語のテキストを作っていく。英語を深く読む力、ならびに日本語の作文能力の向上を目指す。それに加えて授業の成果として日本語のテキストが完成した時に達成感、満足感を味わってもらうことによって、さらなる英語学習への興味を喚起する。	1.身につけた高度な英語翻訳のスキルを活用し、優れた翻訳を実践できる。（技能） 2.翻訳の質的向上のために、文化的背景を踏まえた翻訳を実践できる。（思考・判断・表現）	1.英語翻訳のための高度なスキルを身につけることができる。（技能） 2.翻訳が言葉の問題にとどまらず、文化の違いを超え得るるものであることを理解できる。（知識・理解）
英語プレゼンテーション演習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	This class focuses on giving speeches and presentations in English. Students will learn how to brainstorm and reserch information, organize the presentation, and work on delivery（skills such as eye contact, gestures, movement, and speaking clearly）.	1. Students' ability to give presentations in English will improve. This includes generating content and organizing their presentations.（知識・理解・技能・表現） 2. Their delivery will also greatly improve.（技能・態度）	1. Students' ability to give presentations in English will improve. This includes generating content and organizing their presentations.（知識・理解・技能・表現） 2. Their delivery will also greatly improve.
英語ディスカッション演習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	This class focuses on giving speeches and presentations in English. Students will learn how to brainstorm and reserch information, organize the presentation, and work on delivery（skills such as eye contact, gestures, movement, and speaking clearly）.	Students will improve their ability to voice & support their opinion and agree and disagree politely.（知識・理解・技能・表現） Their ciritical thinking, speaking skills, and fluency will also improve.（思考・態度・表現）	Students will improve their ability to voice & support their opinion and agree and disagree politely.（知識・理解・技能・表現） Their ciritical thinking, speaking skills, and fluency will also improve.（思考・態度・表現）
フランス文学演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	フランス文学の作品を、既存の翻訳を参考にしながら、原語で味わう。その作品世界を多面的かつ総合的に理解し、解釈する。戯曲、小説、詩、エッセイ、映画台本などフランス語で書かれた文学作品を題材とした作品論を中心とした演習である。取り上げる個々の作品に関する文献を読むなど、文学研究の方法を学ぶ。	1．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を深く読解できる（技能）。 2．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1レベルのフランス語文学作品について詳細に意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を読解できる（技能）。 2．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1レベルのフランス語の文学作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1レベルのフランス語文学作品についておおまかに意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。
フランス文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	1	フランスの多様な文化の個々の事例を知る。フランスの文化遺産、観光資源、景観、芸術文化（彫刻・絵画・建築など）、時間を軸とする表象文化（音楽・舞踏・演劇・映画など）、食文化、サブカルチャー、宗教文化（大聖堂・ステンドグラス）、文化の制度面などの幅広いトピックと視点から、フランス特有の文化を深く理解する。 「文化」とは、一般的に「ある社会集団に固有の振る舞い・習慣の総体」を指すが、一口に文化といっても、伝統的な教養の構成要素となる古典的な学問の「文学」「芸術」から、ポップアートやポップミュージックのようなサブカルチャーまで、さまざまな種類がある。本科目では、さまざまなレベルのフランス文化をその広がりの中で捉えた上で、地理や歴史の基本的な事柄を学び、文化形成の土壌となる制度、文化の概念の変遷、現代フランス社会の多様なあり方を理解する。そこから文献の読解のしかたと文化の研究方法を身に付ける。	1．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキストを深く読解できる（技能）。 2．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキスト読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1レベルのフランス語文化について詳細に意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキストを読解できる（技能）。 2．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキストを理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1レベルのフランス語の文化についてのテキスト読解を通して、フランス語圏文化を、自国の文学とも比較しながら、関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1レベルのフランス語文化についておおまかに意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス語学各論Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	3	2	「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、深く答えを探る。特に発音や文法について体系的に学ぶ。まずフランス語の冠詞、名詞の性、動詞の時制、形容詞の変化等を理解し、フランス語の運用の訓練を行う。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状もフランコフォニーの観点から確認する。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済みであるか、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・冠詞、名詞、動詞の活用と時制をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の初級から中級レベルの文法や構文を理解し、日本語でわかりやすく説明できる（知識・理解）。 3．フランスでのことばの使用に関する一般的な事象について、日本語のそれと比較しながら、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語と日本語の比較検討を通して、言語とは何かという大きな問題について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・冠詞、名詞、動詞の活用と時制を理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の初級から中級レベルの文法や構文を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランスでのことばの使用に関する一般的な事象について、日本語のそれと比較しながら、説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語と日本語の比較検討を通して、言語とは何かという大きな問題について考察を述べることができる（関心・意欲・態度）。
フランス語学各論Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅰ	3	2	「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、深く答えを探る。特に発音や文法について体系的に学ぶ。まずフランス語の基本文型や構文を理解し、フランス語の運用の訓練を行う。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状もフランコフォニーの観点から確認する。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済みであるか、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・文の構成要素をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、日本語でわかりやすく説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用に関する一般的な事象について、日本語のそれと比較しながら、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語と日本語、その他の言語との比較検討を通して、言語とは何かという大きな問題について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・文の構成要素をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用に関する一般的な事象について、日本語のそれと比較しながら、説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語と日本語、その他の言語との比較検討を通して、言語とは何かという大きな問題について考察を述べることができる（関心・意欲・態度）。
フランス語表現法Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス語で「伝える」「つながる」楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「書くこと」ができるようになる。実践的なフランス語の表現能力の向上を目的とする。 フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考え方を知る。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の文章表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現に習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語の文章表現に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の文章表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴を最低限、説明することができる（思考・判断・表現）。
フランス語表現法Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス語で「伝える」「つながる」楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「書くこと」ができるようになる。実践的なフランス語の表現能力の向上を目的とする。 感想文、日記、メール、SNSなどの文を実際に書いてみる。そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考え方を知る。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語のCEFR A1完成～A2入門の文章表現で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1完成～A2入門の文章表現にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成～A2入門レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の文章表現（CEFR A1完成～A2入門レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語のCEFR A1完成～A2入門の文章表現で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1完成～A2入門の文章表現に習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成～A2入門レベルのフランス語の文章表現に取り組むことができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の文章表現（CEFR A1完成～A2入門レベル）から、フランス語の特徴を最低限、説明することができる（思考・判断・表現）。
フランス文学演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス文学の作品を、既存の翻訳を参考にしながら、原語で味わう。その作品世界を多面的かつ総合的に理解し、解釈する。戯曲、小説、詩、エッセイ、映画台本などフランス語で書かれた文学作品を題材とした作品論を中心とした演習である。取り上げる個々の作品に関する文献を読むなど、文学研究の方法を学ぶ。口頭発表、レポート執筆により、様々な題材の中からみずからの興味に副った問題を発見し、解決する訓練を重ねる。	1．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を深く読解できる（技能）。 2．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A2レベルのフランス語文学作品について詳細に意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を読解できる（技能）。 2．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A2レベルのフランス語の文学作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A2レベルのフランス語文学作品についておおまかに意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。
フランス文化演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス文化について、既存の翻訳や解説を参考にしながら、原語でテキストで味わう。フランス語圏の社会･芸術を含む文化全般に題材を求め、フランス語圏文化への理解を深めるための演習である。 まずは取り上げる個々の問題に関する文献に触れ、先行研究を知り、文化をテーマとした研究方法を学ぶ。口頭発表、レポート執筆により、様々な題材の中からみずからの興味に副った問題を発見し、解決する訓練を重ねる。	1．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキストを深く読解できる（技能）。 2．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキスト読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A2レベルのフランス語文化について詳細に意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキストを読解できる（技能）。 2．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキストを理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A2レベルのフランス語の文化についてのテキスト読解を通して、フランス語圏文化を、自国の文学とも比較しながら、関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A2レベルのフランス語文化についておおまかに意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス語フランス文学演習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス語学、フランス語圏の文学または文化に関わる分野から、卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。 さらに資料収集と研究の方法を知り、批評的精神を身に付け、複数のアプローチで多面的な研究の方法の糸口を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文形式で自分の意見を客観的かつ論理的に述べる訓練を行う。	1．フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する知識を持っている（知識・理解）。 2．フランスの言語、文学、文化を対象とする、研究アプローチに習熟している（技能）。 3．卒業論文の課題を発見することができる（思考・判断・表現）。 4．自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料を収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べ、クラスメートと積極的に意見交換することができる（関心・意欲・態度）。 5．批評的精神をもって研究対象を扱うことができる（関心・意欲・態度）。	1．フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する知識を持っている（知識・理解）。 2．フランスの言語、文学、文化を対象とする、研究アプローチに習熟している（技能）。 3．卒業論文の課題を発見するヒントを見出すことができる（思考・判断・表現）。 4．自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料を収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べることができる（関心・意欲・態度）。 5．批評的精神をもって研究対象を扱うことの意味を理解している（関心・意欲・態度）。
フランス語コミュニケーション演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「聴くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。 そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考え方を知る。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1完成レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を理解できる（知識・理解）。 2．CEFR A1完成レベルの実践的な口語の運用ができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴をおおまかに説明することができる（思考・判断・表現）。
フランス語コミュニケーション演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。自己表現のスキルを身につけ、「聴くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。 そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考え方を知る。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語のCEFR A1～A2の会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1～A2の実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．フランス語のCEFR A1～A2レベルの会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1～A2）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語のCEFR A1～A2の会話で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1～A2の実践的な口語の運用ができる（技能）。 3．フランス語のCEFR A1～A2レベルの会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1～A2）から、フランス語の特徴をおおまかに説明することができる（思考・判断・表現）。
比較文学論	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	中国文学が東アジアの文化の伝播、伝承に果たしてきた役割は大きい。この科目ではそうした中国文学の意義と役割に着目して、「日中比較文学」という視点から日本と中国の文学作品を読み解く。	1. 中国文学と日本文学の作品を比較を通して深く理解し、それぞれの特徴を自分の言葉で述べることができる。（知識・理解） 2. 中国文学が日本文学の発展に果たした役割について深く理解し、議論をすることができる。（思考・判断・表現）	1. 中国文学と日本文学の作品を読み、その特徴を自分の言葉で述べることができる。（知識・理解） 2. 中国文学が日本文学の発展に果たした役割を学び、その実例を述べることができる。（知識・理解）
風土と文芸 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	「風土」とは一義的にはある土地に固有の自然条件（気候、気象、地形、地質、景色、景観など）を意味し、我々はその中で生まれ育ちそして死んでいく。その意味で風土は一人一人の人間の人格や思想を形作るもっとも根本的な要素であり、我々が築く社会、文化、歴史もまた当然ながら風土という条件によりさまざまに規定されている。本科目では〈アジア〉の文学・芸術作品や文化現象を、その風土的条件と合わせて分析することを目指す。	1. 対象地域の特性について深く理解している（知識・理解） 2. 対象地域の風土、歴史、文化と、その所産である文学や映画作品との関連について深く理解している（知識・理解） 3. 対象地域の風土と文芸との関係が、いま、ここに生きる自分にとってどのような意義を持っているか、自分なりに考察し、適切に述べることができる（思考・判断・表現）	1. 対象地域の特性の基本を理解している（知識・理解） 2. 対象地域の風土、歴史、文化と、その所産である文学や映画作品との関連について理解している（知識・理解） 3. 対象地域の風土と文芸との関係が、いま、ここに生きる自分にとってどのような意義を持っているか、自分なりの考えを述べることができる（思考・判断・表現）
都市と文芸 C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業は、文学・芸術作品の典型的な意味環境の一つである都市に措定する。都市に成立・展開した文学・芸術だけでなく、農村など都市以外に成立して都市に展開したものや、都市に成立して農村など都市以外に展開した文学・芸術をも対象とする。また、都市が文学・芸術に大きな影響を与えた背景をさぐるため、都市の政治経済構造や都市民の構成、信仰生活に関わって一部に宗教問題をも視野に入れる。本科目は日本を単独に取り扱うものではない。〈比較〉と〈原型〉を軸として、日本とヨーロッパ、日本とアジア、近現代と前近代、日常と非日常など、様々な切り口で文学・芸術の諸作品を読み解く講義を展開する。時間軸・空間軸に沿って概観し、理念的に掘り下げた文学と芸術の諸領域について、自然と都市をキーワードに、より具体的なテーマに絞り込み考察することで、各作品の様相（モード）や質感（クオリア）を重視する。本科目は〈日本〉の代表的な文学・芸術作品を素材として取り上げ、そこに〈日本〉特有の都市的条件がどのように影響しているかを分析しながら進めていく。また、都市という典型的な意味環境とメディアとの関係について、文学・芸術作品を軸に考察することも目指している。	1.日本の多様な地域の代表的な文学・芸術作品における都市的条件の影響についての深い知識を習得している。（知識・理解） 2.都市という典型的な意味環境とメディアとの関係について、文学・芸術作品を軸に深い考察をする能力が身についている。（技能） 3.文学･芸術・都市の研究全般に対する高い関心･意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心･意欲･態度)	1.日本の多様な地域の代表的な文学・芸術作品における都市的条件の影響についての概要を習得している。（知識・理解） 2.都市という典型的な意味環境とメディアとの関係について、文学・芸術作品を軸に一通りの考察をする能力が身についている。（技能） 3.文学･芸術・都市の研究全般に対する関心･意欲をもって授業に臨んでいる。(関心･意欲･態度)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
戦争と文芸 B	文芸学部　専門分野 I	2	2	戦争は人々の生命と生活を破壊する一方で、多くの文学・芸術作品を生み出した。ここでいう「戦争」とは近代国家間の戦争だけではなく、「冷戦」と呼ばれる第二次世界大戦後の東西対立や、合戦と呼ばれた前近代の国内戦争、さらには御伽話の鬼退治のようなものまでも含んでいる。また、戦争を招いた政治構造や政治過程、さらには戦争の質的変化とや戦争への動員体制などにも言及する必要がある。本科目にはアジアを単独に取り扱うものではない。 〈比較〉と〈原型〉を軸として、アジアと日本、近現代と前近代、日常と非日常など、様々な切り口で文学・芸術の諸作品を読み解く講義を展開する。本科目は〈アジア〉の代表的な文学・芸術作品を素材として取り上げるが、そこにアジア特有の条件がどのように影響しているかを分析しながら進めていく。また、取り上げる文学・芸術作品は、フィクション・ノンフィクションを問わないが、反戦文学を取り上げるだけでなく、軍事体制に同調して戦争を推進するプロパガンダとなった文学・芸術における人と作品をも視野に入れたい。そのことによって、文学・芸術の政治性や、メディアとの関係を深めることができるはずである。	1. 中東地域の映像作品について戦争の観点から論じることができる（思考・判断・表現）	1. 中東地域の歴史を説明できる（知識・理解）
戦争と文芸 C	文芸学部　専門分野 I	2	2	この授業では、戦争が生み出した多くの文学・芸術作品を読み解いていく。ここでいう「戦争」とは近代国家間の戦争だけではなく、「冷戦」と呼ばれる第二次世界大戦後の東西対立や、合戦と呼ばれた前近代の国内戦争、さらには御伽話の鬼退治のようなものまでも含んでいる。また、戦争を招いた政治構造や政治過程、さらには戦争の質的変化とや戦争への動員体制などにも言及する必要がある。また、〈比較〉と〈原型〉を軸として、日本とヨーロッパ、日本とアジア、近現代と前近代、日常と非日常など、様々な切り口で文学・芸術の諸作品を読み解く講義を展開する。本科目は〈日本〉の代表的な文学・芸術作品を素材として取り上げるが、そこに〈日本〉特有の条件がどのように影響しているかを分析しながら進めていく。また、取り上げる文学・芸術作品は、フィクション・ノンフィクションを問わないが、反戦文学を取り上げるだけでなく、軍事体制に同調して戦争を推進するプロパガンダとなった文学・芸術における人と作品をも視野に入れ、文学・芸術の政治性や、メディアとの関係を深めることも目指している。	1.日本の多様な地域の代表的な文学・芸術作品における戦争の影響についての深い知識を習得している。（知識・理解） 2.戦争という典型的な意味環境とメディアとの関係について、文学・芸術作品を軸に深く考察する能力を身につけている。（技能） 3.文学･芸術の研究全般に対する高い関心･意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心･意欲･態度)	1.日本の多様な地域の代表的な文学・芸術作品における戦争の影響についての概要を習得している。（知識・理解） 2.戦争という典型的な意味環境とメディアとの関係について、文学・芸術作品を軸に一通り考察する能力を身につけている。（技能） 3.文学･芸術の研究全般に対する関心･意欲をもって授業に臨んでいる。(関心･意欲･態度)
女性と文芸 B	文芸学部　専門分野 I	2	2	イスラーム教徒の女性たちははたしていかなる一生を過ごすのか。一口に一生といっても、たとえば出産・恋愛・結婚・離婚など、女性特有のものも含めて大小さまざまなイベントに満ちているわけだが、それらが日本と比べてどのように異なっていたのか、あるいは同じなのか。本講義ではイスラーム圏における女性と文芸について学ぶ。	1.イスラーム圏における女性の生き方を理解し、論じることができる。（関心・意欲・態度）	1.イスラーム圏における女性の生き方についての知識を持っている（知識・理解）
現代思想論 A	文芸学部　専門分野 II	2	2	人間がその活動を通じて、特定地域の環境を悪化させることは古代から見られる。しかし現代において環境問題が深刻化したのは、言うまでもなく、産業革命以降の工業化の進展と20世紀に入ってから目覚ましく発達した科学技術、そして経済活動の過度な自由が結びついたからである。現在、環境問題を考えるには三つの視点があると言われている。一つは「地球の有限性」という視点である。私たちの生きる地球が閉じた有限な空間である以上、そこでの生産・消費・廃棄という人間の活動は必ず他者に影響を与えるということである。もう一つは「世代間倫理」という視点である。現代の世代は、未来の世代の生存可能性に責任を持つということである。そして三つめは「自然の生存権」という視点である。人間の役に立つか否かに関わらず、生物やそれを含む生態系そのものには内在的価値や生存権があるということである。いずれの視点にしても、私たちに想像力の翼を大きく拡げることを求めている。これらのことを踏まえ、現代思想家の知見だけではなく、文学・芸術作品なども手がかりとしながら、現代における〈環境〉に関する諸問題について深く理解することを目指す。	1.「地球の有限性」の視点について具体的に説明できる。（知識・理解） 2.「世代間倫理」の視点について具体的に説明できる。（知識・理解） 3.「自然の生存権」の視点について具体的に説明できる。（知識・理解） 4.現代の主要な〈環境〉問題について具体的に説明できる。（知識・理解）。 5.現代の〈環境〉問題を考える上で参考になる、過去の主要な日本思想について説明することができる。（知識・理解） 6.現代の〈環境〉問題を考える上で参考になる、過去の日本の人びとの「死と生のいとなみの蓄積」について説明することができる。（知識・理解） 7.過去の日本の思想や人々の営みを、現代の〈環境〉問題に結びつけて主体的に考察することができる。（関心・意欲・態度）	1.「地球の有限性」の視点について説明できる。（知識・理解） 2.「世代間倫理」の視点について説明できる。（知識・理解） 3.「自然の生存権」の視点について説明できる。（知識・理解） 4.現代の主要な〈環境〉問題について説明できる。（知識・理解）。 5.現代の〈環境〉問題を考える上で参考になる過去の主要な日本思想を挙げることができる。（知識・理解） 6.現代の主要な〈環境〉問題について主体的に受け止めることができる。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
現代思想論 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	現代における科学技術の生命に対する直接的な介入は、人の生・老・病・死をめぐる従来の価値観では対処できない問題を様々に生み出している。たとえば生殖技術の発達は私たちに、親子の絆とは何か、子供とは親とは何かといった「家族」に関する根本的な問題を投げ掛けてくる。また医療技術の発達は、生き方を問題にする「生命の質QOL」という考え方と生命をそれ自体で絶対的なものとする「生命の尊厳SOL」という考え方との間に深刻なディレンマを生み出している。バイオテクノロジーや先端医療による人の生・老・病・死の変化は、私たちの身体観や生命観、さらには死生観に影響を与えずにはおかない。 これらのことを踏まえ、現代思想家の知見だけではなく、文学・芸術作品なども手がかりとしながら、現代における〈生命〉に関する諸問題について深く理解することを目指す。	1.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」に関する主要な事例について具体的に説明できる。（知識・理解） 2.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」の「身体観」への影響について具体的に説明できる。（知識・理解） 3.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」の「死生観」への影響について具体的に説明できる。（知識・理解） 4.過去の日本思想における主要な「死と生の思想」について説明することができる。（知識・理解） 5.過去の日本の人びとの「死と生のいとなみの蓄積」について説明することができる。（知識・理解） 6.過去の日本の思想や人々の営みを「現代における死生観」に結びつけて主体的に考察することができる。（関心・意欲・態度）	1.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」に関する主要な事例について説明できる。（知識・理解） 2.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」の「身体観」への影響について説明できる。（知識・理解） 3.「現代における科学技術の生命に対する直接的な介入」の「死生観」への影響について説明できる。（知識・理解） 4.過去の日本思想における主要な「死と生の思想」を挙げることができる。（知識・理解） 5.現代の主要な〈生命〉に関する問題について主体的に受け止めることができる。（関心・意欲・態度）
現代思想論 C	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	科学技術を生み出した近代の理性主義は、生活の利便性をはじめとする文明の進歩を約束し、不合理な抑圧から人を解放して合理的な社会を築いていくことを可能にしたかに見える。しかし高度な技術に支えられた現代社会は、人間のコントロールを遥かに越えて巨大化し、逆に人間を支配し、管理するという状況をもたらしている。私たち現代人の理性は、人間が目指すべき価値や理想を示す生活の指導原理であることをやめ、いつしか人間と自然を規格化して、技術的に操作する「道具的理性」となっていると言われる。理性は、もっとも効率的に目的に達する方法・技術を計算するための道具になってしまっているのである。人間の理性は、自ら生み出した技術に飲み込まれつつある。これらのことを踏まえ、現代思想家の知見だけではなく、文学・芸術作品なども手がかりとしながら、現代における〈理性〉に関する諸問題について深く理解することを目指す。	1.「近代の理性主義」の持つ負の側面について具体的に説明することができる。（知識・理解） 2.現代における〈理性〉の問題を考える上で参考になる、過去の主要な日本思想について説明することができる。（知識・理解） 3.現代における〈理性〉の問題を考える上で参考になる、過去の日本の人びとの「死と生のいとなみの蓄積」について説明することができる。（知識・理解） 4.過去の日本の思想や人々の営みを、現代における〈理性〉の問題に結びつけて主体的に考察することができる。（関心・意欲・態度） 特に日本思想を中心に、過去のひとびとの死と生の思想やいとなみの蓄積を見つめなおし、現代における死生観のあり方を考えられるようになる。	1.「近代の理性主義」の持つ負の側面について説明することができる。（知識・理解） 2.現代における〈理性〉の問題を考える上で参考になる、過去の主要な日本思想を挙げることができる。（知識・理解） 3.現代における〈理性〉の問題を考える上で参考になる、過去の日本の人びとの「死と生のいとなみの蓄積」を挙げることができる。（知識・理解） 4.現代における〈理性〉の問題について主体的に受け止めることができる。（関心・意欲・態度）
メディア社会論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	社会の高度情報化が進展するに伴い、情報操作・メディアスクラムによる報道被害・著作権やプライバシーの侵害・個人情報の流出・不正アクセス等々、さまざまな倫理的問題が浮上しつつあることを理解し、考察する。特に現代のデジタルメディアであるコンピュータおよびその世界規模的ネットワークによってもたらされるさまざまな倫理的問題は、今後のモバイルネットワークやIoT社会の在り方を思考する上でも重要であることを考察する。さまざまなメディアを横断し、法規という立場を見据えつつ、最終的にはそれを根拠づけている人間の基本的な倫理観・世界観を問い直し、社会をメディア論的に考える。	(1)テレコミュニケーションマルチメディアの歴史的展開を理解し、説明できる。（知識・理解） (2)テレコミュニケーションマルチメディアの倫理的問題の所在を明らかにし、解説できる。（知識・理解） (3)著作権の問題を理解し、説明できる。（知識・理解） (4)プライバシーと個人情報の問題を理解し、説明できる。（知識・理解） (5)現代のデジタルメディアであるコンピュータおよびその世界規模的ネットワークによってもたらされるさまざまな倫理的問題が、今後のモバイルネットワークやIoT社会の在り方を思考する上で重要であることを分析し、考察する。（知識・理解） (6)さまざまなメディアを横断し、法規という立場を見据えつつ、最終的にはそれを根拠づけている人間の基本的な倫理観・世界観を問い直し、社会をメディア論的に考察することができる。（知識・理解）	(1)テレコミュニケーションマルチメディアの歴史的展開を理解し、説明できる。（知識・理解） (2)テレコミュニケーションマルチメディアの倫理的問題の所在を明らかにし、解説できる。（知識・理解） (3)著作権の問題を理解し、説明できる。（知識・理解） (4)プライバシーと個人情報の問題を理解し、説明できる。（知識・理解）
メディア社会論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	IT化とグローバル化によって変化していく経済について考察する。今後の経済・社会がどこに向かおうとしているのかを的確に把握し、変りゆく社会の中で自らの立ち位置を認識する能力を習得する。まず、グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を理解し、次いで、IT 化が経済・社会に及ぼす影響を考察、現時点で推察できるIT化の本質を明らかにする。また、その新しい社会概念の中で必要とされる人材とはどのようなものかを検討し、自らの在り方を考察する。	(1)IT化およびグローバル化とはいかなることか理解し、説明できる。（知識・理解） (2)IT化およびグローバル化によって変化していく経済について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)今後の経済・社会がどこに向かおうとしているのかを的確に把握し、変りゆく社会の中で自らの立ち位置を認識し、分析することができる。（知識・理解） (4)グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を理解し、考察できる。（知識・理解） (5)IT 化が経済・社会に及ぼす影響を分析し、考察できる。（知識・理解） (6)新しい社会概念の中で必要とされる人材とはどのようなものかを検討し、自らの在り方を考察することができる。（知識・理解）	(1)IT化およびグローバル化とはいかなることか理解し、説明できる。（知識・理解） (2)IT化およびグローバル化によって変化していく経済について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)今後の経済・社会がどこに向かおうとしているのかを把握し、変りゆく社会の中で自らの立ち位置を認識することができる。（知識・理解） (4)グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を理解し、説明できる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
メディア社会論C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディア技術の普及に伴い、人間の創造活動から結実する法文化は変容した。そこでこの変容示す顕著な現象につき、大きく３点に照準して学習する：(1)芸術作品を発信する側の表現の自由に関する問題、(2)発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題、そして、(3)映像メディアを使った法の可視化の問題、である。青少年の健全な育成と著作者や大手出版社側の表現の自由との衝突、情報セキュリティ強化の必要性に伴って変化するプライバシー権の変容、などを学び、法システムの知識とメディア論理解をベースに法文化メディア論の理解を深める	（１）表現の自由に関する基礎的知識があり判例について説明できる（知識・理解） （２）発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題について基礎的知識があり判例について説明できる（知識・理解） （３）映像メディアによる法の可視化の問題について基礎的知識があり判例を説明できる。（知識・理解） （４）上記の法知識とメディア論理解をベースに法文化メディア論への深い考察ができる。（知識・理解）	（１）表現の自由に関する基礎的知識がある（知識・理解） （２）発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題について基礎的知識がある。（知識・理解） （３）映像メディアによる法の可視化の問題について基礎的知識がある。（知識・理解）
メディア教育論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	そもそも教育とは何かからはじめ、歓迎されるものばかりとはいえない子どもの教育環境として圧倒的な勢いで氾濫する情報・メディアと人間形成機能としての教育との関係、その問題状況を把握した上で、21世紀を生きる子どもとさらに肥大化するであろう情報・メディアとの関わりについての大人の責任について考える。また学校における「情報」教育で今何が目指され、実際にどのような教育が行われているか、そこに何が欠け、求められているかを突きとめ、情報・メディアの活用を通して、着実な社会参画へ導き・支援するメディア教育の明日を展望する。	・教育の本質を理解する。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・伝統的学校教育の行き詰まりと打開策について考察する。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・学校のオールタナティブズとしてのメディアについて考察する。 ・メディアリテラシー教育の必要性を認識する。（関心・意欲・態度） ・教育におけるメディアの役割機能について確かな知見をもつ。（関心・意欲・態度） ・メディア教育の実践的方法論を考究する。（技能） ・メディア教育についての的確な知見と実践態度を身につける。（技能）（関心・意欲・表現）	・教育とは何かを考察する。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・メディアが子どもの生育・教育環境としてあることを知る。（知識・理解） ・教育におけるメディアの可能性について考察する。 ・教育メディアを分類・整理する。（知識・理解） ・学校教育におけるメディア活用学習を振り返り、メディア教育の実態を把握する。（思考・判断・表現） ・メディアリテラシー教育の必要性について理解する。（知識・理解） ・教育におけるメディアの有効活用について考察する。（思考・判断・表現）（技能） ・メディア教育をめぐる家庭、学校、社会の連携の必要性を認識する。（関心・意欲・態度）
電子出版論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	電子出版に伴う諸問題を整理し、電子出版の全体像の理解を促す。主として取り上げる項目は，技術的側面から，文字コード，ページレイアウト，ファイル形式，静止画像・動画像・音声など非文字系の処理，ネット配信，電子書籍を読むためのデバイス，記憶媒体，検索がある。制度面からは，著作権問題，流通問題，流通の方法などがある。また，電子出版の歴史や，流通量や海外の状況といった電子出版の現状についても学ぶ。	電子出版の技術的側面について体系的かつ網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。(知識・理解) 電子出版の制度的側面について体系的かつ網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。(知識・理解) 電子出版の歴史と現状について体系的かつ網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。(知識・理解) 授業で学んだことを，実際の電子書籍やEジャーナル等に触れることで積極的に確認する。(関心・意欲・態度)	電子出版の技術的側面についての最低限の説明をすることができる。(知識・理解) 電子出版の制度的側面についての最低限の説明をすることができる。(知識・理解) 電子出版の歴史と現状についての最低限の説明をすることができる。(知識・理解)
ジャーナリズム論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	ジャーナリズムとは、新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどで時事的な問題の報道・解説・批評などを行う活動である。ジャーナリズムに近接する概念として、大衆への大量的な情報伝達を意味するマスコミュニケーションやメディアを用いたコミュニケーションの在り方を意味するメディアコミュニケーションなどがある。こうしたことを前提として、本講義ではジャーナリズムをめぐる諸問題について、新聞、雑誌、テレビ、インターネットにおける報道、ルポルタージュ、ノンフィクションドキュメンタリー、フォトジャーナリズム、フェイクニュース、市民ジャーナリズム等について理解を深める。これらを通じて、ニュース報道に対するメディアリテラシーを正しく理解し、自ら思考し問題の所在を的確に判断する能力や、他者や異文化に対する共感と理解、グローバルな想像力を身につける。	1.ジャーナリズムの機能や役割について理解し、総合的な説明ができる。（知識・理解） 2.言論や表現の自由をめぐる諸問題やグローバルな社会問題について、現状を正しく把握し的確な説明ができる。（知識・理解） 3.多様な社会や文化のあり方に十分な共感と理解をもって接することができる。（思考・判断・表現） 4.ニュース報道に対するメディアリテラシーを正しく理解し、自らの考えを適切な言葉や文章で表現することができる。（思考・判断・表現） 5.一日に複数回、さまざまな種類のニュースに自発的に触れることができる。（関心・意欲・態度）	1.ジャーナリズムの機能や役割について理解し、基本的な説明ができる。（知識・理解） 2.言論や表現の自由をめぐる諸問題やグローバルな社会問題について、現状を正しく把握し基本的な説明ができる。（知識・理解） 3.多様な社会や文化のあり方に最低限の共感と理解をもって接することができる。（思考・判断・表現） 4.ニュース報道に対するメディアリテラシーを理解し、自らの考えを言葉や文章で表現することができる。（思考・判断・表現） 5.一日ないし一週間に数回、何らかのニュースに触れることができる。（関心・意欲・態度）
ネットワークコミュニケーション論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディアとしてのコンピュータネットワークがもたらすコミュニケーションが，従来のコミュニケーションの在り方を大きく変貌させた経緯を考察する。メディアとしてのネットワーク空間が，いまや匿名性を前提とした親密な他者やWeb恋愛などを生み出しつつ，多くの問題を孕みながらも若者たちの独自の文化を形成しつつあることを理解する。ネットワークに関する技術的側面ばかりではなく，ネットワークを通じた人間のコミュニケーションの諸相と意味を，「バーバルコミュニケーション」と「ノンバーバルコミュニケーション」という概念を導きの糸にして考察する。	1. 人間が有する他者と繋がりたいという根本的欲求を学問的に理解し，説明できる。（知識・理解） 2. Web空間の歴史的展開を理解し，説明できる。（知識・理解） 3. ネットワークの現状を理解し，説明できる。（知識・理解） 4. バーバルコミュニケーションとは何かを理解し，説明できる。（知識・理解） 5. ノンバーバルコミュニケーションとは何かを理解し，説明できる。（知識・理解） 6. ノンバーバルランゲージの具体的諸機能について理解し，説明できる。（知識・理解） 7. バーバルコミュニケーションとノンバーバールコミュニケーションを具体的に比較考察できる。（知識・理解） 8. 現実空間とネットワーク空間における自己存在の存在様相を理解し，分析できる。（知識・理解）	1. 人間が有する他者と繋がりたいという根本的欲求を学問的に理解し，説明できる。（知識・理解） 2. Web空間の歴史的展開を理解し，説明できる。（知識・理解） 3. ネットワークの現状を理解し，説明できる。（知識・理解） 4. バーバルコミュニケーションとは何かを理解し，説明できる。（知識・理解） 5. ノンバーバルコミュニケーションとは何かを理解し，説明できる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸メディア演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	この授業では、「身体表現」、「スポーツ」、「メディア」をキーワードに、これらにまつわる現象や諸問題について取り上げ考察する。メディアを軸として、オリンピック・パラリンピックやW杯をはじめとする世界的なスポーツイベントや心身の健康に関する幅広いテーマに触れる中で、興味を持った事象について情報収集・分析し、考察する力を養うことを目指す。上記キーワードに関する資料や文献をクリティカルに読み解き、他者とのディスカッションを通して多角的な理解を深める。また、興味のある事象やテーマについて、個人もしくはグループで調査・文献研究を行い、まとめた成果を発表する。これにより、メディア、スポーツや心身の健康に関連する知識を深めると同時に、テーマの設定、論文執筆に向けた文献・資料の収集、正しい引用とデータの扱い方などについて学び、学術レポートや論文を作成する上で必要なスキル(論理的思考、読み、書き、プレゼンテーション)を身につける。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(技能) ・入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) ・聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現)	・決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) ・入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) ・自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(思考・判断・表現) ・手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。(思考・判断・表現) ・他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。(関心・意欲・態度) ・自らの発表についてのレポートを作成できる。(思考・判断・表現)
メディア応用実習 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2・3	1	新聞制作の工程（記事の企画・執筆・取材・校正・レイアウト等）を実践的に学ぶ。新聞記事と雑誌記事の違い、ブランケット判とタブロイド判の違い、アナログ版とデジタル版の表現構成上の違い等について比較考察しながら、新聞という媒体の特性を理解する。取材やインタビュー、資料収集、記事の執筆、校閲・校正、推敲、編成作業等を体験し、その具体的方法論を実践的に学ぶ。	1.新聞制作の全工程および専門用語に関して、総合的な知識を習得している。（知識・理解） 2.新聞制作の全工程に関して、専門的な技能を習得している。(技能) 3.新聞の版組に関する実践的技術を十分有している。（技能） 4.著作権・肖像権に関する正しい知識を有すると共にそれを実践できる。（知識・理解） 5.取材依頼書を適切に作成することができる。（技能） 6.課題に対して他者と協同しながら、自発的に編集実務に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 7.成果のプレゼンテーションができる。（思考・判断・表現） 8.他者の発表を公平に評価できる。（関心・意欲・態度）	1.新聞制作の全工程に関して、基本的な知識を習得している。（知識・理解） 2.新聞制作の全工程に関して、基本的な技能を習得している。(技能) 3.新聞の版組に関する実践的技術を十分有している。（技能） 4.著作権・肖像権に関する基本的な知識を有する。（知識・理解） 5.取材依頼書を作成することができる。（技能） 6.課題に対して他者と協同しながら、編集実務に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 7.成果のプレゼンテーションができる。（思考・判断・表現） 8.他者の発表を評価できる。（関心・意欲・態度）
メディア応用実習 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2・3	1	図書制作の一連の工程（本の企画・執筆・取材・紙面レイアウト・編集・製本等）を実践的に学ぶ。自ら企画制作した本を、ワークショップを通して一冊のハードカバー本に手製本する。本が実際どのように編集され制作されているのか理解し、身近な書籍や雑誌、Webサイトにおける編集技術の実例を参考にしながら、各メディアに適した発想力・表現力、そして編集力を身につける。	1.図書制作の全工程および専門用語に関して、総合的な知識を習得している。（知識・理解） 2.図書制作の全工程に関して、専門的な技能を習得している。(技能) 3.図書編集に関する実践的技術を十分有している。（技能） 4.著作権・肖像権に関する正しい知識を有すると共にそれを実践できる。（知識・理解） 5.取材依頼書を適切に作成することができる。（技能） 6.課題に対して他者と協同しながら、自発的に編集実務に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 7.成果のプレゼンテーションができる。（思考・判断・表現） 8.他者の発表を公平に評価できる。（関心・意欲・態度）	1.図書制作の全工程に関して、基本的な知識を習得している。（知識・理解） 2.図書制作の全工程に関して、基本的な技能を習得している。(技能) 3.図書編集に関する実践的技術を十分有している。（技能） 4.著作権・肖像権に関する基本的な知識を有する。（知識・理解） 5.取材依頼書を作成することができる。（技能） 6.課題に対して他者と協同しながら、編集実務に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 7.成果のプレゼンテーションができる。（思考・判断・表現） 8.他者の発表を評価できる。（関心・意欲・態度）
メディア応用実習 C	文芸学部　専門分野Ⅱ	2・3	1	「メディア文化論C/広告コミュニケーション論」履修者を想定した演習課目である。広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実際を試みる。具体的な制作作業はコンピュータソフトにも依存することになるが、さまざまな新聞広告・雑誌広告・ポスター広告・映像広告・ネット広告等々の現状を分析し、まずは各種既存のコンピュータソフトを使って新聞・雑誌媒体用広告を可能な程度まで試作し、合評する。次いで、具体的な規格案をもとに、映像広告を可能なところまで仕上げ、最終的にはサイバー空間における広告の在り方なども模索する。	（1）広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実際を試みることで、各自が取り上げたテーマ（商品）を分析・考察することができる（思考・判断・表現） （2）広告計画の独創的な企画立案を行うことができる（思考・判断・表現） （3）実際に独創的な広告作品の制作、わかりやすく簡潔な発表までを行えるようになる（技能）	（1）広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実際を試みることで、各自が取り上げたテーマ（商品）を分析・考察することができる（思考・判断・表現） （2）広告計画の最低限の企画立案を行うことができる（思考・判断・表現） （3）実際に広告作品の制作、発表までを行えるようになる（技能）
メディア応用実習 D	文芸学部　専門分野Ⅱ	2・3	1	本実習では、具体的なコンテンツを組み込みながら雑誌制作を体験する。従来の紙媒体による雑誌とWeb版の違い、既存雑誌における読者のセグメント化やクラスターに注目しながら、履修者自らが雑誌の企画・編集・レイアウト・画像処理等々の制作工程を実践的に行う。雑誌制作を通じ、多様な形態の情報を発信する術を身につけること、自ら思考・企画したことを創造的に表現し、相手に適切に伝えるコミュニケーション力を養うこと、色彩やレイアウトなどのデザイン力を高めることに努め、マルチメディアな編集技術と知識の習得を目標とする。	（1）雑誌の特色を考察し、ターゲットにふさわしい雑誌の企画立案ができる（思考・判断・表現） （2）雑誌制作の基礎をマスターし、編集技術の基本とその応用が習得できる（技能） （3）履修者同志の作品発表をみて、オリジナルなアイデアを評価したり、批判的な検証を行なうことができる（関心・意欲・態度）	（1）雑誌の特色を考察し、雑誌の企画立案ができる（思考・判断・表現） （2）雑誌制作の基礎をマスターし、編集技術の基本を習得できる（技能） （3）履修者同志の作品発表をみて評価したり、検証を行なうことができる（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
メディア応用実習 E	文芸学部　専門分野Ⅱ	2・3	1	シナリオ制作、撮影、録音、と言った素材収集の技術、カットバック、モンタージュ、カットつなぎ、時間操作などの編集技術、ダビングやデータベース化などのアーカイブ技術、そして、作品を公表するための表出技術を、基礎的なフェーズごとに実践的に学ぶ。同時に、グループワークを基本とし、ワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションスキルも同時に学ぶ。映像制作プロセスを学ぶと同時に、グループ内での協働知の構築と状況に埋め込まれた学習の契機を、身体的に獲得することが目指される。	（1）シナリオを提案しグループでわかりやすいストーリーボード を制作することができる（思考・判断・表現） （2）十分な素材収集を行うことができる（技能） （3）適切なソフトを駆使して編集することができる （4）アーカイブ、ソーシャルネットワークのなどの技術の基本を駆使することができるようになる（技能） （5）協働を通してワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる（関心・意欲・態度）	（1）シナリオを提案しグループでストーリーボード を制作することができる（思考・判断・表現） （2）素材収集を行うことができる（技能） （3）最低限どの編集をすることができる （4）アーカイブ、ソーシャルネットワークなどの技術の基本を使えるようになる（技能） （5）協働を通してワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションを行うことができる（関心・意欲・態度）
文芸メディア演習ⅡA	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	児童および少年少女のためのメディアの誕生と普及について，社会背景を踏まえて検討する。中でも児童からヤングアダルトといわれる読者層を対象とした雑誌メディアの誕生・発展について，児童雑誌，少年少女雑誌の成立・普及の状況と読者層の形成から明らかにする。また，昭和初期から戦後に至る少女雑誌の発展と変容について検討する。個人あるいはグループによる調査，発表を基軸とし，意見交換やレポート作成をすることにより，児童・少年少女向けメディアについての理解を深めるのみならず，情報収集・分析・発表・討論・文書作成の能力を高める。	決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) 聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 児童・少年少女向けメディアについて網羅的な知識を持ち，それらを総合してレポートを作成できる。(知識・理解)	決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(思考・判断・表現) 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。(関心・意欲・態度) 自らの発表についてのレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 児童・少年少女向けメディアについての最低限のポートを作成できる。(知識・理解)
文芸メディア演習ⅡB	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	図書館は様々な分野の資料を広く収集し利用者に提供することが使命である。一方で，それら多様な資料をどのように本棚に並べれば利用者にとって使用しやすいかを考える必要があるが，万人が満足する並べ方は存在しない。本科目では，そのような問題や意見をまとめたテキストをもとに，図書館で起きているそのような問題，あるいはテキストで触れられている「社会で起きている問題」を如何に解決するかを考え，他者の前でプレゼンテーションし，意見交換をし，その内容をレポートにまとめるというアクティブラーニングを行う。図書館についての専門知識は必ずしも必要としない。	決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) 聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 図書館をはじめとする様々な事物について細かく説明できる。(知識・理解)	決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(思考・判断・表現) 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。(関心・意欲・態度) 自らの発表についてのレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 図書館をはじめとする様々な事物の中からテーマとして与えられた1つの事物およびそれに関連する若干数の事物について最低限の説明ができる。(知識・理解)
文芸メディア演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	アニメ聖地巡礼をはじめとするコンテンツツーリズムを、メディア論、ジェンダー論、そして相互行為論の三つの視点から考察する。メディア論においては「擬似イベント」「観光のまなざし」「シュミレーション」といったキー概念をつかう。ジェンダー論においては生物学的な性の違いと社会文化的に構築された性の違いという捉え方の二項対立に対する批判的言表が求められる。そして相互行為論においては「協働」「多声」「対話」などといった人々の在りようを対象として捉えるトレーニングを行う。たとえば、ある神社に集うアニメ聖地巡礼者のファン活動が展開される現場の現象を、観光メディア論で捉えるとどのような考察ができるか、ジェンダー論で捉えるとどのような課題が浮き彫りにされるか、相互行為論から観察するとどのようなエスノグラフィーを記述することができるか、といったレッスンを通して卒論を完成させるための学的礎を築く。日常、とりわけ映像コンテンツの周辺に現れる現象を、自明のものとして受け流してしまわない観察力・洞察力が必要とされる。	映像コンテンツをめぐる社会の在りようについて細かく説明できる(知識・理解) 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて高い学術水準で適切に検索し入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) 聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現)	映像コンテンツをめぐる社会の在りようをテーマとして、与えられた1つの事物およびそれに関連する若干数の事物について最低限の説明ができる(知識・理解) 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて検索し入手することができる。(技能) 入手した資料をもとに，考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 自らの意見を他者に伝えるための最低限度の資料を作成できる。(思考・判断・表現) 聴衆に顔を向け，口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 他者の発表についての意見交換に参加し，発言ができる。(関心・意欲・態度) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸メディア演習ⅡD	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	カルチュラル・スタディーズやメディア史研究に関する文献やテクストを購読し、メディア文化の研究方法と分析枠組みについて広く学ぶ科目である。それらの方法論をふまえながら、主として放送や出版に関わるメディア（TVドラマ・映画・ポスター・CM・雑誌等）を多角的に分析考察する。様々な形でメディアのなかに立ち現れる文化的記号が、その国や社会における歴史や文化背景、民族、ジェネレーション、ジェンダー、コーホート等に依拠していることを理解し、その多元的かつ重層的な意味を読み解く術を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(技能) 2.入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) 4.聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを習得し、それらを自身の対象テーマへ適切に援用することができる。(知識・理解)	1.決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) 2.入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(思考・判断・表現) 4.手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。(思考・判断・表現) 5.他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。(関心・意欲・態度) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(思考・判断・表現) 7.メディア文化の基礎的な知識と分析枠組みを習得し、それらを自身の対象テーマへ援用することができる。(知識・理解)
文芸メディア演習ⅡE	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	グループワークを通じて、現代的通信メディアと放送メディアにおける「メディアリテラシー」を分析・考察する。具体的には、従来のインターネット上のリテラシーに加え、「Web2.0」と呼ばれる空間の在り方（たとえばTwitter・Facebook・LINE・Instagramといった各種SNSや動画）に対応するリテラシーを分析し、プレゼン形式にて発表する。さらには放送メディアにおけるリテラシーの問題の所在を抽出し、その育成を具体的にレポートし、プレゼン形式にて発表する。	(1)通信メディアと放送メディアに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。（技能） (2)入手した資料をもとに考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） (3)自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） (4)聴衆に顔を向け、映写資料を指し示しながら分かりやすくプレゼンすることができる。（思考・判断・表現） (5)他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） (6)授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現） (7)通信メディアと放送メディアにおけるリテラシーの具体的育成方法を提示できる。（思考・判断・表現）	(1)通信メディアと放送メディアに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（技能） (2)入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（思考・判断・表現） (3)自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（思考・判断・表現） (4)手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。（思考・判断・表現） (5)他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。（関心・意欲・態度） (6)自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
情報システム実習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	情報システムを設計し開発し管理をするという一連の流れを実践することにより，情報システムがどのように作られ運用されるのかを学ぶ。具体的には，インタラクティブなWebサイト(利用者が内容を見るだけでなく操作を行うWebサイト，例えばネット通販サイトや図書館資料検索サイトなど)を設計し，それをプログラムを作成することにより開発し，実際に使用して問題点の改良等を行う。具体的には，サーバにて実行されるプログラムの開発，プログラムによるデータベースへのアクセス，データベース管理，ユーザインタフェースの設計と開発などを行う。	情報システムがどのように作られ管理されるのかについて体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) インタラクティブなWebサイトのサーバプログラムを作成するためのプログラミング方法を理解し，応用的なプログラム開発ができる。(技能) データベース操作言語を深く理解し，応用的なデータベースアクセスができる。(技能) HTMLによるユーザインタフェース作成の方法を深く理解し，自らの考えでユーザインタフェースを設計し開発できる。(技能) 獲得した技能に関して，他者にアドバイスできる。(関心・意欲・態度)	情報システムがどのように作られ管理されるのかについて最低限の説明ができる。(知識・理解) インタラクティブなWebサイトのサーバプログラムを作成するためのプログラミング方法の基礎を理解し，与えられた簡単なサーバプログラム開発課題をこなすことができる。(技能) データベース操作言語をの基礎を理解し，与えられた簡単なデータベースアクセスの問題を解くことができる。(技能) HTMLによるユーザインタフェース作成の方法の基礎を理解し，与えられたユーザインタフェース設計に基づいたユーサインタフェース開発ができる。(技能)
情報検索演習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	図書館における情報検索を中心として、コンピュータシステムを用いた情報検索の理論と実際について学ぶことにより「よい情報検索」ができるようになることを目標とする。雑誌記事・新聞記事・論文・WWW等を検索しながら、情報検索の意義と目的、情報検索に必要なもの、短時間で正確に情報検索を行う方法等を学ぶ。このような実践を行いながら、情報検索システムの種類と選択、検索戦略の立て方、検索結果や情報検索システムの評価、代行検索者の検索訓練法、索引語・シソーラス・件名標目表の役割を理論的に学ぶ。	コンピュータを用いた情報検索を行うためのデータベースの選択の方法を深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 様々な情報検索システムの検索方法に精通し，応用的な情報検索を行うことができる。(技能) 新聞記事，図書，論文などの資料を情報検索システムによって検索することの意義と利点を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) シソーラス・件名標目表のしくみと役割を深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) シソーラス・件名標目表の使用法を深く理解し，応用的な検索に役立てることができる。(技能) 検索結果の評価方法を理解し，それを実践することで得られる数値によって総合的に検索結果の良し悪しを判断できる。(技能)	コンピュータを用いた情報検索を行うためのデータベースの選択の方法についての最低限の説明ができる。(知識・理解) いくつかの情報検索システムの検索方法の基礎を知り，基礎的な情報検索を行うことができる。(技能) 新聞記事，図書，論文などの資料を情報検索システムによって検索することの意義と利点について最低限の説明ができる。(知識・理解) シソーラス・件名標目表のしくみと役割について最低限の説明ができる。(知識・理解) シソーラス・件名標目表の使用法の基礎を理解し，基礎的な検索のために使用できる。(技能) 検索結果の評価方法の基礎を理解し，それを実践することで総合的判断の素となる数値を得ることができる。(技能)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸メディア演習ⅡF	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	情報科学と教育工学の観点から、未来社会について考察する。また、未来社会がもたらす文学や芸術を推考し、調査または作品制作に取り組む。本科目では、個人またはグループによってテーマを見出し、調査や作品制作を行う。必要に応じ、学内外の大学4年生や大学院生との交流を通じて、卒業研究のテーマを見出すきっかけとする。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(技能) ・入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(思考・判断・表現) ・聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(思考・判断・表現) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。(関心・意欲・態度) ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(思考・判断・表現) ・自らテーマを設定し調査研究または作品制作が行える（技能）（思考・判断・表現） ・自ら研究したいテーマを見出し卒業研究の研究計画書を完成できる（思考・判断・表現）	・決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) ・入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。(思考・判断・表現) ・自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(思考・判断・表現) ・手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。(思考・判断・表現) ・他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。(関心・意欲・態度) ・自らの発表についてのレポートを作成できる。(思考・判断・表現) ・自ら研究したいテーマを見出し卒業研究の研究計画書を完成できる（思考・判断・表現）
放送ドラマ論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	この授業ではテレビメディアの特性を考えながら、主として「ドラマ」にスポットを当て、「ドラマ」が時代の流れとどのように関わり、その姿や内容、演出などがどのように変化してきたかについて考えていく。テレビ放送の開始から今日まで、風俗、流行といった時代背景がどう「ドラマ」の中に反映されてきたか映像資料も使用しながら検証していくこととする。	1.テレビドラマと時代との関係を考察することができるようになる。（思考・判断・表現） 2.テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か考察することができるようになる。（思考・判断・表現）	1.テレビドラマと時代との関係に関心をもち、具体的な作品についてある程度説明できるようになる（知識・理解） 2.テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か関心をもつことができるようになる（関心・意欲・態度）
映画論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	映画について学ぶ機会のなかった者にとっては、映画は単に娯楽の対象でしかないかもしれない。しかし、映画も文学や演劇、その他の芸術と同様に一つの表現媒体であり、様々な表現の可能性を持っている。本授業では映画が独自の表現領域を作り上げてきた過程を具体的な外国映画の作品に触れながら概観してゆく。	具体的な外国映画の作品に親しみ、その歴史的背景や多様性を知る。（知識・理解） 外国映画の作品を通じて映像表現の可能性について知見を深め、自らの考えを表現できるようになる（思考・判断・表現）	具体的な外国映画の作品に親しみ、その多様性をある程度理解する。（知識・理解） 外国映画の作品を通じて映像表現の可能性について関心を持ち、自らの考えを表現できるようになる（関心・意欲・態度）
放送ドラマ論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	テレビのメディアの歴史において、テレビドラマは様々に変貌をとげてきた。時代とリンクして社会現象にまでなった作品も少なくはない。本授業では話題を呼び、今なお人々の記憶に残っているドラマのいくつかを様々な角度から読み解いていく。 また、技術的な進化、ドラマの作り手と視聴者との関係の変化などテレビドラマを取り巻く状況についての知見も深め、具体的な作品について考察するための手がかりを習得する。	1.テレビドラマが同時代の社会問題や流行を反映している事例を理解し、メディアとしての特性に強く関心をもつことができるようになる（関心・意欲・態度） 2.話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を考察するための手がかりを習得する（思考・判断・表現）	1.テレビドラマとは何なのか、その特質をある程度は説明できるようになる（知識・理解） 2.テレビドラマが同時代の社会問題や流行を反映している事例に触れながら、メディアとしての特性にある程度は関心をもつことができるようになる（関心・意欲・態度）
舞台美術論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	舞台美術は、それ自体で完成するファインアートとは異なり、演技の場として視覚面を中心に時間を保持した空間を創るものである。つまり舞台美術は戯曲を手にして、装置のアイデアを出し、スケッチして、演出家をはじめとしたスタッフと何回となく会議を繰り返し構成する作業と、劇場空間の中にどのような場を立ち上げるかという作業が一体となって成立するものである。役者の動き、照明、音響など多様な要素との関わりの中で成立する舞台美術にアプローチする。	1．舞台美術の役割を十分に理解し、劇場と作品に応じたあり方を独創的に発案できるようになる。（知識・理解） 2．俳優の動きや照明、音響など、舞台の多様な要素との関係において舞台美術を説明できるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1．舞台美術の役割を理解し、劇場と作品に応じたあり方をある程度考えられるようになる。（知識・理解） 2．俳優の動きや照明、音響など、舞台の多様な要素との関係を考慮し、舞台美術をある程度説明できるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
劇芸術演習ⅡA	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	複数の歌舞伎作品を取り上げ、さまざまなレベルの比較を行う。原作と歌舞伎の比較、歌舞伎の上演別の比較などである。原作は書籍、他種の演劇、能や人形浄瑠璃などの古典芸能を含む。また歌舞伎の上演別の比較については、時代や地域、演じる役者による差異を把握することを目的とする。分析資料としては、映像資料、台本（台帳）を基本としながら、近代の演劇雑誌、上演資料など専門的な分野にも踏み込む。必要に応じて文献の講読を行う。	1.近代の演劇雑誌や簡単な上演資料の解読ができるようになる。（技能） 2.分析結果を踏まえて、その共通点や相違点の理由・背景や演劇的効果について考察することができる。（思考・判断・表現） 3.意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。（思考・判断・表現）	1.映像や台本を使った分析作業ができるようになる。（技能） 2.研究成果を口頭発表やレポートの形で提示することができる。（技能） 3.授業内で発言し、意見交換をすることができる。（関心・意欲・態度）
劇芸術演習ⅡB	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	劇芸術演習Ⅰで学んだ内容をふまえ、さらに専門性の高いテキスト読解、資料調査、考察発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会でもある。本授業では日本の近代、現代の戯曲を取り上げ、作品の成立、作家の手法、演劇史上の意義、上演時の表現、演者と観衆の問題について明らかにして考察を加えていく。	1.日本の近現代の戯曲の特性を理解し、読むことに慣れ親しむ。（関心・意欲・態度） 2.具体的な作品の分析方法、資料の収集や考察の視点などを身につけられるようになる。（技能） 3.演劇史的な背景についての知見もふまえて深く考察し、その考えを伝えることができるようになる。（思考・判断・表現）	1.日本の近現代の戯曲の特性をある程度理解し、読むことに慣れ親しむ。（関心・意欲・態度） 2.具体的な作品の分析方法、資料の収集や考察の視点などをある程度身につけられるようになる。（技能） 3.具体的な作品について考察し、その考えを伝えることができるようになる。（思考・判断・表現）
劇芸術演習ⅡC	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	劇芸術演習Ⅰで学んだ内容をふまえ、さらに専門性の高いテキスト読解、資料調査、考察発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会でもある。本授業では本学に所蔵されている上演パンフレット等を基に、その上演作品の内容や演出の意義について考察を加え議論を重ねていく。	1．時代背景を踏まえて戯曲を読み、戯曲を通じて様々な問題を考えられるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2．現在の演劇について、歴史的経緯を踏まえて総合的な視点から論じられるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1．時代背景を踏まえて戯曲を読み、戯曲のテーマを考えられるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2．現在の演劇について、ある程度歴史的経緯を踏まえて論じられるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
劇芸術演習ⅡD	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	劇芸術演習Ⅰで学んだ内容をふまえ、さらに専門性の高いテキスト読解、資料調査、考察発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会でもある。本授業では宝塚歌劇の作品研究を通じて、その目的を追求する。	舞台芸術作品に対する深い知識と主体的な解釈を文章化できる。（思考・判断・表現）	舞台芸術作品に対する知識と解釈を文章化できる。（思考・判断・表現）
映画論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	日本で製作/上映された様々な時代の、様々な映画についての知見を深める。 劇映画、アニメーション映画、ドキュメンタリー映画、実験映画を鑑賞しつつ、映像表現の分析方法、映画製作のプロセスについての知識を得る。また映画作品を通じて社会や歴史について考える方法を習得する。	映像を見つめる視線を豊かにし、映像についての感覚や好みを自覚し豊かにすることができる。（関心・意欲・態度） 自分が見ていること感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く技術を身につけることができる。（思考・判断・表現）	劇映画に限定せずに、映像を見つめる視線を豊かにできるようになる。（関心・意欲・態度） ドキュメンタリー映画・アニメーション映画・実験映画・ニュース映画・アマチュア映画といった、幅広い映像表現ジャンルについての、知識と感性を広げられる。（知識・理解）（関心・意欲・態度）
ドラマ創作	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	4	受講生が実際に、ドラマ（舞台の戯曲・テレビ台本）の創作を行う授業である。１年間に３作品のオリジナル・ドラマを創作し、提出することが義務づけられる。創作方法（ドラマの発想・素材・主題・構成・人物・せりふなど）や原稿用紙の使い方、実際に書く手順などを学び、それをもとに受講者は創作を重ねる。授業担当者や履修生同士による作品批評も行いつつ、作品の完成度を高めていく。	1.テレビドラマや舞台の台本を書くための基本的な約束事を学び、習得する。（知識・理解）（技能） 2.一年間である程度のレベルの作品を三作品完成させる。（技能） 3.自らの作品、他の履修者の作品をともに客観的で的確な批評ができるようになり創作にも反映させられるようになる。（思考・判断・表現）	1.テレビドラマや舞台の台本を書くための基本的な約束事を学び、習得する。（知識・理解）（技能） 2.一年間で作品を三作品完成させる。（技能） 3.自らの作品、他の履修者の作品をともに客観的な批評ができるようになる。（思考・判断・表現）
演劇論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業においては、基本的な演劇理論史を踏まえ、理論がいかにして実践に結びつくか、さらに深く演劇を考えるための手がかりとなる思想を扱う。アリストテレス的悲劇観から、20世紀のポストドラマ的演劇の思想に至る展開、加えてジャック・デリダやポール・リクール等、現代思想の多様なフィールドにおける演劇の考察までを広く取り上げ、演劇を論じる方法そのものを問う態度から、演劇芸術の本質へと思考を深化させるのが狙いである。演劇を通じて20世紀までの知がどのように変貌してきたかを知ってもらいたい。	１．戯曲・上演・理論の歴史を理解し、十分説明できるようになる。（知識・理解） ２．理論史を踏まえて戯曲を読み、上演について自ら考察・批評できるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	１．戯曲・上演・理論の歴史の基本的な考え方を理解し、ある程度説明できるようになる。（知識・理解） ２．理論史を踏まえて戯曲を読むことがようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
演劇論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	セリフを主体とするリアリズム演劇は、その迫真性において、人の心の深部までを映し出す優れた表現力を持つ重要なジャンルであるが、人類全体の演劇史の中では、ごく一部を占めるに過ぎない。日本演劇の歴史を見ても、雅楽・能楽・歌舞伎・人形浄瑠璃など、その名の示す通り、すべてがある種の音楽劇である。西洋演劇の源流とされるギリシャ悲劇も、コロスの歌舞が重要な役割を果たしていた。ルネッサンス期において、その再現をめざす過程で、全体を音楽で綴るオペラが作られ、より平明な形で歌とセリフを取り混ぜた形式の演劇が、ヨーロッパ各地で発展した。アメリカで生まれたミュージカルや、日本の宝塚歌劇も、現代演劇には欠かせないジャンルとなった。そうした音楽劇の歴史と特徴を様々な角度から探ってみたい。	音楽劇に関する深い知識を身につけ、主体的な解釈を文章化できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	音楽劇に関する知識を身につけ、文章化できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
演劇論 C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	様々な過程を経た後、現在の演劇は我々の前にどのような姿を見せているのか。具体的な舞台作品や表現者を取り上げながらその特徴を講じてゆく。同時に演劇をとりまく環境にも目を向け、今を生きる我々と演劇との関わりについても考察してゆくこととする。	１．戯曲・上演・理論の歴史を理解し、十分説明できるようになる。（知識・理解） ２．理論史を踏まえて戯曲を読み、上演について自ら考察・批評できるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	１．戯曲・上演・理論の歴史の基本的な考え方を理解し、ある程度説明できるようになる。（知識・理解） ２．理論史を踏まえて戯曲を読むことがようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
劇場論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現在我々が接する室内型の劇場は、いつどのようにして生まれたのだろうか。野外劇場や、能舞台・グローブ座などの半野外型の演劇空間との違い、それぞれに適した演目や、独特の効果はあるのだろうか。日本の歌舞伎座、帝国劇場、宝塚大劇場などは、どのような時代背景のもとに作られ、いかなる構造を持ち、どんな名作を世に送り出してきたのか。そして、舞台裏で働く様々な人々の仕事やエピソードなど、劇場というシステムの裏表を多角的に検討する。そして、国公立劇場の在り方や、我国における劇場文化の将来にも目を向けてみたい。	1、劇場に関する歴史や特徴について深い知識を獲得する。（知識・理解） 2、劇場と芸能・演劇との関係について主体的に考察できるようになる（思考・判断・表現）	1、劇場に関する歴史や特徴について基本的な知識を獲得する。（知識・理解） 2、劇場と芸能・演劇との関係について考察できるようになる（思考・判断・表現）
劇場論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	近年、わが国の芸術文化、とりわけ舞台芸術を取り巻く環境は大きく変化しており、公共、企業、アーティスト、そして市民といった活動主体が創造環境の現場で多様な活動を繰り広げている。そこで、特に、劇場（特に公共劇場）、企業メセナ、そしてアートNPOなどによる新しい取り組みや活動について、その役割や意義を広く考えるとともに、創造の支援、創造環境の現場に触れながら、その活動の内容、組織のあり方、マネジメント、人材、課題について考えていく。	１．日本もしくは海外における劇場運営の実態や問題点を把握し、具体的に説明することができる。（知識・理解） ２．劇場と社会との関わりについて、具体的な事例に基づいて自分なりに考えられるようになる。（関心・意欲・態度）	１．日本もしくは海外における劇場運営の実態や問題点を概ね理解し、説明することができる。（知識・理解） ２．劇場と社会との関わりについて、自分なりに考えられるようになる。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
舞踊論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業においては、クラシック・バレエを中心に、西洋の舞踊の歴史と作品を扱う。16世紀の宮廷バレエをはじめとし、劇場作品としての形式の完成とロマンティック・バレエの発展、バレエ・リュスによる革新、日本におけるバレエの受容など、その全体像と方法論を構成する諸要素を紹介、教養としての西洋舞踊の基本知識を習得し、舞台芸術全般、あるいは身体的表現の全体の中に位置づけてゆくことを狙いとする。	1．起源から現代までのバレエ史の流れと、背景を具体的に説明できるようになる。（知識・理解） 2．授業で学んだ事柄を踏まえつつ、今現在劇場で上演されているバレエ作品を、自分なりのテーマ、アプローチ方法で具体的に考察できるようになる。（思考・判断・表現）	1．起源から現代までのバレエ史の流れと、背景を概ね説明できるようになる。（知識・理解） 2．授業で学んだ事柄を踏まえつつ、今現在劇場で上演されているバレエ作品を、自分なりのテーマ、アプローチ方法である程度考察できるようになる。（思考・判断・表現）
版画実習	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	2	免許法に定める絵画の区分に含まれる。この科目では版画の主要な技法を体得し、技法ごとに異なる表現の特質を理解し、版画に関する認識を深めることを主な目標とする。版画が絵画と異なり、同一の版から複数の同一作品が生まれることに注目し、版画がメディアとして果たした役割についても認識を深める。版画は絵画よりもいっそう日常に密着しているがゆえに、時代、社会、生活様式の変化にともない、様々に変化してきた。単に制作の喜びを体験するばかりでなく、制作を通じて版画が現代及び過去の人間生活とどのように関わりを持ち、また持ってきたかについても理解し自己の作品完成を目指す。	①画材、道具の基礎知識（インク、道具、溶剤などの扱い）を習得実践、説明できる。（知識、理解）（技能） ②主に銅版画の製版技術を修得できる。（知識、理解）（技能） ③直接技法（ドライポイント、メゾチント、エングレービング）、間接技法（エッチング、アクアチント）を修得できる。（知識、理解）（技能） ④版画の刷りの技術の修得し刷ることが出来る。刷りの手順、手法を理解し制作できる。（技能）（制作実践） ⑤主に銅版画の独特な表現技法を理解し制作できる。 ⑥個々の表現の追及の中で版画の技法を使えるようになる。（技能）（制作実践）	①画材、道具の基礎知識（インク、道具、溶剤などの扱い）を理解できる。（知識、理解） ②主に銅版画の製版技術を修得できる。（知識、理解） ③直接技法（ドライポイント、メゾチント、エングレービング）、間接技法（エッチング、アクアチント）を修得できる。（知識、理解） ④版画の刷りの技術の修得し刷ることが出来る。刷りの手順、手法を理解し制作できる。　（技能）（制作実践） ⑤主に銅版画の独特な表現技法を理解し制作できる。（技能）（制作実践）
Ｗｅｂ基礎実習 A	文芸学部　専門基礎分野	1・2	1	Webサイト構築のための基礎技術を学ぶと同時にサイトの種類の多様性に合わせたコンテンツ編集能力を身につける。コンテンツ発信者、サイトデザイナー、およびサイト閲覧者のそれぞれの視座でウェブサイトがどのように解釈され、活用され、時として、発信者やサイトデザイナーのあずかり知れぬ効果をもたらすのか学び、それぞれの視点から制作するウェブサイトがどのように受け取られるかを意識して演習に臨む。例えば、商用サイト、公共性の高いサイト、または外国人向け個人サイトなど、サイトの特質とターゲットオーディエンスの態様に応じて、インターフェースデザインの使い分けや、文書型宣言やコンテンツの編集方法の相違が学習されなければならない。また、コンテンツの発信が、必ずしも常に一意に編集され解釈されえないことからサイト制作による社会的波及効果といった問題意識も本演習によって喚起されるところである。	（1）Webサイト構築のための基礎技術を獲得し，サイトの多様性に合わせたコンテンツ編集能力を身につけている（技能） （2）コンテンツ発信者、サイトデザイナー、およびサイト閲覧者のそれぞれの視座があることを知っている（知識・理解） （3）商用サイト、公共性の高いサイト、または外国人向け個人サイトなど、サイトの特質とターゲットオーディエンスの態様に応じて、インターフェースデザインが使い分けられることを知っている（知識・理解） （4）文書型宣言やコンテンツの編集方法の相違を技術的に駆使することができる（技能） （5）サイト制作による社会的波及効果も理解する．	（1）Webサイト構築のための基礎技術を獲得している（技能） （2）コンテンツ発信者、サイトデザイナー、およびサイト閲覧者のそれぞれの視座があることを知っている（知識・理解） （3）商用サイト、公共性の高いサイト、または外国人向け個人サイトなど、サイトの特質とターゲットオーディエンスの態様に応じて、インターフェースデザインが使い分けられることを知っている（知識・理解） （4）文書型宣言やコンテンツの編集方法の相違を技術的に最低限度使うことができる（技能）
日本美術史各論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を理解する。絵画の基底材や色料の調査・分析方法について理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を獲得する。また、文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を身に付ける。美術史研究と技法材料学的な観点を関連付けて、日本の絵画史を見直し、美術作品についての構造的・物質的理解を深める。講義内容をを通じて、日本美術史研究の実践力を獲得する。	1．前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を十分理解している。（知識・理解） 2．絵画の基底材や色料の調査・分析方法について十分理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を十分獲得している。（知識・理解） 3．文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を十分身に付けている。（関心・意欲・態度） 4．日本美術史研究のための実践力を十分獲得している。（思考・判断・表現） 5．美術作品についての構造的・物質的知識の獲得や運用について積極的になる。（関心・意欲・態度）	1．前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を一通り理解している。（知識・理解） 2．絵画の基底材や色料の調査・分析方法について一通り理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を部分的に獲得している。（知識・理解） 3．文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を一通り身に付けている。（関心・意欲・態度） 4．日本美術史研究のための実践力を部分的に獲得している。（思考・判断・表現） 5．美術作品についての構造的・物質的知識の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（関心・意欲・態度）
日本美術史各論 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を理解する。 日本の絵画が「誰によって」「どのように」作られてきたのか、史料と技法を通じて理解する。宗教絵画、絵巻物、肖像画、風景画など絵画ジャンル毎の制作者と作画手法についての知識を獲得し、絵画制作の実態について理解を深める。講義内容をを通じて、日本美術史研究の実践力を獲得する。	1．前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を十分理解している。（知識・理解） 2．絵画の作り手や作り方に注目し、日本の伝統的な絵画がどうやって作られてきたのかを十分理解している。（知識・理解） 3．時代別の傾向だけでなく、前時代からの影響を踏まえて、制作主体や技法材料の変遷を通覧できる視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度） 4．日本美術史研究のための実践力を十分獲得している。（思考・判断・表現） 5．日本美術史に関する知識の獲得や運用について積極的になる。（関心・意欲・態度）	1．前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を一通り理解している。（知識・理解） 2．絵画の作り手や作り方に注目し、日本の伝統的な絵画がどうやって作られてきたのかを一通り理解している。（知識・理解） 3．時代別の傾向だけでなく、前時代からの影響を踏まえて、制作主体や技法材料の変遷を通覧できる視点をある程度獲得している。（関心・意欲・態度） 4．日本美術史研究のための実践力を部分的に獲得している。（思考・判断・表現） 5．日本美術史に関する知識の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
東洋美術史各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について理解する。また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解する。講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を獲得する。	1．東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について十分理解している。（知識・理解） 2．また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解している。（知識・理解） 3．講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を十分獲得している。（思考・判断・表現） 4．東洋美術史に関する知識の獲得や運用について積極的になる。（関心・意欲・態度）	1．東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について一通り理解している。（知識・理解） 2．また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化などある程度理解している。（知識・理解） 3．講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を部分的に獲得している。（思考・判断・表現） 4．東洋美術史に関する知識の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（関心・意欲・態度）
東洋美術史各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について理解する。また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解する。講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を獲得する。	1．東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について十分理解している。（知識・理解） 2．また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解している。（知識・理解） 3．講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を十分獲得している。（思考・判断・表現） 4．東洋美術史に関する知識の獲得や運用について積極的になる。（関心・意欲・態度）	1．東洋美術史について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について一通り理解している。（知識・理解） 2．また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化などある程度理解している。（知識・理解） 3．講義内容をを通じて、東洋美術史研究の実践力を部分的に獲得している。（思考・判断・表現） 4．東洋美術史に関する知識の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（関心・意欲・態度）
西洋美術史各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	ヨーロッパ美術史の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の芸術家を対象として、その表現形式や方法の展開、図像内容、異なる時代や地域間の影響関係、芸術家相互の影響関係、社会的機能などが作品成立にどのように作用しているか、作品がどのように受容されてきたか、詳細な知識を修得することを目的とする。 また、この授業は美術史の研究方法のあらましを学ぶ意味を合わせ持っている。	①授業で扱われる作品や芸術家に関わる問題についての詳細な知識をもち、的確に説明できる。（知識・理解） ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもち、的確に説明できる。（知識・理解） ③美術史の研究方法について基本的な事柄を理解し、十分に実践することができる。（思考・判断・表現）	①授業で扱われる作品や芸術家に関わる問題についての知識をもっている。（知識・理解） ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもっている。（知識・理解） ③美術史の研究方法について基本的な事柄を理解し、ある程度実践することができる。（思考・判断・表現）
西洋美術史各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	ヨーロッパ美術史の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の芸術家を対象として、その表現形式や方法の展開、図像内容、異なる時代や地域間の影響関係、芸術家相互の影響関係、社会的機能などが作品成立にどのように作用しているか、作品がどのように受容されてきたか、詳細な知識を修得する。 同時に、授業を通じて、美術史の研究方法のあらましを学ぶ。	①授業で扱われる作品や芸術家に関わる問題についての詳細な知識をもち、的確に説明できる。（知識・理解） ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもち、的確に説明できる。（知識・理解） ③美術史の研究方法について基本的な事柄を理解し、十分に実践することができる。（思考・判断・表現）	①授業で扱われる作品や芸術家に関わる問題についての知識をもっている。（知識・理解） ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもっている。（知識・理解） ③美術史の研究方法について基本的な事柄を理解し、ある程度実践することができる。（思考・判断・表現）
デッサン演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	デッサンの目的は突き詰めて言えば「観る力」と「構成力」の養成であり、描写力は結果として身につく能力と言える。従って、俗に言う「デッサン力」とは様々な造形活動の基礎を成すもので、発想や表現に深く関わり、いかなる造形分野においても、表現の大きな支えとなる。この科目ではデッサンⅠの成果を踏まえ、鉛筆デッサンを中心に、細密描写などさらに高度な技術を身につけ、形態把握、質感表現、構成などの表現技術と造形能力を養う。	①形態を正確に把握できる。（思考・判断・表現） ②質感表現ができている。（思考・判断・表現） ③遠近感、量感を表現できている。（思考・判断・表現） ④トーンの階調が美しく調和している。（思考・判断・表現） ⑤描写力、構成力が向上し細密描写が可能になる。（思考・判断・表現）（技能） ⑥構成力が身につき、造形表現能力が向上する。（思考・判断・表現） ⑦最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑧次の作品に繋がる改善点を見つけることができる。（関心・意欲・態度）	①形態を把握できる。（思考・判断・表現） ②質感表現を意識している。（思考・判断・表現） ③遠近感、量感を意識している。（思考・判断・表現） ④トーンの階調の幅が増えている。（思考・判断・表現） ⑤描写力、構成力が向上し細密描写を試みることができる。（思考・判断・表現）（技能） ⑥構成力が身につき、造形表現能力が向上する。（思考・判断・表現） ⑦最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践）
絵画演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	絵画演習Ⅰの成果を踏まえ、さらに油彩表現の基礎の習熟を目指す。 油彩画の基本を高度に獲得する。 個々の自由な発想による表現を実現するために基礎を確立し応用技術の習得を試みる。	①画材の基礎知識（絵の具、筆、パレット、ペインティングナイフ、溶剤などの扱い）を習得し、自分なりに実践、説明ができる。（知識・理解） ②油彩絵の具に慣れ、不透明色、透明色を使い分け、厚塗り、薄塗りを駆使できる。（思考・判断・表現）（技能） ③油彩画の基礎知識と技術をより高度に理解し説明ができる。（知識・理解） ④色彩表現、特にバルールを深く理解し、詳しく説明ができる。（思考・判断・表現）（知識・理解） ⑤形態を正確に描写できる。（思考・判断・表現）（技能） ⑥遠近感、量感、質感を表現できる。（思考・判断・表現）（技能） ⑦作画意図に沿った適切な構成ができる。（思考・判断・表現） ⑧最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑨次の作品に繋がる改善点を見つけることができる。（関心・意欲・態度）	①画材の基礎知識（絵の具、筆、パレット、ペインティングナイフ、溶剤などの扱い）を習得し、実践、説明ができる。（知識・理解） ②油彩絵の具に慣れ、不透明色、透明色を使い分け、厚塗り、薄塗りを駆使できる。（思考・判断・表現）（技能） ③油彩画の基礎知識と技術を理解し説明ができる。（知識・理解） ④色彩表現、特にバルールを理解し、説明できる。（知識・理解） ⑤形態をある程度正確に描写できる。（思考・判断・表現）（技能） ⑥遠近感、量感、質感を表現しようと努力している。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
彫刻演習Ⅱ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	「彫刻演習Ⅰ」において身につけた基礎的な立体造形技法を基に、さらに高度な表現力の修得と、彫刻で用いられる素材の理解を目標とする。塑造（水粘土のモデリング）を中心として取り組み、テラコッタや錫への素材転換を通して、彫刻制作における素材と表現の関係について理解を深める。授業全体を通じて塑造の特質をより深く体得できるよう指導する。 前期はテラコッタ作品の制作と錫による小作品制作を、後期は人体モデル半身像の塑造制作を行う。 また各自の制作した作品についてディスカッションを交えて講評を行う。	（塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素について、それらの関係を自作における具体例を示しながら、また表現との関連を交えて説明できる。　（知識・理解） （モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素が充実した彫刻表現を自覚的に行うことができる。　（思考・判断・表現） テラコッタの技法上の留意点と素材としての特性、また彫刻表現との関係性について十分に理解し、制作することができる。　（知識・理解）（思考・判断・表現） シリコンを用いた型取りの技法について十分に理解し、実践することができる。　（技能） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュし、視覚化することで、文字の日記やメモとは違った自己の思考や興味等の視覚的再認識をすることができる。　（思考・判断・表現）	（塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素について、自作における具体例を示すことができる（知識・理解） （モチーフ・モデルを対象とした塑造制作を通して）人体の有機的な関係（骨格と筋肉）、均衡（バランスとプロポーション）、動勢（ムーブマン）、量感（マッス）、空間把握などの彫刻を構成する諸要素を意識した彫刻表現ができる。　（思考・判断・表現） テラコッタの技法上の留意点と素材としての特性について理解し、制作することができる。　（知識・理解）（思考・判断・表現） シリコンを用いた型取りの技法の基礎を理解し、実践することができる。　（技能） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュすることができる。　（思考・判断・表現）
絵画技法基礎演習	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	絵画表現に於ける基礎理論と技法を学び、表現力および受容と理解能力の深化、高度化に資することを目的とする。絵画造形理論、色彩理論、図学などの基礎理論に加え、鉛筆～油彩、アクリルエマルジョンなど多様な描材の解説と、水彩、パステル、混合技法、油彩などの実習、キャンバスや紙、板など支持体研究を通して、絵画の構成要素と原理を学ぶ。	①視覚認知、錯視のメカニズムの概要を理解し、説明できる。（知識・理解） ②黄金分割を理解し説明でき、実際の造形表現に応用できる。（知識・理解）（制作実践） ③幾何学図形の作図ができる。（知識・理解）（制作実践） ④透視図法を理解し、作図、説明できる。（知識・理解）（制作実践） ⑤5種の遠近法を理解し、表現に応用、説明ができる。（知識・理解） ⑥色彩理論の概要を理解し、絵画表現に応用、説明ができる。（知識・理解）（制作実践） ⑦造形理論を理解し、表現に応用、説明ができる。（知識・理解）（制作実践） ⑧材料学の基礎的知識を理解し、説明ができる。（知識・理解） ⑨絵画の古典技法、表現形式や表現材料などを理解し、説明ができる。（知識・理解） ⑩写真撮影の基礎を理解し、説明、実践できる。（知識・理解）（技能） ⑪モダンメチエを実践し多様な視覚要素を発見できる。（思考・判断・表現） ⑫発想から表現のプロセスを理解しそれに沿ってドローイング制作まで実践できる。（知識・理解）（制作実践） ⑬絵画技法、表現形式や表現材料、造形理論等の研究を通し、絵画の基本要素と原理を充分理解し、表現に応用できる。（知識・理解）（制作実践）	①視覚認知、錯視のメカニズムを理解する。（知識・理解） ②黄金分割を理解し、実際の造形表現に応用を試みる。（知識・理解） ③幾何学図形の作図ができる。（知識・理解）（制作実践） ④透視図法を理解し、作図、説明できる。（知識・理解）（制作実践） ⑤5種の遠近法を理解し、表現に応用、説明ができる。（知識・理解） ⑥基本的色彩理論を理解し、表現に応用、説明ができる。（知識・理解）（制作実践） ⑦造形理論を理解できる。（知識・理解） ⑧材料学の基礎的知識を理解できる。 ⑨絵画の古典技法、表現形式や表現材料などを理解できる。（知識・理解） ⑩写真撮影の基礎を理解できる。（知識・理解） ⑪モダンメチエを実践し多様な視覚要素の発見できる。（思考・判断・表現） ⑫発想から表現のプロセスを理解し、実践できる。（知識・理解）（制作実践） ⑬絵画制作に必要な絵画技法、表現形式や表現材料、造形理論等の絵画の基本要素と原理を理解できる。（知識・理解）
造形芸術演習 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	概論、演習、各論において知識や技能を修得したのち、さらに専門領域の知識を深め、研究の方法を確実に身につける。資料調査、文献購読、作品の記述、アトリビューションの方法を理解する。研究発表、レポートの作成、美術館・博物館の見学によって研究能力を身につける。	①文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（技能） ②文献資料を理解し、内容を詳細に説明することができる。（技能） ③作品記述・アトリビューションが十分にできる。（技能） ④研究発表、レポートの作成が的確にできる。（思考・判断・表現）	①文献資料や作品について、文献やインターネットで十分に調査することができる。（技能） ②文献資料を理解し、内容を説明することができる。（技能） ③作品記述・アトリビューションができる。（技能） ④研究発表、レポートの作成ができる。（思考・判断・表現）
造形芸術演習B	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	1	研究の方法を確実に身につけた上で、卒業論文執筆の準備として、資料収集・整理の方法、批判的読解能力の向上、テーマの発想法、論文執筆の具体的方法を確実に身につけ、研究能力を向上させる。	①各種の資料調査・収集・整理が十分にできる。（技能） ②文献資料を批判的に読解し、内容を説明することが十分にできる。（技能） ③作品を批判的に観察し、問題点を引き出すことが十分にできる。（技能） ④高度な研究発表、レポート作成が十分にできる。（思考・判断・表現）	①各種の資料調査・収集・整理ができる。（技能） ②文献資料を批判的に読解し、内容を説明することができる。（技能） ③作品を批判的に観察し、問題点を引き出すことができる。（技能） ④高度な研究発表、レポート作成ができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
デザイン論 A	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	Aではデザインの誕生から20世紀前半を対象とし、デザインとは何であるか、デザインという領域がどのように形成され展開してきたか、美術の他の領域とどのような関係にあるか、経済活動や社会との関係はどのようなものか、デザイナーたちはデザインによって何を表現しようとしてきたのか、あるいはそもそもデザインとは表現たり得るのか、といった多岐にわたる問題について詳細な考察を行い、デザインについて理解する。とりわけ、われわれ自身の生活との関わりにおいて批判的に捉えることを重視する。	①20世紀前半までのデザインについて詳細な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について詳細な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ③デザインの生活にとっての意義について深く考察し、研究発表、レポート作成ができる。（思考・判断・表現）	①20世紀前半までのデザインについて基本的な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について基本的な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ③デザインの生活にとっての意義について考察し、研究発表、レポート作成ができる。（思考・判断・表現）
デザイン論 B	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	2	Bでは、Aを受けて20世紀後半から21世紀を対象とし、デザインとは何であるか、デザインという領域がどのように形成され展開してきたか、美術の他の領域とどのような関係にあるか、経済活動や社会との関係はどのようなものか、デザイナーたちはデザインによって何を表現しようとしてきたのか、あるいはそもそもデザインとは表現たり得るのか、といった多岐にわたる問題について詳細な考察を行い、デザインについて理解する。とりわけ、われわれ自身の生活との関わりにおいて批判的に捉えることを重視する。	①20世紀前半までのデザインについて詳細な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について詳細な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ③デザインの生活にとっての意義について深く考察し、研究発表、レポート作成ができる。（思考・判断・表現）	①20世紀前半までのデザインについて基本的な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について基本的な知識を持ち、説明ができる。（知識・理解） ③デザインの生活にとっての意義について考察し、研究発表、レポート作成ができる。（思考・判断・表現）
絵画演習Ⅲ A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	3	絵画Ⅰ、ⅡおよびデッサンⅠ、Ⅱの成果を踏まえ、基礎および基本の確立を目指す。同時に表現力のさらなる向上および創造性の深化充実をはかり、絵画卒業制作の充実と質的向上に資することを目的とする。 絵画表現における発想からイメージの展開など構想の段階および作品制作の各プロセスにおいて必要とされる知識および技術の習得。同時にそれらに対応するのに必要な描材、支持体の研究を通して、油彩を中心とする絵画表現に必要な表現技術の習得および100号など大作にも対応可能な能力を養成する。	①静物油彩を完成させ、描き込みができる。（制作実践）（関心・意欲・態度） ②発想から表現、作品の完成までの計画を練ることができる。（思考・判断・表現） ③各プロセスにおける様々な事態に適切に対処できる。（思考・判断・表現） ④シェイプトキャンバスを完成させることができる。（関心・意欲・態度）（制作実践） ⑤制作意図を端的に説明でき、正確に自己評価ができる。（思考・判断・表現） ⑥最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑦次の作品に繋がる改善点を見つけることができ説明ができる。（関心・意欲・態度）	①静物油彩を完成させる。（制作実践）（関心・意欲・態度） ②発想から表現、作品の完成までの計画を練ることができる。（思考・判断・表現） ③各プロセスにおける様々な事態に対処できる。（思考・判断・表現） ④シェイプトキャンバスを完成させることができる。（制作実践） ⑤制作意図を端的に説明できる。（思考・判断・表現） ⑥最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑦次の作品に繋がる改善点を見つけることができる。（関心・意欲・態度）
絵画演習Ⅲ B	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	3	大作（100号）を制作する。 絵画ⅢAの成果を踏まえ、自由な発想に基づき創作を試みる。	①表現に必要なスケッチなど資料の作成、収集し、制作計画を立てるなど準備ができる。（思考・判断・表現）（技能） ②100号のキャンバス張りができる。（技能） ③実制作の各プロセスにおいて、様々な事態に的確な対応ができる。（思考・判断・表現） ④大作（100号）を高密度、高レベルで完成させることができる。（制作実践）（技能） ⑤制作意図を端的に説明でき、正確に自己評価ができる。（思考・判断・表現） ⑥最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑦次の作品に繋がる改善点を見つけることができ説明ができる。（関心・意欲・態度）	①表現に必要なスケッチなど資料の作成、収集し、制作計画を立てるなど準備ができる。（思考・判断・表現）（技能） ②100号のキャンバス張りができる。（技能） ③大作（100号）を完成させることができる。（制作実践）（技能） ⑤制作意図を説明でき、自己評価ができる。（思考・判断・表現） ⑥最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ⑦次の作品に繋がる改善点を見つけることができる。（関心・意欲・態度）
彫刻演習Ⅲ A	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	3	原則として彫刻演習Ⅰ・Ⅱ履修した者を対象に、彫刻演習Ⅰにおいて身につけた基礎的な立体造形技法と彫刻演習Ⅱでの空間把握及び立体造形の応用をもとに、さらに高度な立体の表現力を身につけることを目標とする。本授業では、木彫を主に行い実材での彫刻制作に挑む	木（樟）という素材の彫刻用材としての特質、扱い方について具体的な例をあげながら説明することができる。　（知識・理解） 鋸、叩き鑿、彫刻刀をはじめとして道具を安全かつ、表現上適切に使用することができる。　（技能） 木彫の制作プロセスについて十分に理解し、表現（現れるフォルム）との関係に意識を置きながら密度の高い作品を制作することができる。　（思考・判断・表現） 彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱで体得したモデリングによる造形との関係性（差異・共通点）に気付き、自作における具体例を挙げながら説明することができる。　（思考・判断・表現） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュし、視覚化することで、文字の日記やメモとは違った自己の思考や興味等の視覚的再認識をすることができる。　（思考・判断・表現）	木（樟）という素材の扱い方について基本的な説明ができる。　（知識・理解） 鋸、叩き鑿、彫刻刀をはじめとして道具を安全に使用することができる。　（技能） 木彫の制作プロセスについて理解し、作品を制作することができる。　（思考・判断・表現） 彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱで体得したモデリングによる造形との関係性（差異・共通点）に気付くことができる。　（思考・判断・表現） （スクラップブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュすることができる。　（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
彫刻演習ⅢB	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	3	原則として彫刻演習Ⅰ・Ⅱ履修した者を対象に、彫刻演習Ⅰにおいて身につけた基礎的な立体造形技法と彫刻演習Ⅱでの空間把握及び立体造形の応用をもとに、さらに高度な立体の表現力を身につけることを目標とする。本授業では「重心」をテーマとして塑造制作（人物立像）をに取り組む	彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱにおいて体得した内容（彫刻を構成する諸要素に対する理解と実践）を前提として、人体全身の筋肉・骨格、プロポーションを十分に観察・理解し、密度の高い作品を生み出すことができる。（思考・判断・表現） モデルの重力に対する在り様と重心を捉え、自作において十分に表現することができる　（思考・判断・表現）（技能） （スクラッププブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュし、視覚化することで、文字の日記やメモとは違った自己の思考や興味等の視覚的再認識をすることができる。　（思考・判断・表現）	彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱにおいて体得した内容（彫刻を構成する諸要素に対する理解と実践）を前提として、人体全身の筋肉・骨格、プロポーションを観察し、作品に還元できる。（思考・判断・表現） モデルの重力に対する在り様と重心に気付き、自作において意識的に還元することができる　（思考・判断・表現）（技能） （スクラッププブックの作成を通して）日々の生活で気になったビジュアルイメージ（広告・雑誌の切り抜き等）や生活の記録（観覧券・切符・領収書等）など、無意識に行う「選択」を収集・ランダムにコラージュすることができる。　（思考・判断・表現）
造形表現演習	文芸学部　専門分野Ⅱ	3	4	○絵画 絵画演習Ⅰ・Ⅱおよびデッサン演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、基礎および基本の確立を目指す。同時に表現力のさらなる向上および創造性の深化充実をはかり、絵画卒業制作の充実と質的向上に資することを目的とする。 発想からイメージの展開など構想から作品制作の各プロセスにおいて必要とされる知識および技術の習得する。後期は前期の成果を踏まえ自由制作として100号を制作する。 ○彫刻 原則として彫刻演習Ⅰ・Ⅱ履修した者を対象に、彫刻演習Ⅰにおいて身につけた基礎的な立体造形技法と彫刻演習Ⅱでの空間把握及び立体造形の応用をもとに、さらに高度な立体の表現力を身につけることを目標とする。前期は木彫を主に行い実材での彫刻制作に挑み、後期は「重心」を テーマとして塑造制作(人物立像)に取り組む	○絵画 ①基礎を踏まえ基本の確立を目指す意識を持つことができる。（制作実践）（関心・意欲・態度） ②発想から表現、作品の完成までの計画を練り、実践することができる。（思考・判断・表現） ③各プロセスにおける様々な事態に適切に対処できる。（思考・判断・表現） ④制作意図を端的に説明でき、正確に自己評価ができる。（思考・判断・表現） ⑤次の作品に繋がる改善点を見つけることができ説明ができる。（関心・意欲・態度） ○彫刻 ①彫刻素材としての木の特質、扱い方について具体的な例をあげながら説明することができる。(知識・理解) ②道具を安全かつ、表現上適切に使用することができる。（技能） ③木彫の制作プロセスについて十分に理解し、現れるフォルムとの関係に意識を置きながら密度の高い作品を制作することができる。（思考・判断・表現） ④塑造と木彫の造形的な関係性(差異・共通点)に気付き、自作における具体例を挙げながら説明することができる。（思考・判断・表現） ⑤彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱにおいて体得した内容（彫刻を構成する諸要素に対する理解と実践）を前提として、人体の筋肉、骨格、プロポーションを十分に観察・理解し、密度の高い作品を生み出すことができる。（思考・判断・表現） ⑥モデルの重力に対する在り様と重心を捉え、自作において十分に表現することができる　（思考・判断・表現）（技能） ⑦日々の生活で気になったビジュアルイメージや記録など、無意識に行う「選択」を収集、コラージュすることで、自己の思考や興味を視覚的に認識することができる。（スクラッププブックの作成）（思考・判断・表現）	○絵画 ①基礎の持つ意味が理解できる。（制作実践）（関心・意欲・態度） ②発想から表現、作品の完成までの計画を練ることができる。（思考・判断・表現） ③各プロセスにおける様々な事態にある程度対処できる。（思考・判断・表現） ④制作意図に基づき、自己評価ができる。（思考・判断・表現） ⑤次の作品に繋がる改善点を考えることができ、制作意図を説明できる。（思考・判断・表現） ⑥最後まで作品のレベルを高めようとしている。（制作実践） ○彫刻 ①彫刻素材としての木の特質について基本的な説明ができる。(知識・理解) ②道具を安全に使用することができる。（技能） ③木彫の制作プロセスについて理解し、作品を制作することができる。（思考・判断・表現） ④塑造と木彫の造形的な関係性(差異・共通点)に気付くことができる。（思考・判断・表現） ⑤彫刻演習Ⅰ、彫刻演習Ⅱにおいて習得した内容(彫刻を構成する諸要素に対する理解と実践)を前提として、人体の筋肉、骨格、プロポーションを観察し、作品に還元できる。(思考・判断・表現) ⑥モデルの重力に対する在り様と重心に気付き、作品に還元することができる (思考・判断・表現)(技能) ⑦日々の生活で気になったビジュアルイメージや生活の記録など、無意識に行う「選択」を収集しコラージュすることができる。（スクラッププブックの作成）（思考・判断・表現）
工芸演習（木工芸・陶芸）	文芸学部　専門分野Ⅱ	2	4	木工芸においては、板材を用いて与えられた材料の範囲内で指物や刳物の技法を使い器物を制作する。進み具合に応じて小形刃物や工具類の扱い方を学ぶ。最後に美観と保護のための塗装を施す。 　陶芸においては、土練り（荒練り・菊練り）から始める。成形方法としての手作り法（紐作り法・板作り法）を学び、器を制作する。素焼き後、下絵付けをして、釉薬を掛け、本焼を行う。後期には「鍋島」の図案について研究し、自作の素焼き皿に「写し」を行う。	木の性質や美しさを体感し、美術工芸におけるそれらの意義を具体的に説明することができる。（知識・理解） 「切る、彫る、組み立てる」という木材の基本的な加工を安全かつ適切に行い、密度の高い作品を制作することができる。（技能）（思考・判断・表現） 土の特性や作陶における技術、やきものの基礎・基本的な内容を十分に理解し、制作において反映し、密度の高い作品を制作することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 「作る喜び」「手仕事」「心豊かな暮らし」といった観点から人と工芸のかかわりについて思考し、具体的な例を挙げながら示すことができる。（関心・意欲・態度）	木の性質や美しさについて基本的な知識を述べることができる。（知識・理解） 「切る、彫る、組み立てる」という木材の基本的な加工を安全かつ適切に行うことができる。（技能）（思考・判断・表現） 土の特性や作陶における技術、やきものの基礎・基本的な内容を理解し、作品を制作することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 「作る喜び」「手仕事」「心豊かな暮らし」といった観点に立ち、自身の意見を示すことができる。（関心・意欲・態度）
卒業論文・卒業制作ゼミナール	文芸学部　専門分野Ⅱ	4	2	この授業では、卒業論文執筆のための指導が行なわれる。論文執筆に際しての、基本的な事項、方法、手順、調査方法について、個々の学生の研究対象に即して指導がなされる。卒業制作についても、執筆または制作の心構え、準備、方法について、指導が行われる。いずれの場合も執筆・作成の過程で随時指導・助言がなされる。卒業論文・制作がどれだけ実り多いものになるかは、この授業への（授業までの準備の）取り組みにかかっているので、積極的に参加することが求められる。	1．卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、十分に実践できるようになる。（知識・理解）（技能） 2．規定に則り、諸形式を十分に遵守した上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。（知識・理解）（技能）（技能） 3．卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、独自の創意と論理を十分に示すことができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1．卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、ある程度実践できるようになる。（知識・理解）（技能） 2．規定と諸形式をある程度守った上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。（知識・理解）（技能） 3．卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、独自の創意と成果をある程度示すことができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
卒業論文・卒業制作	文芸学部　専門分野Ⅱ	4	6	卒業論文・卒業制作ゼミナールを参照すること。	1．卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、十分に活用できる。（知識・理解）（技能） 2．規定に則り、諸形式を十分に遵守した上で、卒業論文・卒業制作を完成・提出することができる。（知識・理解）（技能） 3．卒業論文・卒業制作において独自の創意と成果を十分に示すことができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1．卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、ある程度活用できる。（知識・理解）（技能） 2．規定と諸形式をある程度守った上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。（知識・理解）（技能） 3．卒業論文・卒業制作において独自の創意と成果をある程度示すことができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
英米文学研究 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	英語という使用言語は同じでも、英米両国は国の成立の歴史を異にし、風土を異にし、それゆえに生活様式が違う。受講学生には、まず、このような両国の相違を念頭に入れて、それぞれの時代の両国の文学の特質を考えることの重要性を認識させる。アメリカ文学や文化の「現在」の有り様を理解するために不可欠な「歴史的なパースペクティヴ」を持ち、知的関心を喚起する。	1.歴史的・地理的・社会的・文化的文脈を理解した上で、個別の作家や作品に関する理解を深めることができる。（知識・理解） 2.個別の作家や作品に関して、自分自身の問題意識を持って読み解き、批評的な意見を表現することができる。（思考・判断・表現）	1.個々のアメリカ作家や作品の持つ特徴を、歴史的・地理的・社会的・文化的文脈で理解できる。（知識・理解） 2.主体的に個々の作品を読み、作家や作品に対する関心を深めることができる。（関心・意欲・態度）
英米文学研究 B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	イギリス文学に関する一般的な事項は英米文学概論Bで扱っているので、英米文学研究Bでは個々の作品とそれらが生まれた時代がどのような繋がりを持つかを踏まえ、イギリス文学の流れを概観する。文学作品を、執筆された時代背景の中で理解することの重要性に対する学生の関心を喚起し、イギリス文学の特質について体系的かつ総合的な知識と理解を得ることを目標とする。	1.歴史的・地理的・社会的・文化的文脈を理解した上で、個別の作家や作品に関する理解を深めることができる。（知識・理解） 2.個別の作家や作品に関して、自分自身の問題意識を持って読み解き、批評的な意見を表現することができる。（思考・判断・表現）（関心・意慾・態度）	1.歴史的・地理的・社会的・文化的文脈をある程度、理解し、個別の作家や作品に向き合うことができる。（知識・理解） 2.個別の作家や作品に関して、自分自身の問題意識を持って読み解き、何らかの意見を表現することができる。（思考・判断・表現）（関心・意慾・態度）
舞踊論 A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	伎楽、雅楽から、能、狂言、歌舞伎、邦楽、文楽、宝塚歌劇などの歴史をたどり、芸能における舞踊の様々な表現と意味について考察を行なう。最先端の創作にも触れながら、現代における伝統の意義と創作の価値、その評価・審美の判断基準、舞踊の見方など、日本舞踊を題材として、そこに顕われてくる美意識・日本文化の姿を考察する。	1.舞踊や歌舞伎、それにまつわる舞台総合芸術から、古来より日本人が表現しようとした文化、美意識を考察できるようになる。（思考・判断・表現） 2.日本の古典芸能を更に楽しむ視点を修得出来るようになる。（関心・意欲・態度）（知識・理解）	様々な日本の舞踊を鑑賞し、その技術や仕組、工夫などを基礎知識として得ることが出来る。（知識・理解）
文芸英語	文芸学部　専門基礎分野	2	2	英語の4技能をバランスよく上達させつつも、「読んで、考える」ことを重視する文芸学部に所属する学生として、英語で書かれた文章をていねいに読む態度を身につけることをめざす。どの領域・専修に進んでも、領域および専修に関連する英語で書かれた文献は多数存在する。それらを辞書の助けを借りながら、自力で読めるようになれば、領域・専修における学修がさらに有意義なものになるはずである。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1. 英語の4技能をバランスよく十分に上達させることができる。（技能）　2. 英語で書かれた文章をていねいに読むことで、書き手の言いたいことを完全に正しく理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）　3. 自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に十分に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語の4技能をバランスよく上達させることができる。（技能）　2. 英語で書かれた文章をていねいに読むことで、書き手の言いたいことを最低限理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）　3. 自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
文芸フランス語	文芸学部　専門基礎分野	2	2	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部に所属する学生として、フランス語の４技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容（講読、会話、文法、作文、検定試験対策等）のトレーニングを行う。フランス語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とフランス語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1．フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）　2．フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）　3．フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（思考・判断・表現）	1．フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。（知識・理解）（技能）　2．フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。（知識・理解）（技能）　3．フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。（思考・判断・表現）
文芸中国語	文芸学部　専門基礎分野	2	2	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部に所属する学生として、中国語の４技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容（講読、会話、文法、作文、検定試験対策等）のトレーニングを行う。中国語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化と中国語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1．中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）　2．中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）　3．中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（思考・判断・表現）	1．中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。（知識・理解）（技能）　2．中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。（知識・理解）（技能）　3．中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸ドイツ語	文芸学部　専門 基礎分野	2	2	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部に所属する学生として、ドイツ語の４技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容（講読、会話、文法、作文、検定試験対策等）のトレーニングを行う。ドイツ語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とドイツ語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	１．ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）２．ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（知識・理解）（技能）３．ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（思考・判断・表現）	１．ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。（知識・理解）（技能）２．ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。（知識・理解）（技能）３．ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。（思考・判断・表現）
文芸日本語（留学生対象）	文芸学部　専門 基礎分野	2	2	文芸学部で学修するのに必要な日本語力を身につける	1. 日本語で書かれた文学作品を自力で正確に読めるようになる。（技能）　2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で正確に読める。（知識・理解）　3. 演習などで、日本語で流暢に口頭発表することができる。（思考・判断・表現）　4. 日本語で卒業論文を豊かな表現力で執筆できる。（思考・判断・表現）	1. 日本語で書かれた文学作品を自力で読めるようになる。（技能）　2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で読める。（知識・理解）　3. 演習などで、日本語で口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 4. 日本語で卒業論文を執筆できる。（思考・判断・表現）
基礎英文法	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	どの領域・専修に進んでも、英語で書かれた文献を読む機会がある。そのためには、土台となる英語力、特に英文法の知識が不可欠である。たとえば、品詞に関する知識がないと文構造がわからないし、文構造がわからないと、文意を理解することはできない。英語の基礎的な文法規則を復習し、単純な英文だけでなく、やや複雑な文構造を持った英文でも自力で読めるようになることをめざす。	基礎的な英文法の規則に則って、大学生が読まなければならない英文を完全に正しく読むことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	基礎的な英文法の規則に則って、大学生が読まなければならない英文を最低限正しく読むことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
英語リスニング演習Ⅰ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	音声レベルでのコミュニケーションは、話し手と聞き手で成り立つ。そのうち、聞き手側の英語リスニング力の育成をめざす。そのためには、英語にはどのような音があるのか、音と音が結びつくとどのように音変化を起こすのか、英語の強弱リズムとはどういうものなのか、イントネーションと意味の関係はどのようになっているのか、など、音声学の基本的な知識を身につける必要がある。基本的な英語リスニングの練習を多数行うと共に、音声学の基本的な知識も身につける。	1. やさしい英文を音声で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 2. 英語音声学の基本的な事柄について、他者に十分に説明することができる。（知識・理解）	1. やさしい英文を音声で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 2. 英語音声学で扱う基本的な事柄について、他者に最低限説明することができる。（知識・理解）
英語リスニング演習Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	2	1	「英語リスニングⅠ」で基本的な英語リスニング力の育成を行い、かつ、音声学の基本的な知識を身にみにつけたのを受けて、「英語リスニングⅠ」より聞き取りが難しい英語が聞き取れるようになるように多数練習する。聞き取りが難しい英語とは、用いられている単語が基本単語に限られていない場合、文が長い場合、やや複雑な文構造を持っている場合、話す速さが速い場合、文章の背景にある百貨的な知識に依存する割合が高い英語などである。ある程度まとまった内容の英語の文章を聞き取って、話し手の言いたいことを的確に把握できるようになる練習に重点を置く。	1. やや高度な英文を音声で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）　2. 英語音声学の包括的な事柄について、他者に十分に説明することができる。（知識・理解）	1. やや高度な英文を音声で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）　2. 英語音声学で扱う包括的な事柄について、他者に最低限説明することができる。（知識・理解）
英語スピーキング演習Ⅰ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	初歩的な英語会話ができるようになることをめざす。そのためには、(1) 読めばわかる単語（受信用語彙）のみならず、自分が自由に使いこなせる単語（発信用語彙）を増強すること、(2) 語と語のつながり（コロケーション）の知識をふやすこと、(3) 英語の基本的な文法形式に慣れること、(4) 相手の英語を正確に聞き取って内容を正しく理解できること、などの言語的能力のみならず、(5) 場面にふさわしい適切な話題を見つけられること、(6) 臆せず相手と会話できる社交性、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語 (lingua franca) としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、会話の相手が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語会話を見直す態度も大切である。	1. 自信を持って英語で会話することができる。（技能） 2. 相手の英語を正しく聞き取って、その内容を正確に理解することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. その場にふさわしい話題を、素早く見つけることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語で最低限の会話することができる。（技能） 2. 相手の英語を聞き取って、その内容をおおよそ理解することができる。（知識・理解） 3. その場にふさわしい話題を見つけることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語スピーキング演習Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	2	1	本科目の目的は、「英語スピーキング演習Ⅰ」のそれと同一である。「英語スピーキング演習Ⅰ」より高度な英語会話力を身につけることをめざす。	1.　淀みなく英語で会話することができる。（技能）　2. 会話の流れを崩すことなく、相手の英語を聞き取って、その内容を正確に理解することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　3. 会話に必要な百貨的知識が豊富で、その知識を活用することにより、その場にふさわしい話題を、素早く見つけることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1.　会話の流れを止めることなく、英語で会話することができる。（技能）　2. 相手の英語を聞き取って、その内容を理解することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）3. 会話に必要な百貨的知識を持ち、その知識を活用することにより、その場にふさわしい話題を見つけることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語ライティング演習Ⅰ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	基本的な英語を用いて、自分の言いたいことを書けるようになることをめざす。そのためには、(1) 読めばわかる単語（受信用語彙）のみならず、自分が自由に使いこなせる単語（発信用語彙）を増強すること、(2) 語と語のつながり（コロケーション）の知識をふやすこと、(3) 英語の基本的な文法形式に慣れること、などの言語的能力のみならず、(5) 自分が言いたい（書きたい）ことを頭の中できちんと整理できること、(6) 自然な流れを崩さず（すなわち論理的に）自分の言いたいことを読者に伝えられるような文章が書けること、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語 (lingua franca) としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、読者が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英作文を見直す態度も大切である。	1.　自信を持って英語で文章を書くことができる。（技能） 2.　常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3.　大学生としてふさわしい話題を持っており、その知識を活用して英語で文章を書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1.　英語で文章を書くことができる。（技能） 2.　読みやすい文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3.　大学生としてふさわしい内容の文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
英語ライティング演習Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	2	1	本科目の目的は、「英語ライティング演習Ⅰ」のそれと同一である。「英語ライティング演習Ⅰ」より高度な英作文力を身につけることをめざす。	1.　自信を持って、世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。（技能）　2.　常に読者を意識して、自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）　3. 大学生としてふさわしい話題を豊富に持っており、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1.　世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。（技能）　2. 自分の言いたいことが読者に伝わるように意識しながら、英語で文章を書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）3. 大学生としてふさわしい話題を持っており、その知識を活用して英語で文章を書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
資格英語Ⅰ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	本科目の目的は、大きく2つある。(1) 各種の英語検定試験の受験準備をすること。(2) 実際に検定試験を受験する・しないにかかわらず、検定試験の問題を解くことで、自分の英語力をさらに高めていくこと。「資格英語Ⅰ」では、各種の英語検定試験のうち、比較的レベルの低い段階の合格やスコアを獲得することをめざす。検定試験によって出題内容や出題傾向が大きく異なっているので、特定の検定試験に限定することなく、できるだけ普遍的に受験対策ができるように練習を積むことになる。また、単純に正解・不正解で終わりとせず、不正解となっている解答（選択肢など）について、なぜそれが許容されないのかという疑問を持ち、その疑問を自ら解決するような態度も大切である。	1. 各種の英語検定試験のうち、たとえば実用英語技能検定（通称「英検」）であれば準2級程度、TOEIC であれば550点程度の合格・スコアを獲得することができる。（技能） 2. 不正解となっている解答（選択肢など）について、それがなぜ不正解となっているのかを、十分に他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 各種の英語検定試験のうち、たとえば実用英語技能検定（通称「英検」）であれば準2級程度、TOEIC であれば550点程度の合格・スコアをめざして受験することができる。（技能） 2. 不正解となっている解答（選択肢など）について、それがなぜ不正解となっているのかを、最低限他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
資格英語Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	2	1	本科目の目的は、「資格英語Ⅰ」のそれと同一である。そして、「資格英語Ⅰ」より高い段階の合格やスコアを獲得することをめざす。試験では正解・不正解を明確に区別することになる。しかし、人間の言語運用は実際にはかなり柔軟なものである。試験では不正解となっている解答（選択肢など）であっても、実際の言語使用の場面で許容されているということはないかという疑問を持ち、その疑問を自ら解決するような態度もきわめて大切である。	1. 各種の英語検定試験のうち、たとえば実用英語技能検定（通称「英検」）であれば2級以上、TOEIC であれば600点以上の合格・スコアを獲得することができる。（技能）　2. 不正解となっている解答（選択肢など）について、実際の言語運用と比較しながら、容認度について十分に他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 各種の英語検定試験のうち、たとえば実用英語技能検定（通称「英検」）であれば2級以上、TOEIC であれば600点以上の合格・スコアをめざして受験することができる。（技能）　2. 不正解となっている解答（選択肢など）について、実際の言語運用と比較しながら、容認度について最低限他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
フランス語会話Ⅰ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを実感する。「聴くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。簡単なあいさつから始まり、フランス旅行会話や日常会話などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．入門レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を最低限、理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用ができる（技能）。 3．入門レベルのフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。
フランス語会話Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを実感する。「聴くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。フランス旅行会話、日常会話、自己紹介などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を修得済、あるいは同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．入門レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を最低限、理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用ができる（技能）。 3．入門レベルのフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ギリシア語	文芸学部　専門 基礎分野	1	4	古典ギリシア語の初歩文法を学び、古代ギリシアの原典に触れるための足がかりを得ることを目指す授業である。学ぶのは規範性の高い紀元前5～4世紀の都市国家アテーナイで使われていた「アッティカ方言」と呼ばれるギリシア語である。教科書に沿って文法事項を順々に学び、練習問題をこなしながら、その複雑、精緻な文法体系を習得していく。あわせて原典理解に必要な文化的な背景についても理解を深めていく。人文学の諸分野における学修と、人文学の今日的な意義を考える土台を培う。	1. 古典ギリシア語の初歩文法を習得し、運用できる（技能） 2. 古典ギリシア語の原典の理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（知識・理解） 3. 古典ギリシア語が人文学諸分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（思考・判断・表現） 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（思考・判断・表現）	1. 古典ギリシア語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる（技能） 2. 古典ギリシア語の原典理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（知識・理解） 3. 古典ギリシア語の文化的な価値について説明できる（思考・判断・表現）
ラテン語	文芸学部　専門 基礎分野	1	4	ラテン語の基礎文法を学び、辞書を使って簡単なテキストを読める程度のレベルに到達することを目指す授業である。学ぶのは規範性の高い紀元前１世紀の「黄金期」のラテン語である。古代ローマ文化はヨーロッパ文化の源であり、ラテン語はそのローマの遺産の最たるものである。長い間ヨーロッパ文化の中核を担い続けた言葉として、また、ヨーロッパの種々の言語の「親」として、言語、文学、芸術を学ぶ人にとって至るところで必要とされる言語でもある。教科書に沿って文法事項を習得しながら、原典理解に必要な文化的な背景についても理解を深め、人文学の諸分野における学修と、人文学の今日的な意義を考える土台を培う。	1. ラテン語の初歩文法を習得し、運用できる（技能） 2. ラテン語の原典の理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（知識・理解） 3. ラテン語が自分学諸分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（思考・判断・表現） 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（思考・判断・表現）	1. ラテン語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる（技能） 2. ラテン語の原典理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（知識・理解） 3. ラテン語の文化的な価値について説明できる（思考・判断・表現）
CG基礎実習 I	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	Adobe IllustratorおよびPhotoshopを、情報デザインとしての視覚表現に活用する目的をもって、その操作方法を学習する。色彩理論を図解する作図に取り組みながら、CGソフトによる情報デザインの方法を学び、あわせて色彩学基礎の理解をすすめる。デザインを、数理的な秩序によりコントロールする方法を学ぶ。色や形や空間の条件が知覚や心理に及ぼす影響を、作図演習を通して理解し、造形心理学基礎の理解をすすめる。	（１）Adobe Illustrator、Photoshopの操作スキルを身につけ自ら向上させることができる（技能） （２）2DCGとDTPに関する基本的な知識と技術環境を理解できるようになる（技能） （３）情報デザインにおける色彩論と形態論の役割を知っている（知識・理解） （４）2DCGとDTPに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について理解することができる（思考・判断・表現）	（１）Adobe Illustrator、Photoshopの最低限の操作スキルを身につけている（技能） （２）2DCGとDTPに関する基本的な知識と技術環境を理解できるようになる（技能） （３）情報デザインにおける色彩論と形態論の最低限の役割を知っている（知識・理解） （４）2DCGとDTPに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について他者の扶けを得ながら理解することができる（思考・判断・表現）
CG基礎実習 II	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	言葉と色のイメージのつながりを考える配色課題に取り組む。自身が選んだ配色（作った色）の数値を元に視覚情報化する。自身の色彩感覚を視覚情報化し、自身の特徴を活かすカラーデザインを考察する。色彩調和論、配色システムのセオリーを学び、自身の特徴と照合して、色の心理効果を考察する。色そのものだけでなく、形状や空間配置、時間変化などの条件による調和的色彩について学ぶ。さまざまな環境条件による色覚の多様性の現象を知り、ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を学ぶ。Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をあらわす視覚表現を演習する。期末には授業で作成した図に解説と応用制作を加え、マルチメディア電子ブックにまとめる。	（１）色の心理効果と配色理論に見識を持ち、自身の色彩感覚を活かした色彩表現ができるようになる（技能） （２）さまざまな環境条件による色覚の多様性の現象を知り、ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を理解した視覚表現ができるようになる（技能） （３）Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をあらわす視覚表現ができるようになる（技能） （４）情報媒体として合理的なレイアウトデザインができるようになり、マルチメディア電子ブック作成に活かせるようになる（技能）	（１）色の心理効果と配色理論の基本を理解し、最低限の色彩表現ができるようになる（技能） （２）ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を最低限理解し，それに基づく視覚表現ができるようになる（技能） （３）Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をあらわす最低限の視覚表現ができるようになる（技能） （４）情報媒体として基本的なレイアウトデザインができるようになる（技能）
Web基礎実習	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	Webサイト構築のための基礎技術を学ぶと同時にサイトの多様性に合わせたコンテンツ編集能力を身につける。Webの仕組みやサイトの多様性を理解し、「ユーザビリティ」を考慮した上で「ターゲット」「サイトのゴール」の態様に応じたインターフェイスデザインについて学ぶ。また、マルチデバイス対応を含めた最新のWebデザインの潮流も知り、それらを踏まえたWebサイト設計の力をつける。さらに、HTML5及びCSS3の基礎技術や、画像やWeb APIを利用する方法を学び、これらを用いたサイト構築の実践に取り組むことで、コンテンツ編集能力を身につける。	（１）Webサイトの仕組みやサイトの多様性を理解する（知識・理解） （２）Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の態様に応じたインターフェイスデザインについて知っている（知識・理解） （３）Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と潮流について知っている（知識） （４）Webサイトの設計ができる（技能） （５）HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を使える（技能）（６）Webサイトで画像やWeb APIを利用する技術を使える（技能）	（１）Webサイトの仕組みやサイトの多様性を最低限度理解する（知識・理解） （２）Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の態様に応じたインターフェイスデザインについて最低限度知っている（知識・理解） （３）Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と潮流について最低限度知っている（知識） （４）Webサイトの入門的な設計ができる（技能） （５）HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を最低限度使える（技能） （６）Webサイトで画像やWeb APIを利用する入門的技術を使える（技能）
DTP基礎実習 I	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	印刷物の企画から印刷までの全行程について必要な基礎知識を学ぶとともに、DTPの基礎的な技術を習得する。「Illustrator」「Photoshop」を使ってイラスト・写真原稿を制作し、「InDesign」でレイアウト・印刷するまでの実践的な技能を習得し、作品制作ができるようになることを目標とする。サンプルデータを使っての演習に講義をまじえながら、自主制作課題の企画から印刷物作成までの工程に取り組む。最後にその印刷物をもってプレゼンテーションを行う。	(1)印刷物の企画から印刷までの全行程について必要な基礎知識がある（知識・理解） (2)DTPの基礎的な技術を習得している（技能） (3)「Illustrator」「Photoshop」を使ってイラスト・写真原稿を制作することができる（技能） (4)「InDesign」の特徴やDTPにおける役割を理解している（知識・理解） (5)自主制作課題の企画から印刷物作成までの工程に創発的に取り組める（思考・判断・表現） (6)成果について卓越したプレゼンテーションができる(表現) (7)他者の発表を分析的に評価できる（関心・意欲・態度）	(1)印刷物の企画から印刷までの全行程について最低限度の基礎知識がある（知識・理解） (2)DTPの基礎的な技術を習得している（技能） (3)「Illustrator」「Photoshop」を使ってイラスト・写真の初歩的な原稿を制作することができる（技能） (4)「InDesign」の特徴やDTPにおける役割を理解している（知識・理解） (5)自主制作課題の企画から印刷物作成までの工程に指示されたとおりに取り組める（思考・判断・表現） (6)成果のプレゼンテーションが最低限度できる(表現) (7)他者の発表を評価できる（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
DTP基礎実習Ⅱ	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	Adobe inDesignのインターフェイスを通してDTPの基礎ならびに応用を学び、クライアントへのヒアリングから、企画書の起こし方、出力の実務まで、実践的ワークフローを一通り俯瞰する。そして、作品制作に向けた作業を通して、多様な教材資源を活かしながら、言論表出技法の今日的動向を把握する力を涵養する。	(1)Adobe inDesignを通してDTPの基礎・応用技術を理解・活用できる(知識・理解・技能) (2)クライアントへ取材し文章化できる(思考・判断・表現) (3)企画書制作から出力の実務までの実践的ワークフローを一通り俯瞰して制作課題に取り組める（思考・判断・表現） (4)多様な教材資源を活かし編集の協働的実務に取り組める（関心・意欲・態度） (5)著作権処理を理解・実践することができる（知識・理解・思考・判断・表現）	(1)Adobe inDesignを通してDTPの基礎を理解・活用できる(知識・理解・技能) (2)他者の扶けを得ながらクライアントへ取材し文章化できる(思考・判断・表現) (3)企画書制作から出力の実務までの実践的ワークフローを，他者の扶けを得ながら一通り俯瞰して制作課題に取り組める（思考・判断・表現） (4)編集の協働的実務に補助的立場として取り組める（関心・意欲・態度） (5)著作権処理を理解・実践することができる（知識・理解・思考・判断・表現）
DTM・オーディオ基礎実習	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	現在、ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきている。MIDIとオーディオ編集を組み合わせることによって、これらの音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となってきている。本演習では、実際の制作過程を通して、コンピュータを用いた音楽作りの基本から、アレンジの方法等を学ぶ。同時に、オリジナルコンテンツ制作に必要な技術修得を通して、音楽に関する理解を深め、自己表現の可能性を探ることを目標とする。	(1)ポピュラー音楽を始めとして，芸術的創作の領域でも作曲，演奏，録音，編集など，音楽制作における全てのプロセスにおいて，コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する。(知識・理解) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせることによって，音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となってきていることを理解する。(知識・理解) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの基本を理解し，アレンジの方法を身に着けている。(技能) (4)オリジナルコンテンツ制作に必要な技術を修得し，音楽に関する理解を深め，自己表現の可能性を探ることができる。(関心・意欲・態度)	(1)ポピュラー音楽を始めとして，芸術的創作の領域でも作曲，演奏，録音，編集など，音楽制作における全てのプロセスにおいて，コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する。(知識・理解) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせることによって，音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となってきていることを理解する。(知識・理解) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの最低限の技術を理解し，与えられた楽曲のDTMによる演奏ができる。(技能) (4)短いオリジナル楽曲の制作ができる。(関心・意欲・態度)
デジタルビデオ基礎実習	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	動きと時間軸の伴う効果的な伝達メディアとしてのデジタルビデオの可能性を模索する。技術を知ることのみならず、写真や紙媒体では伝え得ない動きによる面白さと、映像作品制作の醍醐味を知ることを目標とする。そのために、デジタルビデオ機器の使用方法と実写映像の編集技法、アニメーションの制作、さらにインターネットやDVDで配布する際のそれぞれに適した扱い方を実践的に学ぶ。また、アニメーションとビデオを融合させる制作方法も習得する。	（１）デジタルビデオ編集技術の基礎知識と基礎技術を獲得している（技能） （２）他のメディア，例えば写真や紙媒体との相違を知識として獲得している（知識・理解） （３）デジタルビデオ機器の使用方法の基礎理解に基づき，実写映像，アニメーション、さらにSNS上の映像作品を制作することができる（技能） （４）アニメーションとビデオを融合させる制作方法も身につけている（技能）	（１）デジタルビデオ編集の最低限の知識と術を獲得している（技能） （２）他のメディア，例えば写真や紙媒体との相違を知識として獲得している（知識・理解） （３）デジタルビデオ機器の使用方法の最低限の理解に基づき，実写映像やアニメーション作品を制作することができる（技能） （４）アニメーションとビデオを融合させる最低限の方法を知っており，適用できる（技能）
プログラミング基礎実習	文芸学部　専門 基礎分野	1	1	プログラミング未経験者のための入門クラスである。初心者でも扱いやすいGUI(グラフィカルユーザインターフェース)環境のもとでのプログラミングを通して、プログラムはどのように動作するのかという基本的な仕組みについて学習し、プログラミングの基礎的な考え方や技術を学ぶ。プログラムの準備から実際の開発作業を身をもって体験することで、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、コンピュータによる問題解決法、情報技術についての理解をすすめようというものである。	(1)コンピュータプログラムとプログラミングの概念を理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) (2)変数，命令，繰り返し，条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し，それを用いて応用的なプログラミングができる。(技能) (3)与えられた問題を解決するためのプログラミングを自らの力で行うことができる。(技能)	(1)コンピュータプログラムとプログラミングの概念を最低限理解している。(知識・理解) (2)変数，命令，繰り返し，条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し，それを用いて基本的なプログラミングができる。(技能) (3)与えられた簡単な問題を解決するためのプログラミングを，他者の扶けを得ながら行うことができる。(技能)
文芸入門A	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、2年次における領域選択の動機付けを行う。具体的には、言語・文学について学ぶために必要な基礎的知識と、言語・文学を分析する観点・方向に関する基礎的技能の修得を目的とする。	１、言語・文学について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） ２、言語・文学を分析する観点・方法に関する基礎的技能が十分に身に付いている。（技能） ３、言語・文学への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。（関心・意欲・態度）	１、言語・文学について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） ２、言語・文学を分析する観点・方法に関する最低限の技能が十分に身に付いている。（技能） ３、言語・文学への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が身に付いている。（関心・意欲・態度）
文芸入門B	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、2年次における領域選択の動機付けを行う。具体的には、芸術について学ぶために必要な基礎的知識と、芸術を分析する観点・方向に関する基礎的技能の修得を目的とする。	１、芸術について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） ２、芸術を分析する観点・方法に関する基礎的技能が十分に身に付いている。（技能） ３、芸術への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。（関心・意欲・態度）	１、芸術について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） ２、芸術を分析する観点・方法に関する最低限の技能が十分に身に付いている。（技能） ３、芸術への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が身に付いている。（関心・意欲・態度）
文芸入門C	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、2年次における領域選択の動機付けを行う。具体的には、文化について学ぶために必要な基礎的知識と、文化を分析する観点・方向に関する基礎的技能の修得を目的とする。世界各地で育まれてきた豊かな文化を複合的な観点から学ぶ。	1. 文化について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） 2. 文化を分析する観点・方法に関する基礎的技能が十分に身に付いている。（技能） 3. 文化への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。（関心・意欲・態度） 4. 少なくとも一つの文化事象について説明することができる。（知識・理解） 5. 広い視野で「文化」を捉えることができる。（知識・理解）	1. 文化について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） 2. 文化を分析する観点・方法に関する最低限の技能が十分に身に付いている。（技能） 3. 文化への関心や、それについて究明しようとする意欲・態度が身に付いている。（関心・意欲・態度） 4. 少なくとも一つの文化事象について説明することができる。（知識・理解） 5. 広い視野で「文化」を捉えることができる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸入門D	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、2年次における領域選択の動機付けを行う。本講義においては、メディアに関する基礎知識の習得をめざす。「メディア」と いう言葉は、報道・出版・マスコミの意味で解していることが多いが、本来の意味でいえば、「何かと何かの媒体」のことであり、具体的にいえば、声、文字、本・雑誌・新聞などの印刷出版物、図書館、博物館、美術館、映画、放送(テレビ・ラジオ)、電話、ファクス、ケータイ、コンピュータネットワーク等々のことであって、さらには都市といった空間、そこに存在する人間の身体そのものもメディアであることを先ず理解する。次いで「見ることと」と「マス・メディア」を考察の中心に据え、メディア論的な歴史を紐解きながら、我々の文化はいかに形成されたかを俯瞰でき、最終的には、本来の意味でのメディアの視点から、メディアが文学・芸術の「本質」形成にとって、どのような「形式」であったのかを思考できる基礎知識を育成する。	(1)「メディア」とは何か具体的に列挙し、その機能を説明できる。(知識・理解) (2)「マス・メディア」とは何か具体的に列挙し、その機能を説明できる。(知識・理解) (3)「ソーシャル・メディア」とは何か具体的に列挙し、その機能を説明できる。(知識・理解) (4)「ものを見る」とは何か思考でき、自明なものとして受けとめている対象に新たな光をあてて「もう一度見る」ことについて，分析的に記述することができる。(思考・判断・表現) (5)「テレビ」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(知識・理解) (6)「テレビ」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(知識・理解) (7)「ラジオ」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(知識・理解) (8)「ラジオ」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。 (9)「出版物」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(知識・理解) (10)「出版物」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(知識・理解) (11)「映画」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(知識・理解) (12)「映画」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(知識・理解)	(1)「メディア」とは何か具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(知識・理解) (2)「マス・メディア」とは何か具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(知識・理解) (3)「ソーシャル・メディア」とは何か具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(知識・理解) (4)「ものを見る」とは何か思考でき、自明なものとして受けとめている対象に新たな光をあてて「もう一度見る」ことについて，自らの言葉で記述することができる。(思考・判断・表現) (5)「テレビ」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(知識・理解) (6)「テレビ」のメディア論的問題点に言及することができる。(知識・理解) (7)「ラジオ」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(知識・理解) (8)「ラジオ」のメディア論的問題点に言及することができる。 (9)「出版物」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(知識・理解) (10)「出版物」のメディア論的問題点に言及することができる。(知識・理解) (11)「映画」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(知識・理解) (12)「映画」のメディア論的問題点に言及することができる。(知識・理解)
日本語学概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	日本語の構造上の特色について、おもに現代語を対象として、音声・音韻、文字・表記、語彙・語法、文法、敬語、文章・談話等、さまざまな観点から理解する。日本語の構造上の基礎的な知識や言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能を学ぶ。	１．日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） ２．言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。（技能） ３．日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切にできるようになる。（思考・判断・表現） ４．日本語に対する関心や日本語の理解・使用に関する意欲・態度が積極的になる。（関心・意欲・態度）	１．日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が一通り理解できる。（知識・理解） ２．言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能がある程度は身に付く。（技能） ３．日本語に対する思考・判断、日本語による表現が部分的にはできるようになる。（思考・判断・表現） ４．日本語に対する関心や日本語の理解・使用に関する意欲・態度が以前よりは強まる。（関心・意欲・態度）
日本文学概論A	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	日本文学における文学史上重要な位置を占める作品を、上中古文学から近世文学まで、おおよそ年代順やジャンルごと（韻文・散文など）に通観することで、それぞれの時代の作品の集合がどのような特徴を持ち、どのような人達によってつくられ、どのように読まれたかを理解する。その文学作品の読まれ方（創られ方）や、読者層は、時代ごとの出版メディアの変化とも深くかかわっており、それらが作品に与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学び、基礎知識を身につけるだけではなく、日本文学の特質を肌で感じながら味わい、今後専門的に学んでゆく基礎力を培う。	1.日本古典文学の歴史的、地理的な範囲、変遷について、総合的に説明できる。（知識・理解） 2.日本古典文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりを、総合的に説明できる。（知識・理解） 3.日本古典文学作品の性質を、経済や歴史・文化、メディアの発展などと関連付けながら、総合的に説明することができる。（知識・理解）。 4.日本古典文学の歴史や読解に関する意欲・態度が積極的になる。（関心・意欲・態度）	1.日本古典文学の歴史的、地理的な範囲、変遷についての基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） 2.日本古典文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりについて、基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） 3.日本古典文学作品と、経済や歴史・文化、メディアの発展などの関わりについて、基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） 4.日本古典文学の歴史や読解に関する意欲・態度がある程度積極的になる。（関心・意欲・態度）
日本文学概論B	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	日本文学における文学史上重要な位置を占める作品を、近世末から近代文学まで、おおよそ年代順やジャンルごと（韻文・散文など）に通観することで、それぞれの時代の作品の集合がどのような特徴を持ち、どのような人達によってつくられ、どのように読まれたかを理解する。その文学作品の読まれ方（創られ方）や、読者層は、時代ごとの出版メディアの変化とも深くかかわっており、それらが作品に与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学び、基礎知識を身につけるだけではなく、日本文学の特質を肌で感じながら味わい、今後専門的に学んでゆく基礎力を培う。	1.近代日本文学の歴史的、地理的な範囲、変遷について、総合的に説明できる。（知識・理解） 2.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりを、総合的に説明できる。（知識・理解） 3.近代日本文学作品の性質を、経済や歴史、メディアの発展などと関連付けながら、総合的に説明することができる。（知識・理解） 4.近代日本文学作品の歴史や読解に関する意欲・態度が積極的になる。（関心・意欲・態度）	1.近代日本文学の歴史的、地理的な範囲、変遷についての基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） ２.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりについて、基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） 3.近代日本文学作品と、経済や歴史、メディアの発展などの関わりについて、基本的な事柄を説明できる。（知識・理解） 4.近代日本文学作品の歴史や読解に関する意欲・態度がある程度積極的になる。（関心・意欲・態度）
英語学概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	日本では「英語学」という学問領域名は linguistics（言語学）の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1) 英語とはどのような言語であるのかということを巨視的な観点から眺めること。(2) 人間の言語とはどのような特徴を持つのかということを巨視的な観点から眺めること。英語という特定の言語に特有の特徴もあれば、英語に限らず人間の言語に普遍的に見られる特徴もある。その両者を概観することになる。普段は空気のような存在である「言語」というものについて、落ち着いて考える機会を持つことはきわめて重要なことである。	英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	英語学・言語学の基本的な事項について、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
イギリス文学文化概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	イギリス文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って概観しつつ、イギリス文学と文化の特質を理解するための入門的な文学作品を紹介する。映像資料も多用することで当時の人々の暮らしぶりや感情の動きを具体的にイメージし、作品が現代を生きる私たちにアピールする点を考える。	1. イギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 各時代を代表する文学作品の特質を十分に理解し、自分の言葉で考察できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. イギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中でおおよそ理解している。（知識・理解） 2. 各時代を代表する文学作品の特質をおおよそ理解し、自分の言葉で考察できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	どのような観点から文学作品にアプローチすれば、アメリカ文学の特質を把握できるのか一般的な視点を示し、それぞれの文学作品が生まれてきた文化的背景を学ぶ。個別の文学作品にできるかぎり多く触れ、様々なメディア（映画・絵画・音楽など）を参照しながら、文化的な特徴を概観するための入門的役割を持つ科目で ある。	1. アメリカ文学・文化の特質について深く理解できる。（知識・理解） 2. 批評的態度で 個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえたうえで、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。（思考・判断・表現）	1. アメリカ文学・文化に関する一般的な事柄を理解できる。（知識・理解） 2. 個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえたうえで、自分の問題意識を持つことができる。（思考・判断・表現）
フランス語学概論A	文芸学部　専門基礎分野	1	2	フランス語学習の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語が読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、答えを探る。アルファベットで表記する点は英語と同じだが、英語との相違点もあるので、特につづり字と発音について、整理をする。まずフランス語の基本文型や構文を知り、読めるようになる。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状も確認する。	1．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の語彙の発音・表記・意味をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の発音とつづり字の関係を理解し、日本語でわかりやすく説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の語彙の発音・表記・意味を理解し、その実践的な運用に習熟することができる（技能）。 2．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の発音とつづり字の関係を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、かろうじて説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる（関心・意欲・態度）。
フランス語学概論B	文芸学部　専門基礎分野	1	2	フランス語学習の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語を声に出して読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、学習で、答えを探る。英語との相違点に着目しながら、英語の複雑さに比べて、発音とスペルがはるかに規則正しいフランス語の発音が発音できるようになる。まずフランス語の基本文型や構文を知り、フランス語の単語の使い方、文の作り方を知る。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使用されている現状も確認する。	1．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の単語から文までを正しく発音できる（技能）。 2．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の基本文型と構文を深く理解し、日本語で正確に説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて説得的に答えることができる（関心・意欲・態度）。 5．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を複眼的に述べることができる（関心・意欲・態度）。	1．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の単語から文までを発音できる（技能）。 2．フランス語の入門レベル（CEFR A1.1）の基本文型と構文を理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、説明することができる（思考・判断・表現）。 4．フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて最低限、答えることができる（関心・意欲・態度）。 5．フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる（関心・意欲・態度）。
フランス文学概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	フランス文学と、その背景のフランス文化を知る。フランス語で書かれた文学を作品と人物の紹介によって概観する。なじみのあるテーマからフランス文学入門を図る。作品に触れるきっかけとして、翻訳・翻案（アダプテーション）は切っても切れない関係にある。本科目では映画、漫画、パフォーミング・アーツ、音楽（ミュージカル、オペラ）などの具体例を鑑賞し、芸術との関連からも文学を考える。	1．フランス語で書かれた文学の基礎的知識を持ち、くまなく概観することができる（知識・理解）。 2．フランス・フランス語圏文学史上の重要な作家の名前を複数挙げ、その特徴を列挙することができる（技能）。 3．課題になったすべてのフランス文学作品を翻訳で読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文学の学修を通して、文学の意義を客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語で書かれた文学の基礎的知識を持ち、概観することができる（知識・理解）。 2．フランス・フランス語圏文学史上の重要な作家の名前を一つ以上挙げることができる（技能）。 3．課題になったフランス文学作品を一作以上、翻訳で読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文学の学修を通して、文学の意義を述べることができる（思考・判断・表現）。
フランス文化概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	多彩で、洗練されたフランス文化を知る。フランスの文化遺産、観光資源、景観、芸術文化（彫刻・絵画・建築など）、時間を軸とする表象文化（音楽・舞踏・演劇・映画など）、グルメ（食文化）、サブカルチャー、モード、宗教文化（大聖堂・ステンドグラス）などの幅広い分野から、フランス特有の文化を概観する。 「文化」とは、一般的に「ある社会集団に固有の振る舞い・習慣の総体」を指すが、一口に文化といっても、伝統的な教養の構成要素となる古典的な学問の「文学」「芸術」から、ポップアートやポップミュージックのようなサブカルチャーまで、さまざまな種類がある。本科目では、さまざまなレベルのフランス文化をその広がりの中で捉えた上で、地理や歴史の基本的な事柄を学び、比較的馴染み深いフランスのイメージを読み解くことで、現代フランス文化の背景を理解する。そこから複合的な視野を身に付ける。	1．フランス語圏の文化（文学・芸術・社会・歴史）の基礎的知識を持ち、個々の事象を的確に捉えて、概観することができる（知識・理解）。 2．フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した人物の名前を複数挙げ、文脈の中に位置づけ、その特徴を列挙することができる（技能）。 3．課題になったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）に関する文章をまんべんなく読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴をわかりやすく説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語圏の文化（文学・芸術・社会・歴史）の基礎的知識を持ち、個々の事象を概観することができる（知識・理解）。 2．フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した人物の名前を一つ以上挙げ、その特徴を列挙することができる（技能）。 3．課題になったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）に関する文章を部分的に読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、述べることができる（思考・判断・表現）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
児童文学概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	歴史上、「子ども」がどのように位置付けられてきたのかを踏まえ、「フェアリー・テール」と呼ばれるものを初め、広く知られている作品を楽しみ、「児童文学」とはどのようなものか、どのように変化してきたのかを考える。「児童文学」がいつどのような形で生まれ、現代社会の中でどのような意義を持つのかを考察するための入門的講義である。	1. 児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、子ども向けの本の歴史を踏まえ、理解している。（知識・理解） 2. 講義で 取り上げた作品について、児童文学の歴史と変遷を踏まえ考察し、それを論理的に表現することができる。 （思考・判断・表現）	1. 児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、ある程度、理解している。（知識・理解） 2. 講義で取り上げた作品について考察したことを表現することができる。（思考・表現）
翻訳概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	「文学作品の翻訳」という狭い領域を脱して、もっと広い意味で「翻訳とは何か」という問題を様々な角度から探る。明治時代に作られ、現在の日本語の大部分を占める翻訳語から出発して、文芸学部で学べる文学・芸術の広範囲にわたるそれぞれの分野と関わりのある多岐にわたる材料を取り上げる。講義科目ではあるが、学生がそれぞれ自分のまわりにある「翻訳」を発見して、考察できるようにする。さらに言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の中の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる様々な問題を理解することができる。（知識・理解） 2.「文化」が越境する時に何が残り何が変わるのかを理解した上で、異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。（関心・意欲・態度）	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる問題を理解することができる。（知識・理解） 2.異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。（関心・意欲・態度）
異文化間コミュニケーション概論	文芸学部　専門基礎分野	1	2	人間には言語・文化を超えて普遍的な側面がある一方で、言語・文化によって世界観・価値観が大きく異なる側面もある。後者の場合、異なる言語・文化を背景に持つ人間どうしがコミュニケーションを行う場合に、摩擦や誤解が生じる恐れがある。そのような異文化間理解に関する基本的な知識を身につけ、異文化間コミュニケーションとは何かという問いについて考察する。さらに言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の中の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1. 異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 本科目で学修することを基盤として、適切な異文化間コミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1. 異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 本科目で学修することを基盤として、最低限の異文化間コミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
劇芸術概論A	文芸学部　専門基礎分野	1	2	代表的な古典芸能として、舞楽、能楽（能・狂言）、歌舞伎、人形浄瑠璃を中心に扱う。授業内容は、これら三種の芸能に共通する（あるいは類似した）トピックを取り上げ、舞台映像を交えながら、それぞれの特徴を捉えていくことを主とする。その他、それぞれの代表的な作品をじっくり鑑賞する機会も数度にわたって設ける。	1.舞楽、能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃に関する基礎的な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2.古典芸能に強い関心をもって接することができる。（関心・意欲・態度）	1.舞楽、能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃、それぞれの芸能がどのようなものか理解できる。（知識・理解） 2.古典芸能のわかりやすい面と難しい面との両方を味わうことができる。（関心・意欲・態度）
劇芸術概論B	文芸学部　専門基礎分野	1	2	この授業では、演劇が社会において果たす役割を様々な角度から理解する。単に観客として楽しむだけでなく、演劇と社会の関係性の歴史を踏まえた上で、劇場の種類、公共劇場のミッション、演劇が教育・公共体に果たしうる機能とその課題などを現場ゲストの話を交えて理解する。	1.社会における演劇の役割についての十分な知識が身についている。（知識・理解） 2.個々の劇場の社会的機能を十分に説明できるようになる。（技能）	1.社会における演劇の役割についての知識が一通り得られている。（知識・理解） 2.個々の劇場の社会的機能が自分なりに説明できるようになる。（技能）
劇芸術概論C	文芸学部　専門基礎分野	1	2	映画、テレビドラマをはじめとする映像芸術の特性を学び、それらの作品の根幹を成しているドラマに目を向けていくことを目的とする。	1.映画・テレビドラマなど映像芸術の表現と特性について、考え方と知識を身につける。（知識・理解） 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その表現とドラマに目を向けて分析・説明することができる。（思考・判断・表現） 3.自身と映像表現の関係について、歴史や表現といったさまざまな角度から考えることができる。（関心・意欲・態度）	1.映画・テレビドラマなど映像芸術の表現と特性について基本的な考え方と知識を身につける。（知識・理解） 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その面白さがどこにあるのか考えることができる。（思考・判断・表現）
日本・東洋美術史概論A	文芸学部　専門基礎分野	1	2	古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に理解する。その際、日本列島とアジア諸地域との交流という視点から理解する。日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて理解する。また、美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を獲得する。	1．古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に十分理解している。（知識・理解） 2．日本列島とアジア諸地域との交流という視点から十分理解している。（知識・理解） 3．日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて十分理解している。（知識・理解） 4．美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	1．古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に一通り理解している。（知識・理解） 2．日本列島とアジア諸地域との交流という視点から一通り理解している。（知識・理解） 3．日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて部分的に理解している。（知識・理解） 4．美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を一通り獲得している。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本・東洋美術史概論B	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に理解する。その際、日本列島とアジア諸地域との交流という視点から理解する。日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて理解する。また、美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を獲得する。	1．前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に十分理解している。（知識・理解） 2．日本列島とアジア諸地域との交流という視点から十分理解している。（知識・理解） 3．日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて十分理解している。（知識・理解） 4．美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	1．前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に一通り理解している。（知識・理解） 2．日本列島とアジア諸地域との交流という視点から一通り理解している。（知識・理解） 3．日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて部分的に理解している。（知識・理解） 4．美術作品を通じ、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概括的に把握する視点を一通り獲得している。（関心・意欲・態度）
西洋美術史概論A	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	人類が石器時代から営んできた美術品制作の歴史を、古代から現代までのヨーロッパを主な対象として学ぶ。その際、主として人体の表現に焦点を当て、それを通じて物語-歴史、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わり、批評など、美術にとって本質的な問題を考察する。最終的には人類が何をどのように表現しようとしてきたのか、人類にとって美術がどのような意味をもつのかを理解する。	①西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(知識･理解) ②西洋美術史における人体表現の変化についての基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解) ③西洋美術史における人間表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解) ④西洋美術史の背景となる文化的･歴史的･社会的･宗教的背景について、基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解)	①西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(知識･理解) ②西洋美術史における人体表現の変化についての基本的な知識をもっている。(知識･理解) ③西洋美術史における人間表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもっている。(知識･理解) ④西洋美術史の背景となる文化的･歴史的･社会的･宗教的背景について、基本的な知識をもっている。(知識･理解)
西洋美術史概論B	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	人類が石器時代から営んできた美術品制作の歴史を、古代から現代までのヨーロッパを主な対象として学ぶ。その際、主として空間と時間の表現に焦点を当て、物語-歴史、宗教-神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わり、批評など、美術にとって本質的な問題を考察する。最終的には人類が何をどのように表現しようとしてきたのか、人類にとって美術がどのような意味をもつのかを理解する。	①西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(知識･理解) ②西洋美術史における空間と時間の表現について基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解) ③西洋美術史における図像の意味とその源泉についての基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解) ④西洋美術史の背景となる文化的･歴史的･社会的･宗教的背景について、基本的な知識をもち、説明することができる。(知識･理解)	①西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(知識･理解) ②西洋美術史における様式の変化についての基本的な知識をもっている。(知識･理解) ③西洋美術史における図像の意味とその源泉についての基本的な知識をもっている。(知識･理解) ④西洋美術史の背景となる文化的･歴史的･社会的･宗教的背景について、基本的な知識をもっている。(知識･理解)
ジェンダー概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	ジェンダーという観点から、さまざまな作品や事象をとりあげ、考察する講義である。まずジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生まれた背景を学ぶ。またジェンダーの観点から具体的な事例を分析し、その結果を現代の文化・社会状況とともに考察することを目指す。	1. ジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生まれた背景を理解できるようになる（知識・理解） 2. ジェンダーの概念を用いて、作品や事象を分析し説明できるようになる（思考・判断・表現）	1. ジェンダーなど性差に関する概念を理解できるようになる（知識・理解）
現代文化概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	現代文化のさまざまなありようを映像・音楽・文学などを用いて見てゆき、現代文化の多様性を概観することを通じて、自分が身を置いている時代・場所の文化の価値観を相対化して捉えるすべを学ぶ。また、多様性を尊重する新しい時代をどのように作り出すべきかを考察する。	1. 現代とはいつの時代のことなのか、その文化はどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（知識・理解）。 2. 現代文化の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（思考・判断）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（表現・技能）。	1. 現代とはいつの時代のことなのか、その文化はどのような特徴を持っているのかについてある程度正確に説明できるようになる（知識・理解）。 2. 現代文化の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる（思考・判断）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる（表現・技能）。
歴史文化概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	文化の継続性と変容性を、歴史学的な視点から考察する。	1.文化の継続性・変容性について、深い知識を習得している（知識・理解）。 2.文化の継続性・変容性について、高度な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 3.文化の継続性・変容性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。	1.文化の継続性・変容性について、基礎的な知識を習得している（知識・理解）。 2.文化の継続性・変容性について、基礎的な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 3.文化の継続性・変容性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。
思想文化概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	人類史上紀元前6世紀に同時多発する「精神革命」，つまり古代ギリシア思想・原始仏教・中国思想を，その前時代を含めて概観理解し，それぞれの思想的水脈が，中世・近代，そして現代へといかに思想的に展開してきたのかを概観する。思想が文化を形成し，文化が思想を形成する基本的ダイナミズムを分析し検証する。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し，入手することができる。（技能） 2. 入手した資料をもとに，ギリシア思想・原始仏教・中国思想を理解し，説明できる。（知識・理解） 3. 入手した資料をもとに，ギリシア思想・仏教・中国思想それぞれのその後の具体的展開を理解し，説明できる。（知識・理解） 4. 中世・近代，そして現代それぞれの思想的特徴を大まかに理解し，説明できる。（知識・理解） 5. 思想と文化の関係を哲学的に理解し，説明できる。（知識・理解） 6. 授業で培った理解に基づいてレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し，入手することができる。（技能） 2. 入手した資料をもとに，ギリシア思想・仏教・中国思想を理解し，説明できる。（知識・理解） 3. 入手した資料をもとに，ギリシア思想・仏教・中国思想それぞれのその後の具体的展開を理解し，説明できる。（知識・理解） 4. 授業で培った理解基づいてレポートを作成できる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
神話・民話概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	言説の伝承と伝播が社会、文化にもつ意味と意義について、具体的な事例を挙げつつ議論する。	1. 言説の伝承、伝播について、具体例を挙げつつ、正確に説明することができる（知識・理解） 2. 言説の伝承、伝播が社会、文化にもつ意味について、深く理解している（知識・理解） 3. 言説の伝承、伝播が社会、文化によってどのような影響を受けるのかについて、深く理解している（知識・理解）	1. 言説の伝承、伝播について、具体例を挙げることができる（知識・理解） 2. 言説の伝承、伝播が社会、文化にもつ意味について、理解している（知識・理解） 3. 言説の伝承、伝播が社会、文化によってどのような影響を受けるのかについて、理解している（知識・理解）
物語文化概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	物語を形作る要素について、さまざまな国、ジャンルの作品を取り上げながら考察する。	1. 物語文化についての具体的な知識をえている（知識・理解）。 2. 物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる（思考・判断・表現）。 3. 授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（関心・意欲・態度）。	1. 物語を作る構成要素を複数挙げることができる（知識・理解）。 2. 基礎的な読解を身につけている（知識・理解）。
文芸メディア概論	文芸学部　専門 基礎分野	1	2	「メディア」が有する記録/保管媒体機能・伝達媒体機能・相互行為媒体機能に着目し、メディアが文学や芸術の在り様にいかに深く関わってきたのか、またメディアの形式・形態によって文学や芸術の作品内容が変質してきたのか、さらに、メディアはいかに文学や芸術作品の社会的意味を形成する働きを有してきたのか等々を理解する。具体的には、人間の身体と絵画、声と口承文学、文字と文学、印刷技術の展開と文芸、写真・蓄音機・映画といった複製メディア，人が相互行為を通して生活世界を理解し合うメディアアートを，メディア論的に考察し、知識を習得する。	(1)「身体」をメディア論的に理解し、説明できる。(知識・理解) (2)「絵文字」をメディア論的に理解し、説明できる。(知識・理解) (3)「アルファベット」の起源・展開を理解し、メディア論的に考察できる。（知識・理解） (4)「アルファベット」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(知識・ 理解) (5)「活字」というメディアの歴史と影響を理解し、説明できる。(知識・理 解) (6)「活字」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(知識・理解) (7)「写真」をメディア論的に理解し、説明できる。(知識・理解) (8)「写真」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(知識・理解) (9)「映画」を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、説明できる。(知 識・理解) (10)「映画」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、考察できる。(知識・理解) (11)「メディアアート」をメディア論的に理解し、説明できる。(知 識・理解) (12)「メディアアート」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、考察できる。(知識・理解)	(1)「身体」をメディア論的に理解できる。(知識・理解) (2)「絵文字」をメディア論的に理解できる。(知識・理解) (3)「アルファベット」の起源・展開を理解できる。（知識・理解） (4)「アルファベット」の影響をメディア論的に理解できる。(知識・ 理解) (5)「活字」というメディアの歴史と影響を理解できる。(知識・理 解) (6)「活字」の影響をメディア論的に理解できる。(知識・理解) (7)「写真」をメディア論的に理解できる。(知識・理解) (8)「写真」の影響をメディア論的に理解できる。(知識・理解) (9)「映画」を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。(知 指揮・理解) (10)「映画」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。（知識・理解） (11)「メディアアート」をメディア論的に理解できる。(知 識・理解) (12)「メディアアート」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。(知識・理解)
日本語学各論A	文芸学部　専門 分野Ⅰ	2	2	日本語の文法に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および文法の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う。	1．文法に関する知識を得て、文法に対する理解が深まる。（知識・理解）2．文法の調査・分析に関する技能が習得できる。（技能）3．文法に関する学問的な捉え方をし、その結果が表現できるようになる。（思考・判断、表現）4．文法に対する関心・意欲・態度が強まる。（関心・意欲・態度）	1．文法に関する知識を得て、文法に対する理解がある程度まで深まる。（知識・理解） 2．文法の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（技能） 3．文法に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．文法に対する関心・意欲・態度が喚起される。（関心・意欲・態度）
日本語学各論B	文芸学部　専門 分野Ⅰ	2	2	日本語の方言に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および方言の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う。	1．方言に関する知識を得て、方言に対する理解が深まる。（知識・理解）2．方言の調査・分析に関する技能が習得できる。（技能）3．方言に関する学問的な捉え方をし、その結果が表現できるようになる。（思考・判断、表現）4．方言に対する関心・意欲・態度が強まる。（関心・意欲・態度）	1．方言に関する知識を得て、方言に対する理解がある程度まで深まる。（知識・理解） 2．方言の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（技能） 3．方言に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようになる。（思考・判断、表現） 4．方言に対する関心・意欲・態度が喚起される。（関心・意欲・態度）
日本語学各論C	文芸学部　専門 分野Ⅰ	2	2	日本語の運用上の特色について、おもに現代語を対象として、音声・音韻、文字・表記、語彙・語法、文法、敬語、文章・談話等、さまざまな観点から理解する。	1．日本語の運用に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解）2．言語の運用を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。（技能）3．日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切にできるようになる。（思考・判断・表現）4．日本語に対する関心や日本語の理解・使用に関する意欲・態度が積極的になる。（関心・意欲・態度）	1．日本語の運用に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。（知識・理解） 2．言語の運用を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。（技能） 3．日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切にできるようになる。（思考・判断・表現） 4．日本語に対する関心や日本語の理解・使用に関する意欲・態度が積極的になる。（関心・意欲・態度）
日本文学各論A	文芸学部　専門 分野Ⅰ	2	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに古典文学を研究するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、古典文学の特徴を理解する。	1．古典文学に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）　2．古典文学に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度）　3．近代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	1．古代散文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．近代韻文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．古代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本文学各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに近代文学を研究するための基礎力を身につける。通史的パースペクティブに囚われず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、近代文学の特徴を理解する。	1．近代散文に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）　2．近代散文に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度）　3．古典文学を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（知識・理解）	近代散文に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解） 2．近代韻文に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（関心・意欲・態度） 3．近代散文を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは修得している。（知識・理解）
漢文学A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	漢文を学ぶための基礎として、まず随・唐を中心とする中国の歴史や、漢字・漢文・漢文訓読についての基礎を理解し、日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を学ぶ。	1.隋・唐を中心とした中国の歴史が説明できる。（知識・理解）　2.漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、十分に漢文が訓読できる。（知識・理解）　3.日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を説明することができる。（知識・理解）	1.随・唐を中心とした中国の基本的な歴史が説明できる。（知識・理解） 2.漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、基本的な漢文が訓読できる。（知識・理解） 3.日本の文化・文学に影響を与えた基本的な漢文作品を説明することができる。（知識・理解）
漢文学B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本の文化、文学に影響を与えたと考えられる漢文学作品を読んでゆくことによって、中国の漢詩文と日本の漢詩文、日本文学（物語、和歌、思想等）との関わりについて理解する。	1.中国の古代思想や漢詩文の特徴が説明できる。（知識・理解）　2.漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、十分に漢文が訓読できる。（知識・理解）　3.日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を説明することができる。（知識・理解） 4.中国の漢詩文と日本文学の関わりを説明することができる。（知識・理解）	1.中国の古代思想や漢詩文の基本的な特徴が説明できる。（知識・理解） 2.漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、基本的な漢文が訓読できる。（知識・理解） 3.日本の文化・文学に影響を与えた基本的な漢文作品を説明することができる。（知識・理解） 4.中国の漢詩文と日本文学の基本的な関わりについて説明することができる。（知識・理解）
英語学各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	英語学という包括的な研究領域の中から、特定の下位分野を取り上げて、その分野の観点から英語の特徴を考察する。本科目では英文法を集中的に取り上げて、文法という観点から英語という言語の特徴について考察する。同時に、英語に限らず人間の言語に普遍的に見られる特徴についても考察する。	1. 英文法に関する幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 身につけた英文法の知識を使って、英文を正確に読み、内容を完全に正しく理解できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英文法に関する基本的な事項について、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 身につけた英文法の知識を使って、英文を読み、内容を正しく理解できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
イギリス文学文化各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	「イギリス文学文化概論」が取り上げる内容を踏まえつつ、「階級」「ジェンダー」「戦争」などのイギリス文学研究において鍵を握る重要なテーマに沿って、複数の文学作品をより専門的に読み解いていく。	1. イギリス文学研究において重要なテーマについて、歴史的・文化的変遷の中で正しく理解している。（知識・理解）　2. 個々のテーマに沿って特定の作品を読み解き、他者の意見と自分の見解を区別しながら適切にまとめることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. イギリス文学研究において重要なテーマについて理解している。（知識・理解）　2. 個々のテーマに沿って特定の作品を読み解き、自分の言葉でまとめることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	アメリカの歴史的・地理的背景を踏まえたうえで、アメリカ文学・文化の特徴を様々な観点から考察する。「ロマンスの実像」「ヒーロー像の変遷」「アメリカン・ドリームの理想と現実」「アイデンティティーの追求」などのテーマに沿って、個々の文学作品に触れながら、アメリカ文化の特質を読み解く。	1.アメリカ文学・文化研究の重要なテーマについて、歴史的・地理的背景を深く理解できる。（知識・理解）　2. 批評的態度で 個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえたうえで、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。（思考・判断・表現）	1. アメリカ文学・文化研究の重要なテーマについて、歴史的・地理的背景に関わる一般的な事柄を理解できる。（知識・理解）　2. 批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、自分の問題意識を持つことができる。（思考・判断・表現）
英語圏児童文学各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代に至るまで、世界中の文学作品に大きな影響を与えている英語圏の児童文学を取り上げる講義である。よく知られているイギリスや北米の作品を原文や映画などのアダプテーションで楽しみ、作品の背景となっている社会や文化、また「こども」観について考察する。また、個々の作品への多様なアプローチ を例示することで、英語圏の文化の理解や文学研究に対する関心を深める。	1. 英語圏の児童文学Iとその歴史や社会背景について理解している。（知識・理解）　2. 講義で取り上げたものや関連する作品について、意欲的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、解釈することができる。（関心・態度・思考）　3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを論じることができる。（表現）	1. 英語圏の児童文学Iとその歴史や社会背景の基本的な部分を理解している。（知識・理解）　2. 講義で取り上げた作品について読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化の基本的な事項を踏まえ、解釈することができる。（関心・態度・思考）　3. 個々の作品について考察したことを表現することができる。（表現）
フランス文学文化各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	フランス特有の文化を具体的に知る。フランスの文化・芸術に関する個別の事象を文学・芸術のうちに捉え、文化の表象を深く掘り下げる。フランス語圏の文化・芸術を通して豊かな感性を養い、あるいは思索を深め、異文化理解を深めることを目指す。	1．フランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の個別な事象を文学作品のうちに的確に捉えることができる（知識・理解）。 2．フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した複数の人物について論述することができる（技能）。 3．課題となったフランス文化を扱った文章をまんべんなく読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴をわかりやすく説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文化の学修を通して、異文化を比較検討して、客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の個別な事象を文学作品のうちに捉えることができる（知識・理解）。 2．フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した人物について、最低限、述べることができる（技能）。 3．課題となったフランス文化を扱った文章を最低限読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文化の学修を通して、異文化を比較検討することができる（思考・判断・表現）。
フランス文学文化各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	フランス特有の文化に触れる。芸術全般はもちろん、食、ファッション、生活習慣、地域性などフランスを理解するための様々な文化現象について、テキストを通して具体的に知る。文学と、その背景の文化を知るために、フランス語圏の各地域の、地理的風土と様々な歴史的事件などの複合的な事象を理解する。フランス語で書かれた文学の背景を理解し、作品の多様性を捉える。 さらに具体的なテーマからフランス語圏の個々の作品の理解を深め、テーマの探し方や鑑賞のしかたを学ぶ。映画、演劇、芸術作品などの鑑賞によっても、理解を深める。	1．フランス語表現の文化（文学・芸術・社会・歴史・習慣）の個別な事象を的確に捉えることができる（知識・理解）。 2．フランス語圏の複数の文学者・芸術家について論述することができる（技能）。 3．課題となったフランス文化を扱った文章をまんべんなく鑑賞している（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化の特徴をわかりやすく説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文化を客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語表現の文化（文学・芸術・社会・歴史・習慣）の個別な事象を捉えることができる（知識・理解）。 2．フランス語圏の複数の文学者・芸術家について、最低限、述べることができる（技能）。 3．課題となったフランス文化を扱った文章を最低限読んでいる（関心・意欲・態度）。 4．芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。 5．フランス文化を客観的に論述することができる（思考・判断・表現）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス児童文学各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	フランス語圏の児童文学を取り上げる講義である。よく知られているフランスの作品を原文や映画などのアダプテーションで楽しみ、作品の背景となっている社会や文化、また「こども」観について考察する。また、個々の作品への多様なアプローチ を例示することで、フランス語圏の文化の理解や文学研究に対する関心を深める。	1. フランス語圏の児童文学とその歴史や社会背景についてよく理解している。（知識・理解）　2. 講義で取り上げたものや関連する作品について、意欲的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、的確に解釈することができる。（思考・判断・表現）（関心・態度・思考）　3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを客観的に論述することができる。（表現）	1. フランス語圏の児童文学とその歴史や社会背景について理解している。（知識・理解）　2. 講義で取り上げたものや関連する作品について、意欲的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、解釈することができる。（思考・判断・表現）（関心・態度・思考） 3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを述べることができる。（表現）
フランス語コミュニケーション演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「聴くこと、話すこと」と同時に「読むこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。 そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考え方を知る。教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1．フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語のCEFR A1レベルの実践的な口語を運用することができる（技能）。 3．CEFR A1完成レベルのフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。
フランス児童文学演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	フランスの児童文学を既存の翻訳を参考にしながら原書で味わい、文学作品を読解・解釈するためのフランス語力を養うと共に、「子ども」を取り巻く文化について考える演習である。よく知られているフランス語圏の作品を原文で精読し、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりの解釈や考察を発表する。各々が積極的かつ自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. フランス語圏の児童文学を精読するフランス語力とフランス文学研究の基本を身に付けている。（知識・理解）　2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に着けている。（思考・判断・表現）（関心・思考・表現） 3. 個々の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。（表現）	1. フランス語圏の児童文学を精読するフランス語力とフランス文学研究の基本を最低限身に付けている。（知識・理解）　2. 作品に対して問題を見出し、作品を解釈する態度を身に着けている。（思考・判断・表現）（関心・思考・表現）　3. 個々の作品についての自分の解釈を表現することができる。（表現）
フランス語翻訳演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	フランス語を翻訳する。平易なフランス語で書かれた詩、戯曲、小説、エッセイ、書簡、あるいは時事的なテキストなどフランス語で書かれた文学作品を扱う。取り上げるテキストを正確に読み取る訓練を重ね、さらなるフランス語の読解力向上を図る。フランス語圏の文学を味読することにより豊かな感受性を養い、あるいは思索を深め、フランス語圏文化への理解を深めることを目指す。日本語に翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1．CEFR A1.1完成レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（技能）。 2．CEFR A1.1完成レベルのフランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストについて意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A1.1完成レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（技能）。 2．CEFR A1.1完成レベルのフランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストについて意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。
フランス文化・芸術演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	平易なフランス語で書かれた文化、芸術関連、あるいは芸術家によるテキストなどの作品を扱う。取り上げるテキストを正確に読み取る訓練を重ね、さらなるフランス語の読解力向上を図る。フランス語圏の文学を味読することにより豊かな感受性を養い、あるいは思索を深め、フランス語圏文化への理解を深めることを目指す。日本語に翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを深く読解できる（技能）。 2．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストについて意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	1．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを読解できる（技能）。 2．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 3．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、関係づけることができる（思考・判断・表現）。 4．CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文学的テキストについて最低限の意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。
フランス語学演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	フランス語を話す楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「聴くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材も用いて、フランス語話者の考え方を知る。本科目履修者は教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実用会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．入門レベル（CEFR A1.1~A1）のフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1.1~A1レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実用会話で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語を運用することができる（技能）。 3．入門レベル（CEFR A1.1~A1）のフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1.1~A1レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス語学演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	フランス語を話す楽しさを実感する。「聴くこと、話すこと」ができるようになる。日常的によく使う表現を身につけ、実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。様々な状況においてフランス語で自己表現し、意思の疎通を図ることができるようになることを目指す。そのために視聴覚教材も用いて、フランス語表現の根底にある考え方を知る。本科目履修者は教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を修得済か、同時に履修することを原則とする。	1．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の日常会話で簡単な文を深く理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（技能）。 3．入門レベル（CEFR A1）のフランス語会話に積極的に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（思考・判断・表現）。	1．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の日常会話で簡単な文を理解することができる（知識・理解）。 2．フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語を運用することができる（技能）。 3．入門レベル（CEFR A1）のフランス語会話に参加することができる（関心・意欲・態度）。 4．フランス語の口語表現（CEFR A1レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（思考・判断・表現）。
翻訳各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	「翻訳概論」で学んだことを踏まえて、文学作品・演劇・映画・メディアなど、様々な分野における翻訳を個別具体的に考察する。文化的背景の差異を翻訳がどのように乗り越えてゆくのか具体例を通して学ぶことで、翻訳という行為の抱える本質的な問題を学ぶ。	1. 文学・芸術作品が翻訳される際に生じる様々な問題の本質を深く理解することができ る。（知識・理解）　2. 文化が言語を超えて越境する時に、何が残り何が変わるのかを理解した上で、翻訳を通した異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。（関心・ 意欲・態度）	1. 文学・芸術作品が翻訳される際に生じる様々な問題を理解することができる。（知識・理解）　2. 文化が言語を超えて越境する時に、何が残り何が変わるのかを理解した上で、翻訳を通した異文化交流を試みることができる。（関心・ 意欲・態度）
異文化間コミュニケーション各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	「異文化間コミュニケーション概論」での学修を基盤として、本科目では、日本語・日本文化と英語・英語圏文化（特に欧米を中心とする英語圏）の間に存在する異文化間コミュニケーションの諸問題を具体例と共に考察する。このような考察をする際には、かつての「欧化主義」という態度に典型的に見られるような、偏った文化観からまず脱却し、文化には優劣はないという基本的姿勢を持つことがきわめて重要である。	1. 日本と英語圏（特に欧米の英語圏）の世界観・価値観の違いについて、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 偏見を持たずに、英語圏（特に欧米の英語圏）の人々との間で、適切なコミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1. 日本と英語圏（特に欧米の英語圏）の世界観・価値観の違いについて、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 偏見を持たずに、英語圏（特に欧米の英語圏）の人々との間で、最低限のコミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
異文化間コミュニケーション各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	「異文化間コミュニケーション概論」の学修を基盤として、本科目では日本語・日本文化とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の間に存在する異文化間コミュニケーションの諸問題を具体例と共に考察する。このような考察をする際には、かつての「欧化主義」という態度に典型的に見られるような、偏った文化観からまず脱却し、文化には優劣はないという基本的姿勢を持つことがきわめて重要である。	1. 日本とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の世界観・価値観の違いについて、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 偏見を持たずに、フランス語圏（特にフランス）の人々との間で、適切なコミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1. 日本とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の世界観・価値観の違いについて、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　2. 偏見を持たずに、フランス語圏（特にフランス）の人々との間で、最低限のコミュニケーションをすることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
日本語学演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代日本語の談話に関して、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果を口頭発表・レポートにまとめる。	1．現代日本語の談話に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解）　2．現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能）　3．現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。（関心・意欲・態度）	1．現代日本語の談話に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解） 2．現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能） 3．現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
日本語学演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代日本語の文章における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果を口頭発表・レポートにまとめる。	1．現代日本語の文章に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解）　2．現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能）　3．現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。（関心・意欲・態度）	1．現代日本語の文章に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解） 2．現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能） 3．現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
日本語学演習ⅠC	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	古代日本語の文法における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、それの結果を口頭発表・レポートにまとめる。	1．古代日本語の文法に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。（知識・理解）　2．古代日本語の文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（技能）　3．古代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。（関心・意欲・態度）	1．古代日本語の文章に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一通り理解できる。（知識・理解）2．古代日本語の文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（技能）3．（古代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（関心・意欲・態度）
日本文学演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本文学（上代文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。古代から近代、現代までの日本文学作品それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅰは比較的やさしい本文を選び、初歩的な学習を行う。	日本文学（上代文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。古代から近代、現代までの日本文学作品それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅰは比較的やさしい本文を選び、初歩的な学習を行う。	1，日本文学（古代韻文）の読解のための基本的な調査、分析方法に理解し、説明できる。（知識・理解）2，1をもとに、図書館図書や電子図書等を用いながら、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解）3，先行研究をふまえ、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる（思考・判断・表現）5，他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめ、レポートをある程度作成することができる（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本文学演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本文学（中古文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。古代から近代、現代までの日本文学作品それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅰは比較的やさしい本文を選び、初歩的な学習を行う。	1，日本文学（中古文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解）　2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解）　3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現）　4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現）　5、他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度）　6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（古代散文）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）
日本文学演習ⅠC	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本文学（中近世文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。古代から近代、現代までの日本文学作品それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅰは比較的やさしい本文を選び、初歩的な学習を行う。	1，日本文学（中近世文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解）　2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解）　3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現）　4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現）　5、他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度）　6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（中近世文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）
日本文学演習ⅠD	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本文学（近現代文学）を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。古代から近代、現代までの日本文学作品それぞれのテクストが内包する問題を自らが発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。Ⅰは比較的やさしい本文を選び、初歩的な学習を行う。	1，日本文学（近現代文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解）　2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解）　3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現）　4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現）　5、他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度）　6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）	1，日本文学（近現代文学）の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。（知識・理解） 2，1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。（知識・理解） 3，先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。（思考・判断・表現） 4，自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（思考・判断・表現） 5，他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（関心・意欲・態度） 6，口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（思考・判断・表現）
英語学演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	英語学・言語学に関連する卒業論文を執筆するためには、まず英語学・言語学の基本的な知識を固めておく必要がある。そのために、本科目では、英語学に関連する基本的な文章を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたい ことを深いレベルまで正確に読み取ることができる。（思考・判断・表現）　2. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の比較的平易な文章を読んで、書き手の言いたい ことを最低限正確に読み取ることができる。（思考・判断・表現） 2. 英語学・言語学の事項について、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
イギリス文学文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	イギリス文学・文化に関する、比較的易しい英語で書かれた作品を取り上げて精読することで、文学作品を読解するための英語力を身につける。作品が書かれた時代的・文化的背景について理解を深め、作品を多様な角度から分析する。これらの過程を経て、作品に対して自発的な関心や問いを抱き、考察できるようになる。	1. イギリス文学・文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章を正確に読みこなすことができる。（技能）　2. 作品が書かれた時代的・文化的背景を正しく理解し、それを踏まえた上で的確に作品を分析することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　3. 作品に対して自発的に関心や問いを抱き、自分なりの答えを導き出すことができる。（思考・判断・表現）	1. イギリス文学・文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章をおおよそ読みこなすことができる。（技能）　2. 作品が書かれた時代的・文化的背景をある程度まで理解し、それを踏まえた上で作品を分析することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）　3. 作品に対して自発的に関心や問いを抱くことができる。（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	比較的易しいアメリカ文学作品を英語原文で読む。文学作品の精読により、英語の深い読解力を身につける。作品の読解を通して、アメリカの歴史的・地理的・文化的背景を学び、自発的かつ積極的な問題意識を持てるようになる。	1. 英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学・文化が内包する個別の問題意識を深く理解し共感できる。（知識・理解）　2. 英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について深く考察し、意見を述べることができる。（思考・ 判断・表現）	1. 英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学・文化が内包する個別の問題 意識を理解できる。（知識・理解）　2. 英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識を持ち、意見を述べることができる。（思考・ 判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語圏児童文学演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	英語圏の児童文学を原書で読み、文学作品を読解・解釈するための英語力を養うと共に、「子ども」を取り巻く文化について考える演習である。よく知られているイギリスや北米の作品を原文で精読し、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりの解釈や考察を発表する。各々が積極的かつ自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. 英語圏の児童文学を精読する英語力と英文学研究の基本を身に付けている。（知識・理解）　2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に着けている。（関心・思考・表現）　3. 個々の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。（表現）	1. 翻訳を手掛かりに、英語圏の児童文学を精読し、研究に取り組むことができる。（知識・理解）　2. 作品に対して関心を持ち、提示された問題点について考察することができる。（関心・思考・表現） 3. 個々の作品についての自分の解釈を表現することができる。（表現）
フランス語フランス文学演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	戯曲、小説、詩、エッセイ、漫画（BD）、映画台本、舞台芸術関係のテキストなど、フランス語で書かれた文学・芸術作品を知り、翻訳の基礎を学ぶ。フランス語で書かれた作品世界を多面的かつ総合的に理解する。作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことを表現する能力を養う。	１．CEFR A1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（技能）。 ２．フランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 ３．フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 ４．文学・文化について書かれたテキストについて詳細に意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。	１．CEFR A1レベルのフランス語のテキストを読解できる（技能）。 ２．フランス語のテキストを理解し、日本語で説明できる（知識・理解）。 ３．フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（思考・判断・表現）。 ４．文学・文化について書かれたテキストについて意見を言うことができる（関心・意欲・態度）。
日本演劇史各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	古代から中世における日本の演劇（芸能）の展開について論じる。本授業では、各芸能の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。諸芸能の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えられるよう心掛けたい。 中心となる授業内容は、古代に関しては渡来の楽舞や日本古来の歌舞について主に学び、中世に関しては「能楽」（能・狂言）の成立と展開を主軸としながら、その他の中世芸能の豊かな拡がりにも目を向けたい。	１．古代から中世の日本の演劇（芸能）について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解する事ができる。（知識・理解） ２．日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。（思考・判断・表現）） ３．自らが接する古典芸能を、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）	１．古代から中世の日本の演劇（芸能）における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。（知識・理解） ２．日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。（思考・判断・表現） ３．実際の古典芸能をある程度の関心を持って鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）
日本演劇史各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	近世における日本の演劇（芸能）の展開について論じる。本授業では、各芸能の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。諸芸能の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えられるよう心掛けたい。具体的には、近世の幕開けとともに「人形浄瑠璃」と「歌舞伎」が成立する状況を照射し、近世をとおして両者が相互に影響を与えつつ展開していくさまを追う。	１．近世の日本の演劇（芸能）について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解する事ができる。（知識・理解） ２．日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。（思考・判断・表現）） ３．自らが接する古典芸能を、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）	１．近世の日本の演劇（芸能）における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。（知識・理解） ２．日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。（思考・判断・表現） ３．実際の古典芸能をある程度の関心を持って鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）
日本演劇史各論C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	明治期から大正期に至るまでの日本演劇は様々な変化をとげた。西洋化、近代化にはじまり大衆化と芸術性のバランスの課題も常につきまとうことの一つである。この授業では近代の日本演劇について通時的な流れを理解し、同時に共時的な問題点についての意識をもてるようになることを目的とする。	1、明治期から大正期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2、近代の日本演劇が抱えてきた問題を理解し、その理由を考察できるようになる（思考・判断・表現）	1、明治期から大正期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項についてある程度の知識を身につける（知識・理解） 2、近代の日本演劇の特徴を理解し、その理由を考察できるようになる（思考・判断・表現）
西洋演劇史各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	古代から中世までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して高度な知識・理解力・思考力を身につけることができる（知識・理解） 2、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる（思考・判断・表現）	1、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して基本的な知識・理解力・思考力を身につけることができる（知識・理解） 2、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる（思考・判断・表現）
西洋演劇史各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して高度な知識・理解力・思考力を身につけることができる（知識・理解） 2、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる（思考・判断・表現）	1、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して基本的な知識・理解力・思考力を身につけることができる（知識・理解） 2、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる（思考・判断・表現）
舞台美術各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	演劇と上演空間とのかかわりについて学ぶ授業である。 舞台美術についての基本的な知識を身につけ、具体的な作品に即してその特性を考えていくこととする。	1、舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための的確な知識を身につける（知識・理解） 2、具体的な作品の舞台美術について主体的に分析することができる（思考・判断・表現）	1、舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための基本的な知識を身につける（知識・理解） 2、具体的な作品の舞台美術についてある程度分析することができる（思考・判断・表現）
現代美術各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	19世紀後半から20世紀前半までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とはするが、現代のグローバル化をふまえ、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしてきたのか、その内容はどのようなものであるのか、従来の美術と何が異なっているのか、そしてそれらが今日を生きるわれわれにどのような意味をもっているのかを理解する。	①対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。（知識・理解） ②芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。（知識・理解） ③19世紀前半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。（知識・理解） ④われわれ自身にとってどのような意味があるか深く考察し、詳細に説明できる。（思考・判断・表現）	①対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的な知識をもっている。（知識・理解） ②芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的な知識をもっている。（知識・理解） ③19世紀前半までの美術との相違点について基本的な知識を持ち、的確に説明できる。（知識・理解） ④われわれ自身にとってどのような意味があるか考察し、説明できる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
現代美術各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	20世紀後半から21世紀までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とはするが、現代のグローバル化をふまえ、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしてきたのか、その内容はどのようなものであるのか、従来の美術と何が異なっているのか、そしてそれらが今日を生きるわれわれにどのような意味をもっているのかを理解する。	①対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。（知識・理解） ②芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。（知識・理解） ③20世紀前半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。（知識・理解） ④われわれ自身にとってどのような意味があるか深く考察し、詳細に説明できる。（思考・判断・表現）	①対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的な知識をもっている。（知識・理解） ②芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的な知識をもっている。（知識・理解） ③19世紀前半までの美術との相違点について基本的な知識を持ち、的確に説明できる。（知識・理解） ④われわれ自身にとってどのような意味があるか考察し、説明できる。（思考・判断・表現）
建築史A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は美術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的様式概念は建築に基礎をおいており、また絵画も彫刻もしばしば特定の建築空間に設置されることを前提としているからである。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようとそれが生み出す文化を理解する助けともなる。この観点に立ち、主として古代及び中世ヨーロッパの建築のデザイン、構造、その展開とそれらの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を修得することを目指す。	①主要な建築物や建築家を十分に理解できる。(知識・理解) ②建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。(知識・理解) ③建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。(知識・理解) ④建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(思考・判断・表現)	①主要な建築物や建築家を理解できる。(知識・理解) ②建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。(知識・理解) ③建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。(知識・理解) ④建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(思考・判断・表現)
建築史B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は美術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的様式概念は建築に基礎をおいており、また絵画も彫刻もしばしば特定の建築空間に設置されることを前提としているからである。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようとそれが生み出す文化を理解する助けともなる。この観点に立ち、主として前近代及び近代ヨーロッパの建築のデザイン、構造、その展開とそれらの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を修得することを目指す。	①主要な建築物や建築家を十分に理解できる。(知識・理解) ②建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。(知識・理解) ③建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。(知識・理解) ④建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(思考・判断・表現)	①主要な建築物や建築家を理解できる。(知識・理解) ②建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。(知識・理解) ③建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。(知識・理解) ④建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(思考・判断・表現)
造形理論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	造形表現における基礎理論と技法を学び、作品を理解する能力の深化、高度化に資することを目的とする。造形理論、色彩理論、図学などの基礎理論に加え、多様な材料、技法、支持体、それらの歴史的変遷の解説を通して、美術作品の構成要素と原理を学ぶ。	①視覚認知、錯視のメカニズムの概要を十分に理解し、的確に説明できる。（知識・理解）②黄金分割を十分に理解し的確に説明できる。（知識・理解）③幾何学図形の作図を十分に理解し、的確に説明できる。（知識・理解）④透視図法を十分に理解し、的確に説明できる。（知識・理解）⑤色彩理論の概要を十分に理解し、的確に説明ができる。（知識・理解）⑥造形理論を十分に理解し、的確に説明ができる。（知識・理解）⑦材料学の基礎的知識を十分に理解し、的確に説明ができる。（知識・理解）⑧絵画・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを十分に理解し、的確に説明ができる。（知識・理解）⑨写真撮影の原理を十分理解し、的確に説明できる。(知識・理解)	①視覚認知、錯視のメカニズムの概要を理解し、説明できる。（知識・理解）②黄金分割を理解し説明できる。（知識・理解）③幾何学図形の作図を理解し、説明できる。（知識・理解）④透視図法を理解し、説明できる。（知識・理解）⑤色彩理論の概要を理解し、説明ができる。（知識・理解）⑥造形理論を理解し、説明ができる。（知識・理解）⑦材料学の基礎的知識を理解し、説明ができる。（知識・理解）⑧絵画・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを理解し、説明ができる。（知識・理解）⑨写真撮影の原理を~~十分~~理解し、説明できる。(知識・理解)
文化資源学	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	文化資源学とは何か。文化活動の所産を包括的に表す言葉として文化財という語があるが、文化資源学はそれらを多様な観点からとらえ直し、分析し、新たな価値や意味を見出そうとする学問である。その考察の対象は狭い意味での芸術に限らず、言語資料も含め、広範に及ぶ。それらにどのような価値や意味を見出すことができるか、それらをわれわれの社会にどう生かすか、それらをどのようにして継承し、時代に受け渡していくかについて、学び、考える。	①文化資源という考え方を十分に理解している。（知識･理解） ②文化資源学の研究方法を十分に理解している。（知識･理解） ③文化資源の維持保存,伝承について詳細に理解している。（知識･理解） ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えを明確にもっている。（思考･判断･表現）	①文化資源という考え方を理解している。（知識･理解） ②文化資源学の研究方法を理解している。（知識･理解） ③文化資源の維持保存,伝承について理解している。（知識･理解） ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えをもっている。（思考･判断･表現）
西洋美術史講読	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	美術史研究の実践に不可欠な文献の読解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物がどのように成り立っているのか、丹念に解きほぐすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。西洋美術史講読では、西洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。（技能） ②学術文献が前提としている知識を十分もっている。（知識･理解） ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。（思考･判断･表現）	①専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。（技能） ②学術文献が前提としている知識をもっている。（知識･理解） ③理解した内容をまとめて説明することができる。（思考･判断･表現）
日本美術史講読	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	美術史研究の実践に不可欠な文献の読解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物がどのように成り立っているのか、丹念に解きほぐすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。日本美術史講読では、日本美術史および東洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。（技能） ②学術文献が前提としている知識を十分もっている。（知識･理解） ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。（思考･判断･表現）	①専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。（技能） ②学術文献が前提としている知識をもっている。（知識･理解） ③理解した内容をまとめて説明することができる。（思考･判断･表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
放送ドラマ各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業ではテレビメディアの特性を考えながら、主として「ドラマ」にスポットを当て、「ドラマ」が時代の流れとどのように関わり、その姿や内容、演出などがどのように変化してきたかについて考えていく。テレビ放送の開始から今日まで、風俗、流行といった時代背景がどう「ドラマ」の中に反映されてきたか映像資料も使用しながら検証していくこととする。	1、テレビドラマと時代との関係を深く考察することができるようになる。（思考・判断・表現） 2、テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か主体的に考察することができるようになる。（思考・判断・表現）	1、テレビドラマと時代との関係を考察することができるようになる。（思考・判断・表現） 2、テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か考察することができるようになる。（思考・判断・表現）
放送ドラマ各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	テレビのメディアの歴史において、テレビドラマは様々に変貌をとげてきた。時代とリンクして社会現象にまでなった作品も少なくはない。本授業では話題を呼び、今なお人々の記憶に残っているドラマのいくつかを様々な角度から読み解いていく。 また、技術的な進化、ドラマの作り手と視聴者との関係の変化などテレビドラマを取り巻く状況についての知見も深め、具体的な作品について考察するための手がかりを習得する。	1、テレビドラマが同時代の社会問題や流行を反映している事例を理解し、メディアとしての特性に強く関心をもつことができるようになる（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2、話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を主体的に考察するための手がかりを習得する（思考・判断・表現）	1、テレビドラマが同時代の社会問題や流行を反映している事例を理解し、基本的なメディアとしての特性を理解できるようになる（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2、話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を考察するための手がかりを習得する（思考・判断・表現）
芸術環境	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業では、演劇を中心に、社会が芸術をどのように支えているか、その環境はどのような理念と実践によって実現されているかを知り、一人ひとりがそれを支える役割として何ができるかを考える。	演劇や芸術を成立させる環境について、具体的な知識を基に理解している。（知識・理解）将来的にどのような芸術環境があるべきか、現状の問題点を踏まえ、具体的に考えて論じることができる。（思考・判断・表現）	演劇や芸術を成立させる環境について、一通り理解している。（知識・理解）将来的にどのような芸術環境があるべきか、自分なりに考えて論じることができる。（思考・判断・表現）
音楽	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	西洋のクラシック音楽について学ぶ。授業ではさまざまな作曲家及び作品をとりあげる。作曲家の生涯やその時代を踏まえたうえで、多くのジャンルの作品を鑑賞し、西洋音楽について広く知ることを目的とする。	１．西洋クラシック音楽の諸ジャンルについて、授業で取り上げた作品の基本的な特徴を理解することができる。（知識・理解） ２．授業で学んだことを踏まえて、強い関心をもって作品を鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）	１．西洋クラシック音楽の諸ジャンルについて、それぞれの違いを理解することができる。（知識・理解） ２．授業で学んだことを生かして作品を鑑賞することができる。（関心・意欲・態度）
発声朗読法	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	この授業は、朗読を通して日本語の魅力、その響きの美しさを認識することを目的とする。基礎となる発声方法から学び、文学作品を読み込んでいく過程で朗読の表現方法を習得していく。また、実際に文学作品を中心に朗読の実践を行い、文章の流れ、登場人物の人間像、風景描写、遠近感などの理解を深め、音として作品の素晴らしさを体感する。	1、積極的に授業に臨み、作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（知識・理解） 2、他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術をより深めることができる。（技能）（思考・判断・表現）	1、授業で取り上げる作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（知識・理解） 2、他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術に生かすことができる。（技能）（思考・判断・表現）
舞台演習	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	演劇は演じる人と観る人が分かれたときに最も素朴な形で誕生した。「演じるということ」は演劇を成り立たせている最大の要素なのである。例えば戯曲を黙読しただけでは、まだ演劇は成立しない。しかし音読した瞬間、そこには演技が入り込む余地が生まれ、演劇が成立する可能性が生じる。演劇研究の根底に「演じるということ」への眼差しが不可欠なのは、そうした理由からなのだ。ここでは演劇研究のための基礎的素養として、「演じるということ」への眼差しを深めることを目的とする。	1、台本の内容を深く読み込み、魅力的に表現できるようになる。（知識・理解） 2、伝わるように表現することがなぜ難しいのか演劇の特徴をふまえて考えられるようになる。（思考・判断・表現）	1、台本の役割を理解し、読む段階と演じる段階との差異を実感できるようになる。（知識・理解） 2,自らの理解を表現することがなぜ難しいのか考えられるようになる。（思考・判断・表現）
書道	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	毛筆・硬筆の基本（姿勢、執筆、用具用材、用筆法、運筆法、結構法など）を、楷書、行書、かなの単体を中心とした実技を通して身につける。さらに並行して、書道史、書道理論の知識を深め、様々な書の作品に触れることで、芸術作品としての書の鑑賞の仕方を身につける。書写を中心とした授業展開ではあるが、実用書式や、基本的な創作も導入し、書の楽しさを味わうことも目的とする。最終的に、文字の造形美と表現美を追究しながら、現代社会において文字や書を学ぶ大切さを理解する。	1.　毛筆によるすぐれた表現技術を習得できる。（技能）　2.　多くの古典に触れ、文字構造美と表現美について広汎に理解できる。（知識・理解） 3.　多くの書道作品に触れ、文字の美しさを深く鑑賞できる。（関心・意欲・態度）	1.　毛筆による表現技術を習得できる。（技能） 2.　多くの古典に触れ、文字構造美と表現美について理解できる。（知識・理解）　3.　多くの書道作品に触れ、文字の美しさを鑑賞できる。（関心・意欲・態度）
劇芸術演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	歌舞伎や能、人形浄瑠璃の代表的な作品について理解を深める。テキストを読み、映像も使いながら、各作品の特徴を掴む。また作品論などの先行研究を取り上げ、作品へのアプローチの可能性を探る。	１．古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解し、考察に生かすことができる。（知識・理解） ２．先行研究を踏まえて、作品に対する自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。（思考・判断・表現） ３．意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）	1．古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解することができる。（知識・理解） ２．先行研究の内容を口頭発表やレポートにまとめることができる。（思考・判断・表現）（技能） ３．意見交換の中で、他の受講生の意見に耳を傾け、自分の意見も言うことができる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）
劇芸術演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本の近現代の戯曲を取り上げていく。明治期から大正末期までは外国の戯曲の影響をうけながら新しい演劇の姿を模索していた時期である。またそれを上演する新しい俳優を十分に用意できた状況でもなかった。同時代の資料も確認しながら、上演の問題も考えられるようになることをめざす。	1、明治末期から昭和30年頃までの代表劇な日本の劇作家とその戯曲についての深く知識を身につける。（知識・理解） 2、近現代の戯曲を多角的な視点をもって読むことができる。（技能） 3、近現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して独自に考察することができる。（思考・判断・表現）	1、明治末期から昭和30年頃までの代表劇な日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。（知識・理解） 2、近現代の戯曲を正確に読むことができる。（技能） 3、近現代の戯曲について自ら考察することができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
劇芸術演習ＩC	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	この演習では、西洋の名作戯曲を歴史的背景を踏まえて読む。様々な時代や文化、歴史的出来事によってどのように戯曲は変化するか、その方法論を踏まえた上で議論する。	西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて理解し、具体的に詳述できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて一通り理解し、説明できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
劇芸術演習ＩD	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	宝塚歌劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1、宝塚歌劇について主体的な考察ができる。（思考・判断・表現） 2、宝塚歌劇について高度な知識・理解力・思考力を身につけている。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1、宝塚歌劇について基本的な考察ができる。（思考・判断・表現） 2、宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。（知識・理解）（思考・判断・表現）
劇芸術演習ＩE	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	この授業では映像作品を取り上げ、表現の特質や作品を研究するための基本的な知識を習得する。	1、映像作品を研究する上で必要とされる専門的な考え方と知識を身につける。（知識・理解） 2、映像作品を鑑賞して深く考察し、説明することができる。（思考・判断・表現） 3、自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあつめ考えをねり、感覚を言葉で説明することができる。（関心・意欲・態度）	1、映像作品を研究する上で必要な考え方と知識を身につける。（知識・理解） 2、映像作品を鑑賞して考察し、説明することができる。（思考・判断・表現） 3、自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあつめ、感覚を言葉で説明することができる。（関心・意欲・態度）
美術史演習ＩA	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	日本美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を獲得することを目的とする。具体的には、作品を実際に観察･分析･記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解）②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解）③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（技能）④調査した事柄をまとめて的確に発表できる。（思考・判断・表現）	①美術作品に表現された主題についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）②表現形式についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（技能）④調査した事柄をまとめて発表できる。（思考・判断・表現）
美術史演習ＩB	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	アジア諸地域の美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を獲得することを目的とする。具体的には、作品を実際に観察･分析･記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解）②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解）③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（技能）④調査した事柄をまとめて的確に発表できる。（思考・判断・表現）	①美術作品に表現された主題についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）②表現形式についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（技能）④調査した事柄をまとめて発表できる。（思考・判断・表現）
美術史演習ＩC	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	ヨーロッパ（中南米およびアジア・アフリカの一部を含む）の美術史に関する考察･研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を獲得することを目的とする。具体的には作品を実際に観察･分析･記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（知識・理解） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（技能） ④調査した事柄をまとめて的確に発表できる。（思考・判断・表現）	①美術作品に表現された主題についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）②表現形式についての知識をもちある程度説明することができる。（知識・理解）③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（技能）④調査した事柄をまとめて発表できる。（思考・判断・表現）
ジェンダー各論A	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	欧米を中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考究する。	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（知識・理解） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（思考・判断・表現） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分なりの意見を述べることができる（思考・判断・表現）	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（知識・理解） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（思考・判断・表現） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べることができる（思考・判断・表現）
ジェンダー各論B	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	日本・アジアを中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考究する。	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（知識・理解） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（思考・判断・表現） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分なりの意見を述べることができる（思考・判断・表現）	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（知識・理解） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（思考・判断・表現） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べることができる（思考・判断・表現）
現代文化各論A	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	欧米を中心とする現代文化の特定の領域について、映像・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（知識・理解）。 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（思考・判断・表現）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（技能）。	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて説明できるようになる（知識・理解）。 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現できるようになる（思考・判断・表現）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために応用することができるようになる（技能）。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
現代文化各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本・アジアを中心とする現代文化の特定の領域について、映像・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（知識・理解）。 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（思考・判断・表現）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（技能）。	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて説明できるようになる（知識・理解）。 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現できるようになる（思考・判断・表現）。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために応用することができるようになる（技能）。
歴史文化各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	欧米を中心とする文化の多様性と個別性を、歴史学的な視点から考察する。	1.欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、深い知識を習得している（知識・理解）。 2.欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、高度な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 3.欧米を中心とする文化の多様性・個別性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。	1.欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、基礎的な知識を習得している（知識・理解）。 2.欧米を中心とする文化の多様性・個別性について分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 3.欧米を中心とする文化の多様性・個別性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。
歴史文化各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本・アジアを中心とする文化の多様性と個別性を、歴史学的な視点から考察する。	1.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、深い知識を習得している（知識・理解）。 2.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、高度な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 5.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。	1.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、基礎的な知識を習得している（知識・理解）。 2.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（思考・判断・表現）。 5.日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。
思想文化各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主に欧米系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、イギリス経験論や大陸合理論といった思考の方法論や、キリスト教、あるいは産業革命を経て成立する資本主義と科学、さらには認識や観念における理性と感性の働き、アメリカ哲学等々、さまざまなパースペクティブから分析・考察する。	1.欧米系の哲学・思想を概観説明できる。(知識・理解) 2.欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。(知識・理解) 3.設定されたパースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を哲学的に考察できる。(知識・理解) 4.授業で培った理解に基づいて哲学的なレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	1.欧米系の哲学・思想を概観できる。(知識・理解) 2.欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。(知識・理解) 3.設定されたパースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。(知識・理解) 4.授業で培った理解に基づいてレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
思想文化各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主にアジア系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、原始仏教とその後に展開する大乗あるいは小乗仏教や、インド哲学、孔孟あるいは老荘思想といった古代中国思想の世界観、さらには神道や独自に形成される日本人の精神(たとえば死生観)等々、さまざまなパースペクティブから分析・考察する。	1.アジア系の哲学・思想を概観説明できる。(知識・理解) 2.アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。(知識・理解) 3..設定されたパースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を哲学的に考察できる。(知識・理解) 4.授業で培った理解に基づいて哲学的なレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	1.アジア系の哲学・思想を概観できる。(知識・理解) 2.アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。(知識・理解) 3..設定されたパースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。(知識・理解) 4.授業で培った理解に基づいてレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
神話・民話各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主として欧米系の社会、文化における言説の伝承と伝播の諸相を取り上げ、具体的な事例に則しつつ、その特質を論じ、究明する。	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる（知識・理解） 2. その伝承と伝播が欧米系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く理解し、自分の言葉で説明することができる（思考・判断・表現）	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる（知識・理解）
神話・民話各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主としてアジア系の社会、文化における言説の伝承と伝播の諸相を取り上げ、具体的な事例に則しつつ、その特質を論じ、究明する。	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる（知識・理解） 2. その伝承と伝播がアジア系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く理解し、自分の言葉で説明することができる（思考・判断・表現）	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる（知識・理解）
物語文化各論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主として欧米系の文学作品を他のジャンル（映像、絵画、漫画、舞台芸術など）との関連から読み解く。	1. 主として欧米の物語文化についての具体的な知識をえている（知識・理解）。 2. 主として欧米の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる（思考・判断・表現）。 3. 授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（関心・意欲・態度）。	1.作品名をいくつか挙げることができる（知識・理解） 2. 作品について基礎的な説明することができる。（思考・判断・表現）
物語文化各論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	主としてアジア系の文学作品を他のジャンル（映像、絵画、漫画、舞台芸術など）との関連から読み解く。	1. 主としてアジア系の物語文化についての具体的な知識をえている（知識・理解）。 2. 主としてアジア系の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる（思考・判断・表現）。 3. 授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（関心・意欲・態度）。	1.作品名をいくつか挙げることができる（知識・理解） 2. 作品について基礎的な説明することができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中国文化各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	中国文化が東アジアの文化の伝播、伝承に果たしてきた役割は大きい。この科目ではそうした中国文化の意義と役割に着目して、中国文化の諸相、内実を考え、現代文化を読み解く手法を追究する。	1. 中国文化の様々な姿について深く理解し、その特徴を自分の言葉で述べることができる。（知識・理解） 2. 中国文化が文化の伝播、伝承に果たす役割について深く理解し、議論をすることができる。（思考・判断・表現） 3. 現代文化における中国文化の意味と意義について深く理解し、「いま・ここ」の分析と考察に役立てることができる。（思考・判断・表現）	1. 中国文化の実例を学び、その特徴を自分の言葉で述べることができる。（知識・理解） 2. 中国文化が文化の伝播、伝承に果たす役割を学び、その実例を述べることができる。（知識・理解） 3. 中国文化における漢字文化の意味と意義について、自分の言葉で考えを述べることができる。（思考・判断・表現）
地中海文化各論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	地中海文化は欧米系の社会、文化の形成、展開に大きな影響を及ぼし続けている。この科目ではその具体的な諸相を議論しつつ、地中海文化を見るまなざしを培う。	1. 地中海文化を深く理解し、具体例を挙げつつその要素、構造、性質を説明することができる（知識・理解） 2. 地中海文化が欧米系の社会、文化に及ぼし続けている影響について深く理解し、自分の言葉でその関係を議論することができる（思考・判断・表現）	1. 地中海文化を理解し、具体例を挙げつつその要素、構造、性質を説明することができる（知識・理解） 2. 地中海文化が欧米系の社会、文化に及ぼし続けている影響について理解し、その関係を議論することができる（思考・判断・表現）
文化研究の手法A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	物語の読解に関する基礎的な知識を身につけ、文芸作品を分析することを学ぶ。	1. 物語を研究するために必要な知識が身についている（知識・理解） 2. 物語を研究するために必要な技法が身についている（技能） 3. 知識、技法を用いて、物語の具体的な分析をし、説得力のある説明を施すことができる（思考・判断・表現） 4. 他者と意見を交換し、自分の考えを構築することができる（関心・意欲・態度）	1.物語を読解するための方法をいくつか挙げることができる（知識・理解） 2.作品について説明することができる（関心・意欲・態度）
文化研究の手法B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	アンケート調査やインタヴュー調査、フィールドワークといった社会調査に関する基本的な知識と技能を学ぶ。	1、社会学の調査方法を正しく理解できる（知識・理解） 2. 調査倫理について正しく理解できる（知識・理解） 3. アンケート、インタヴュー、フィールドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる（技能） 4. 分析結果を正しく考察することができる（思考・判断・表現）	1 社会学の調査方法をおおむね理解できる（知識・理解） 2. 調査倫理について正しく理解できる（知識・理解） 3. アンケート、インタヴュー、フィールドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる（技能） 4. 分析結果を考察することができる（思考・判断・表現）
文化研究の手法C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	時代という文脈を踏まえて過去の所産を理解し、研究するための視座、基本的な知識と技能を学ぶ。	1. 歴史、思想を研究するために必要な知識が身についている（知識・理解） 2. 歴史、思想を研究するために必要な技法が身についている（技能） 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説得力のある説明を施すことができる（思考・判断・表現）	1. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な知識が身についている（知識・理解） 2. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な技法が身についている（技能） 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説明を施すことができる（思考・判断・表現）
思想文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	グループワークを通じて、私たち日本人の生活世界の基底にある「ものの見方・考え方」を、主に思想と信仰の側面から考察する。西洋・東洋それぞれの思想的水脈が、いかに現代の私たち日本人の暮らしに流れ込み、影響を与えているのかを分析し検証する。最終的には神道をも射程に入れつつ、私たち日本人独自の「ものの見方・考え方」や思想・信仰がどのように形成されてきたのか、その構造的原理を理解する。	1.各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。（技能） 2.入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大乗仏教の思想、中国思想を理解し、説明できる。（知識・理解） 3.入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大乗仏教の思想、中国思想それぞれの展開を理解し、さらには神道とその展開についても理解し、説明できる。（知識・理解） 4.理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方への影響と形成に関して、自らの有効な意見を展開することができる。（思考・判断・表現） 5.自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（思考・判断・表現） 6.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） 7.授業で培った理解と実践した発表を総合するレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。（技能） 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大乗仏教の思想、中国思想を概括的に理解説明できる。（知識・理解） 3. 理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方への影響と形成に関して自らの意見を展開することができる。（思考・判断・表現） 4. 授業で培った理解と実践した発表を総合するレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
芸術社会演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代アートを対象に、基礎的なテキスト・資料を読み解くとともに、自らデータを収集し、考察する。また発表、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1. 作品や事象について正しく理解し説明することができる（知識・理解） 2. 作品や事象を適切に分析することができる（技能） 3. 分析の結果を適切に表現することができる（思考・表現・判断） 4. 他者との意見交換を通して、自らの考えを構築することができる（関心・意欲・態度）	1. 作品や事象を説明することができる（知識・理解） 2. 作品や事象を分析することができる（技能） 3. 分析の結果を表現することができる（思考・表現・判断） 4. 他者との意見交換ができる（関心・意欲・態度）
物語文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	国、ジャンルを問わず、文芸作品（小説、映画、漫画など）を取り上げ、ジェンダーとアダプテーションに着目して物語文化を考察する。文献探し、発表、討論を通して意見を構成し、他者に伝える力を身につける。	1. 物語文化に関する批評についての基礎的な知識をえている（知識・理解）。 2. 作品を分析することができる（技能）。 3. 調査・分析の結果を表現することができる（思考・表現・判断） 4. 他者と意見の交換を通して、自らの意見を構築することができる（関心・意欲・態度）。	1. 物語文化について事例をあげることができる（知識・理解） 2. 発表、レポートを行なう最低限の能力を身につけている（技能）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
歴史文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本史の史料や歴史書などのうち、基礎的なテキストを丹念に読み解き、時代の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、深い知識を習得している（知識・理解）。 2.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを、正確に読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によって高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（思考・判断・表現）。 4.日本史の研究全般に対する高い関心･意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心･意欲･態度)。	1.日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、基礎的な知識を習得している（知識・理解）。 2.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（思考・判断・表現）。 4.日本史の研究全般に対する関心･意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心･意欲･態度)。
地中海文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	地中海文化にかかわる基本的な文章を読み解き、それに基づいて地中海文化について考え、世界の中の地中海文化について議論するための基礎を養う。	1. 基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を正確に読み取ることができる（知識・理解） 2. その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる（思考・判断・表現） 3. 他者と意見の交換を通して、自らの意見を構築することができる（関心・意欲・態度）	1. 基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を読み取ることができる（知識・理解） 2. その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、説明することができる（思考・判断・表現）
現代文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	現代文化のさまざまなありようを、文献、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、映像編集などを通じてわかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1. 現代文化について、文献や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（知識・理解）。 2. みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。（思考・判断）。 3. 映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる（表現・技能）。	1. 現代文化について、文献や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（知識・理解）。 2. みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を計画し、実行することができるようになる。（思考・判断）。 3. 映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことを伝達することができるようになる（表現・技能）。
中国文化演習Ⅰ	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	中国の基本的な文学作品に触れ、中国文化に出会う機会としつつ、中国のことにかぎらず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身が感じたことを表現する力を身につける。	1.テキストから中国文化の特色を十分理解し、説明することができる。（知識・理解） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる。（思考・判断・表現）	1. テキストから中国文化の特色を一定程度理解し、説明することができる。（知識・理解） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。（思考・判断・表現）
メディアと文芸A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディアと文芸Aでは「放送メディア」について幅広く学ぶ。映像・音声メディアである放送は、数百～数千万の人々に同時に視聴されるマス・メディアとして巨大産業へと発展し、日本の政治・社会・文化に大きな影響を与えてきた。その一方で放送は今日、デジタル化や「放送・通信の融合」、インターネット、ソーシャル・メディア、携帯情報端末の普及といったメディア環境の急激な変化の中で、大きな転換期を迎えてもいる。これらを背景に、本講義ではメディアとは何か・放送とは何かという基礎論を身に着けるところから出発しつつ、「送り手＝（放送局、制作者）」、「受け手＝（視聴者）」、「コンテンツ（＝番組）」それぞれの観点から、放送のあり方について多角的に検討し、放送のあるべき姿や将来像、課題等を探り、理解する。	1.放送をとりまく現代的状況について理論的、および実践的に理解・説明できる。（知識・理解） 2.メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについて理論的、および実践的に理解・説明できる。（知識・理解） 3.メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を理解したうえで総合的に説明できる。（知識・理解）	1.放送をとりまく現代的状況についての基本的な事項について理解・説明できる。（知識・理解） 2.メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについての基本的な事項について理解・説明できる。（知識・理解） 3.メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を理解したうえで最低限の説明ができる。（知識・理解）
メディアと文芸B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディアと文芸Bでは「出版メディア」に関する歴史や文化について幅広く学ぶ。 出版文化は歴史的に、文字の発明から写本時代、次いで印刷を基礎として成り立ってきた。近年、デジタル化・ネットワーク化の広がりによって出版形式自体も多様化し、出版の定義は必ずしも紙に印刷されたものだけでは把握しきれない状況がうまれている。こうした状況は、人々と読書のあり方や出版流通の形態、著者・出版社・読者の関係性にも少なからぬ変更を迫っている。本講義では従来の紙を中心としたアナログの出版文化に加え、複数のデジタル化・ネットワーク化による出版文化の変容を軸に、出版メディアをとりまく諸問題について理解する。	1.出版メディアに関する歴史と文化について、その背景を含めて総合的に説明できる。（知識・理解） 2.日本における出版流通の特色について、制度上の長所短所をふまえ、具体的な事例を挙げながら総合的に説明できる。（知識・理解） 3.現代の出版文化をとりまくアナログ・デジタル・ネットワーク／パッケージ・コンテンツなどの特色をすべて把握し総合的に説明できる。（知識・理解） 4.読者と著者、出版社と取次と小売店、人々と読書など、出版メディアに関わる相互の関係性や枠組みの変容について客観的に把握し総合的な説明ができる。（知識・理解） 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(技能)	1.出版メディアに関する歴史と文化について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2.日本における出版流通の特色について、代表的な事例を挙げつつ最低限の説明ができる。（知識・理解） 3.現代の出版文化をとりまくアナログ・デジタル・ネットワーク／パッケージ・コンテンツの特色のうち数個について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4.読者と著者、出版社と取次と小売店、人々と読書など、出版メディアに関わる相互の関係性や枠組みの変容について基本的な説明ができる。（知識・理解） 5.テーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(技能)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
メディアと文芸C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	芸術論全体の歴史的俯瞰とメディア論の視点からの芸術への視座について理解する。特に、複製可能なメディアによる芸術表現の今日的な意味づけと可能性について理解し、表現の一回性を旨とする伝統的な芸術作品との対比を習得する。すなわわち、活版印刷技術誕生以前の絵画・彫刻・建築・音楽・ダンスなどの芸術作品と社会の関係について、あるいは印刷技術の黎明期から映画・インターネット・モバイルネットワークによって配信され消費される多様な芸術形式と社会の関係について、歴史横断的に検討した上で新しいメディア表現、メディア操作を開拓する可能的なメディアへのアクセス能力を身につける。	(1)文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる。（知識・理解） (2)複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)コンピュータおよびそのネットワークがどのような変化を生じさせるかを見通すことが出来る。（知識・理解） (4)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、たとえば精神分析やジェンダー論に関する知識を習得し、応用できる。（知識・理解） (5)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物語の深層を読み解く技法を身につけ、応用できる。（技能）	(1)文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる。（知識・理解） (2)複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物語の深層を読み解くことができる。（技能）
メディア文化論A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	マスメディアとしての雑誌をメディア論的に理解し説明する。戦前・戦中・戦後という時代に応じて雑誌の歴史的展開を理解し、雑誌文化が社会の動きや仕組みと深い関わりがあることを理解する。また、雑誌が存在できる社会の条件を考察し、調査資料としての雑誌の価値を探る。さらには文化と教育制度という視点から雑誌を分析する。雑誌には男性誌と女性誌があるが、具体的に女性誌に焦点を絞るならば、明治時代に誕生した初の女性誌から、1970年創刊の日本初のファッション誌「アンアン」までの歴史を辿り、女性誌がその時代の社会の仕組みの影響をどのように受けてきたか、さらに女性誌が果たしてきた役割を社会との関係という視点から理解し考察する。	(1)マスメディアとしての雑誌をメディア論的に理解し説明できる。（知識・理解） (2)戦前・戦中・戦後という時代に応じて雑誌の歴史的展開を理解し、雑誌文化が社会の動きや仕組みと深い関わりがあることを説明できる。（知識・理解） (3)雑誌が存在可能な社会の条件を考察し、調査資料としての雑誌の価値を探ることができる。（知識・理解） (4)文化と教育制度という視点から雑誌を分析することができる。（知識・理解） (5)具体的に女性誌の歴史的展開を理解し、女性誌がその時代の社会の仕組みの影響をどのように受けてきたか、さらに女性誌が果たしてきた役割を社会との関係という視点から考察できる。（知識・理解）	(1)マスメディアとしての雑誌をメディア論的に理解し説明できる。（知識・理解） (2)戦前・戦中・戦後という時代に応じて雑誌の歴史的展開を理解し、雑誌文化が社会の動きや仕組みと深い関わりがあることを説明できる。（知識・理解） (3)雑誌が存在可能な社会の条件を考察し、調査資料としての雑誌の価値を探ることができる。（知識・理解）
メディア文化論B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディア史やカルチュラル・スタディーズを含むメディア文化研究の視点をてがかりに、新聞、雑誌、ラジオ、映画、テレビといったマスメディアや、インターネットやSNS等のソーシャルメディアが歴史のなかでどのように継続・断絶をくりかえしながら相互に発展してきたのかについて、総合的に学ぶ。また、その歴史のみならずそれらが成立してきたプロセスや文化的背景についても考えていく。具体的な歴史資料や映像作品に触れながら、メディアを総体的に、そして歴史的に捉えることでメディア文化について深く理解する。	1.メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアごと総合的な説明をすることができる。（知識・理解） 2.メディア文化研究の知識と方法論を習得し、総合的に説明することができる。（知識・理解） 3.パーソナルメディアとマスメディアの違いと特性について論理的に説明できる。（知識・理解） 4.マスコミュニケーションの効果研究論と文化記号論双方の特色について理解し、説明することができる。（知識・理解） 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。（技能）	1.メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアの一部に関して基本的な説明をすることができる。（知識・理解） 2.メディア文化研究の知識と方法論を習得し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 3.パーソナルメディアとマスメディアの違いと特性についておおよそ説明できる。（知識・理解） 4.マスコミュニケーションの効果研究論と文化記号論双方の特色について理解し、基本的な説明をすることができる。（知識・理解） 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。（技能）
メディア文化論C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	メディアとしての「広告」とは、どのような種類のもので、何を（広告内容）・誰に（広告ターゲット）・どのように（広告戦略および表現）・何のために（広告目的）伝達しようとするものなのか、そしてその社会的役割とは何か等々について幅広く理解し、考察する。その際、受容者たる生活者・消費者との間に瞬時に成立するコミュニケーションの性質と意味、さまざまな商品のブランディングの特徴と意味、さらには広告に込められたメッセージ性につき、表象文化論的・記号論的に分析し考察する。多様な広告ジャンルのなかで、どこに焦点を絞るかによっても考察の仕方が変わるであろうが、可能な限り身近な広告を例として制作的技術的側面も射程に入れる。	(1)メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる。（知識・理解） (2)広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)受容者との間に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し説明でき、他のコミュニケーションと比較考察できる。（知識・理解） (4)ブランディングとは何かを理解し、さらには商品のブランディングの特徴と意味を考察できる。（知識・理解） (5)表象文化論および記号論とは何か、理解し説明できる。（知識・理解） (6)方法論としての表象文化論および記号論を理解し、分析技法に応用できる。（技能）	(1)メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる。（知識・理解） (2)広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる。（知識・理解） (3)受容者との間に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し、説明できる。（知識・理解） (4)ブランディングとは何かを理解し、さらには商品のブランディングの特徴と意味を説明できる。（知識・理解）
図書館論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	伝統的な社会機関としての図書館について、その意義・機能や歴史、関連法規と行政、基本的機能と構成要素について知り、図書館の種類とそれぞれの役割、図書館のサービスと活動について概観し、図書館とその機能についての理解を深めるようにする。また情報化、国際化が進む社会における役割、生涯学習社会における代表的な社会教育機関としての役割など図書館が果たすべき社会的役割を考える。	図書館の存在意義，機能，および社会の中での役割について網羅的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 図書館の構成要素および業務の種類について体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 図書館司書課程の入門科目である本科目と図書館司書課程の他の科目との関連を体系的に理解し，専門用語を用いて他者に説明できる。(知識・理解)	図書館の存在意義，機能，および社会の中での役割について最低限の説明ができる。(知識・理解) 図書館の構成要素および業務の種類について最低限の説明ができる。(知識・理解) 図書館司書課程の入門科目である本科目と図書館司書課程の他の科目との関連を理解し，具体的に述べることができる。(知識・理解)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
自己表現実習	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	人生を振り返りつつ「私」について語ること（自己の語り）、相手に認めてもらうために行う表現（自己呈示）、相手とのコミュニケーションを想定した表現技術という３つの側面から自己表現を捉え実践的な実習を行う。自分史の語りについての理念的な把握と自分史制作、アートパフォーマンスの社会学的な分析とオーディエンスを想定したパフォーマンス企画、プレゼンテーション技術の実際，という構成で自己表現を単なる知識ではなく自らのワザとなるように学修する．	（１）自分史の語りについての理念的な把握ができる（知識・理解） （２）自分史を常に編集可能な制作物として完成させることができる（思考・判断・表現） （３）アートパフォーマンスの社会学的な分析について理解できる（知識・理解） （４）オーディエンスを想定した独創的で説得力のあるパフォーマンスを企画できる（技能） （５）プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している（技能） （６）プレゼンテーションの基礎のみならず応用技術を学修している（技能）	（１）自分史の語りについての理念的な把握ができる（知識・理解） （２）自分史を制作物として完成させることができる（思考・判断・表現） （３）アートパフォーマンスの社会学的な分析について理解できる（知識・理解） （４）オーディエンスを想定したパフォーマンスを企画できる（技能） （５）プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している（技能）
身体メディア実習	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	マーシャル・マクルーハンは著書『メディア論―人間の拡張の諸相』において「すべてのメディアは人間の機能および感覚を拡張したものである」と述べている。この理論枠組みを基盤として本実習では、人間の身体にまつわる様々なメディアを考察する。とりわけ、身体の第一の拡張産物であるファッション（ここでは、服装、化粧、表情やしぐさを含めた広義のファッションをさす）に焦点を当て、「ファッションは、我々の内外面を拡張するメディアである」という立場から、実習を通してファッションが果たしうる可能性について考察する。ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し理解を深め、履修者自身がセルフイメージを変身させる実習を通し、自己分析を行なう。これらの結果、装いとは、自己を表現するメディアそのものであり、他者や社会からの視線を介在させながら、自己を規定していることを理解する。	（1）マーシャル・マクルーハンの著書『メディア論―人間の拡張の諸相』における理論枠組みを理解することができる（知識・理解） （2）人間の身体にまつわる様々なメディアに対して深く考察することができる（思考・判断・表現） （3）広義のファッションに焦点を当て、実習を通してファッションが果たしうる可能性について多角的に考察することができる（思考・判断・表現） （4）ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し様々な視点から理解を深めることができる（思考・判断・表現） （5）セルフイメージを多様に変化させることによって、装いとは、自己表現メディアであることを充分に理解しそのことを具体的に記述することができる（関心・意欲・態度）	（1）マーシャル・マクルーハンの著書『メディア論―人間の拡張の諸相』における理論枠組みを理解することができる（知識・理解） （2）人間の身体にまつわる様々なメディアに対して考察することができる（思考・判断・表現） （3）広義のファッションに焦点を当て、実習を通してファッションが果たしうる可能性について考察することができる（思考・判断・表現） （4）ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し理解を深めることができる（思考・判断・表現） （5）セルフイメージを多様に変化させることによって、装いとは、自己表現メディアであることを理解しそのことを具体的に記述することができる（関心・意欲・態度）
芸術メディア実習A	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	映像表現は、芸術・娯楽・報道など多様な目的に利用されており、メディアとしては、感覚・行動・思想を共有するための最も強力で容易なものである。近年、「プロジェクションマッピング」や「360度動画」は、映像を用いた新しい表現媒体として個人でも手軽に利用できるようになってきた。 本授業では、プロジェクションマッピングおよび360度動画の作品制作実習を通して、それらの表現力を体感し、映像による各種表現媒体の利点と欠点について考察する。	・プロジェクションマッピングの利点と欠点について説明できる。（知識・理解） ・360度動画の利点と欠点について説明できる。（知識・理解） ・動画編集または撮影における基礎的な表現技法について具体例を挙げて説明をすることができる。（技能） ・他者と協働し、プロジェクションマッピングまたは360度動画作品を完成させることができる。（関心・意欲・態度） ・他者の映像作品を鑑賞し、多様な視点で所感を述べることができる。（思考・判断・表現）	・プロジェクションマッピングの概要を説明できる。（知識・理解） ・360度動画の概要を説明できる。（知識・理解） ・動画編集における基礎的な表現技法について述べることができる。（技能） ・プロジェクションマッピングまたは360度動画の作品制作に寄与することができる。（関心・意欲・態度） ・他者の映像作品を鑑賞し、総合的な所感を述べることができる。（思考・判断・表現）
芸術メディア実習B	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	1	芸術を世にもたらしてきたメディア技術の発達の系譜を、ノーテイション技術の歴史に照らしつつ理解する．例えば，映像における絵コンテもノーテーション技術の一つと考えられる．そのうえで、編集、アーカイブ，伝達の技術が、実際のプロフェッショナルな映像制作の現場では、どのように活かされるか、様々なジャンルの映像作品を教材として、作品制作を通して理解する．	（１）ノーテイション技術の歴史について教科書を手掛かりに実際の芸術作品を対象として考察・分析できる（知識・理解） （２）編集，アーカイブ，伝達の技術について基礎的知識を獲得しそれを応用することができる（知識・技術） （３）得られた知識を実際のオリジナルの映像制作に応用できる（思考・判断・表現） （４）様々なジャンルの映像作品から自らのテーマに応じた制作への着想を自由に幅広く獲得することができる（関心・意欲・態度）	（１）ノーテイション技術の歴史について教科書を手掛かりに考察できる（知識・理解） （２）編集，アーカイブ，伝達の技術について最低限度の知識を獲得し指示をてがかりに操作することができる（知識・技術） （３）得られた知識を実際のオリジナルの映像制作に指示を手掛かりに応用できる（思考・判断・表現） （４）様々なジャンルの映像作品から自らのテーマに応じた制作への着想を得ることができる（関心・意欲・態度）
コンピュータ科学	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	コンピュータは、複雑な処理を間違い無くこなす優れた情報処理装置である。この優れた機能は、ハードウェア・ファームウェア・ドライバ・ＯＳ・アプリケーション・データを階層的に構成し役割分担する事で実現されている。個々の階層の内容と、階層間の相互関係とを、体系的な知識として身に着けられるよう解説する。	コンピュータの基本構成や動作原理を体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） ICT関係の機器やサービスの仕様を理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 得た知識を用いて「世の中の動き」を読み解き，また，トラブル回避を行うことができる。（技能）	・コンピュータの基本構成や動作原理についての最低限の説明ができる。（知識・理解） ・ICT関係の機器やサービスの仕様についての最低限の説明ができる。（知識・理解） ・得た知識を用いて「世の中の動き」をある程度読み解くことができる。（技能）
コンピュータネットワーク論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	コンピュータネットワークとして圧倒的な利用実績を有するTCP/IP，あるいはコンピュータの通信機能として国際機関により制定されたOSI参照モデルを取り上げて解説する。基本原理と階層構造とを説明し、多数のコンピュータを相互接続して双方向通信を実現する仕組みを理解する。コンピュータネットワークの存在を前提としたサービスやその実現方法について解説する。	基本プロトコルの原理と階層構造を網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。（知識・理解） コンピュータを相互接続して通信を実現するしくみを体系的に理解し，それを他者に説明することができる。（知識・理解） コンピュータネットワークが人間社会にもたらす利便性を体系的かつ網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。（知識・理解） コンピュータネットワークの危険性および危険回避の考え方を網羅的に理解し，それを他者に説明することができる。（知識・理解）	・基本プロトコルの原理と階層構造について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・コンピュータを相互接続して通信を実現するしくみについて最低限の説明ができる。（知識・理解） ・コンピュータネットワークが人間社会にもたらす利便性について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・コンピュータネットワークの危険性および危険回避の考え方について最低限の説明ができる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
情報システム論	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	コンピュータやインターネット、ソフトウェア、そしてそれを使用する人間を組み合わせて、あるまとまった動作をするために作られた「しくみ」を情報システムという。現代は情報システムがなければ社会が動かないとさえいわれている。本科目では、我々の生活の中でどのような情報システムが使われており、それらがどのように動作しているかを解説する。また、人間にとって有用な情報システムが備えるべき要件や情報システム構築法の一般論、情報システムを安全に運用するための工夫などを解説する。	身の回りの情報システムの構成要素および「どのように動作しているか」を体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 情報システムの構築方法や安全運用の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） どのような情報システムが人間にとって有用であるかを網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 情報システムを安全に運用する方法を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解）	・身の回りの情報システムの構成要素および「どのように動作しているか」についての最低限の説明ができる。（知識・理解） ・情報システムの構築方法や安全運用の方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） ・どのような情報システムが人間にとって有用であるかについて最低限の説明ができる。（知識・理解） ・情報システムを安全に運用する方法について最低限の説明ができる。（知識・理解）
文芸メディア演習ⅠA	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	映像撮影技法に現れるリアリズムとフォルマリズム、空間構成とミザンセヌ分析、モンタージュ技法と映像のリアリティなどを実践的・体験的に学ぶ。実際にグループワークとしての映像制作を通じて上記の映像メディア技術に対する基礎理解を深める。その後、学び舎周辺の風景を映像として切り取るワークショップを通じて、映像に関わる基礎的な知識の応用的な展開を経験すると同時に、地域への洞察を深める映像フィールドワーカーとしてエスノグラフィーを書くことを目指す。	決められたテーマに関する映像技法を図書館やWebにて適切に検索し獲得することができる。（技能） 入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） 聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	決められたテーマに関する最低限の映像技法を図書館やWebにて獲得することができる。（技能） 入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。（思考・判断・表現） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（思考・判断・表現） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。（関心・意欲・態度） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
文芸メディア演習ⅠB	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	出版文化やメディア文化の歴史を扱う文献やテクストを輪読し、メディア文化全般に関わる基礎的な事柄について幅広く学ぶ。出版の歴史あるいは読書の文化史といったベーシックなテーマから、昭和平成の歌謡史や都市と若者文化、メディアに表象される世代とファッションなど、サブカルチャー関連のテーマについても学ぶ。資料調査に基づくアカデミックなアプローチ方法について理解を深め、講読内容や個別テーマに関するプレゼン発表、ディベートをあわせて実施する。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。（技能） 2.入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） 4.聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現） 7.メディア文化に関する幅広い知識を正しく理解し、それらを自ら選んだテーマへ適切に援用することができる。（知識・理解）	1.決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（技能） 2.入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。（思考・判断・表現） 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（思考・判断・表現） 4.手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 5.他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。（関心・意欲・態度） 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現） 7.メディア文化に関する基礎的な知識を理解し、それらを自ら選んだテーマへいくつか援用することができる。（知識・理解）
文芸メディア演習ⅠC	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	多様な通信やメディアを概観し、実体験を通じその変遷や進化を探る。また、文学や芸術において、近代の高度情報化社会やサイバーメディアがどのような作用をしているのか、検証あるいは創造的活動を通じて考察する。本科目では、各自のテーマを見出し、個人またはグループで調査や作品制作を行う。必要に応じ、本学の1・3・4年生や大学院生および他大学の学部生や院生との交流や研究発表会を通じ、最終学年に向けたゼミナール活動がどのようなものか知る機会を設ける。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。（技能） ・入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） ・聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（思考・判断・表現） ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現） ・自らテーマを設定し調査または作品制作に着手できる（技能）（思考・判断・表現） ・４年次の卒業論文や卒業制作がどういうものか把握する（知識・理解）	・決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（技能） ・入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。（思考・判断・表現） ・自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（思考・判断・表現）・ ・手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（思考・判断・表現） ・他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。（関心・意欲・態度） ・自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現） ・４年次の卒業論文や卒業制作がどういうものか把握する（知識・理解）
文芸メディア演習ⅠD	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	2	日本のマンガ文化について、メディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心に、その特徴の歴史的な成立過程と今後の在り方について、メディア文化研究・サブカルチャー研究・マンガ研究の視点を踏まえながら実践的・体験的に学ぶ。得られた知識をもとに討論やグループワークを行うとともに、各自テーマを見出し、レポートにまとめた上でプレゼン形式で発表する。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。（技能） ・入手した資料をもとに，深い考察を行い，自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） ・聴衆に顔を向け，映写資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（思考・判断・表現） ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し，有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現）	決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（技能） 入手した資料をもとに考察を行い，自らの意見を持つことができる。（思考・判断・表現） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（思考・判断・表現） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（思考・判断・表現） 他者の発表についての意見交換において最低1回の発言ができる。（関心・意欲・態度） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸メディア演習ＩＥ	文芸学部　専門分野Ｉ	2	2	グループワークを通じて、現代的通信メディアと放送メディアにおける「メディアリテラシー」を分析・考察する。具体的には、従来のインターネット上のリテラシーに加え、「Web2.0」と呼ばれる空間の在り方（たとえばTwitter・Facebook・LINE・Instagramといった各種SNSや動画）に対応するリテラシーを分析し、プレゼン形式にて発表する。さらには放送メディアにおけるリテラシーの問題の所在を抽出し、その育成を具体的にレポートし、プレゼン形式にて発表する。	(1)通信メディアと放送メディアに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。（技能） (2)入手した資料をもとに考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（思考・判断・表現） (3)自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。（思考・判断・表現） (4)聴衆に顔を向け、映写資料を指し示しながら分かりやすくプレゼンすることができる。（思考・判断・表現） (5)他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（関心・意欲・態度） (6)授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（思考・判断・表現） (7)通信メディアと放送メディアにおけるリテラシーの具体的育成方法を提示できる。（思考・判断・表現）	(1)決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(技能) (2)入手した資料をもとに考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(思考・判断・表現) (3)自らの意見を他者に伝えるための資料を作成できる。(思考・判断・表現) (4)聴衆に顔を向け、映写資料を指し示しながらプレゼンすることができる。(思考・判断・表現) (5)自らの発表についてのレポートを作成できる。（思考・判断・表現）
図書館制度・経営論	文芸学部　その他資格関連科目	2	2	科目名に含まれる「制度」とは各種法規を意味する。図書館に直接あるいは間接的に関係する法規(憲法・法律・政令・省令・通達・条例等)を学び，さらには宣言や申し合わせ等にも視野を広げる。その上で，社会的機関としての図書館経営とは何かを考え，利用者に有効な図書館サービスを提供するためには，図書館をどのように組織し，管理・運営していったらよいか，すなわち「図書館経営」を検討する。通常，図書館経営には，国や自治体の行政・財政，職員・組織，サービス計画・評価，財政管理，施設・設備などに関わる業務，すなわち利用者に対する直接的なサービス活動が効果的に行えるようにするための諸業務が含まれる。図書館の経営・管理面に関する基本的な知識を学ぶ。	図書館に関する各種法規を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 図書館経営の在り方の理論を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 図書館経営の実際を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 今日の図書館経営における課題を理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解)	図書館に関する各種法規について最低限の説明ができる。(知識・理解) 図書館経営の在り方の理論について最低限の説明ができる。(知識・理解) 図書館経営の実際について最低限の説明ができる。(知識・理解) 今日の図書館経営における課題について最低限の説明ができる。(知識・理解)
図書館サービス概論	文芸学部　その他資格関連科目	2	2	公共図書館を中心に、図書館サービスの意義と具体的な活動内容を検討する。サービスの構造、サービスの種類と方法、利用対象者別のサービス、サービスの現状を理解し、今後、公共図書館にどのようなサービスが求められるかを考える。図書館が提供しているサービスについて、様々な視点から捉え考察する。さらに、現代の情報化社会において、図書館がどのようなサービスを展開していくべきかを検討する。	図書館サービスの種類と方法について体系的かつ網羅的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) それぞれの図書館サービスの意義を深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 利用者の属性(年齢層等)に対応した図書館サービスについて深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 情報化社会に対応するための図書館サービスについて網羅的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解)	図書館サービスの種類と方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) それぞれの図書館サービスの意義について最低限の説明ができる。(知識・理解) 利用者の属性(年齢層等)に対応した図書館サービスについて最低限の説明ができる。(知識・理解) 情報化社会に対応するための図書館サービスについて最低限の説明ができる。(知識・理解)
情報資源組織論	文芸学部　その他資格関連科目	2	2	図書館が扱う情報資源にアクセスする手掛りとして一般的に用いられる「記述目録法」と「主題組織法」を中心に、情報・資料の組織化に関する理論と基本的な技術について学ぶ。活字媒体の情報資源の組織化についてその基礎を習得したうえで、インターネット上の情報資源のメタデータ化の基礎についても学ぶ。	目録法に基づく目録記入(目録レコード)作成および目録編成の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 分類法に基づく分類作業の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 目録と分類記号による情報資源検索の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 件名標目表に基づく件名作業の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) ネットワーク情報資源のメタデータ作成の方法を体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解)	目録法に基づく目録記入(目録レコード)作成および目録編成の方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 分類法に基づく分類作業の方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 目録と分類記号による情報資源検索の方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 件名標目表に基づく件名作業の方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) ネットワーク情報資源のメタデータ作成の方法について最低限の説明ができる。(知識・理解)
情報資源組織演習A	文芸学部　その他資格関連科目	2	1	情報資源組織論で得た知識に基づき、主題分類法の考え方と技術を習得することを目的とする。日本の標準分類法である『日本十進分類法(NDC)』の構造および適用法について、演習を通して理解することを目指す。合わせて『基本件名標目表(BSH)』と件名作業の実際についても理解を深めるようにする。	『日本十進分類法(NDC)』の本表および相関索引を使用した基本的な分類記号付与に加え，応用的な分類記号付与ができる。(技能) 『日本十進分類法(NDC)』の補助表を体系的に理解し，様々な分類記号付与の場面に適用できる。(技能) 『基本件名標目表(BSH)』のしくみを理解し，基本的な件名作業に加え，応用的な件名作業ができる。(技能)	『日本十進分類法(NDC)』の本表および相関索引を使用した基本的な分類記号付与ができる。(技能) 『日本十進分類法(NDC)』の補助表についておおよそ理解し，指示された分類記号付与の場面に適用できる。(技能) 『基本件名標目表(BSH)』のしくみを理解し，基本的な件名作業ができる。(技能)
情報サービス論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	現代社会における情報サービスの意義を明らかにし、情報サービスの種類と機能、情報探索プロセス、サービスの基盤となる情報源、図書館利用教育、情報社会における情報サービスの新たな展開を探りながら、新たな情報ニーズに対する伸展的なサービスなどについて総合的に解説する。情報サービスの理論とサービス方法について学習し、サービスの基本を理解する。図書館における情報サービスの意義と種類、印刷資料・電子資料など各種情報源の種類と構築、サービスの流れ、組織と担当者など情報サービスを総合的に考察し、情報サービスの内容と方法に関する基本的知識を身に付ける。	情報サービスの種類と機能について体系的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) レファレンスサービスの方法と意義を深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) レファレンスサービスに使用される種々の情報源について網羅的に理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解) 図書館利用者教育の必要性と方法について深く理解し，それを他者に説明できる。(知識・理解)	情報サービスの種類と機能について最低限の説明ができる。(知識・理解) レファレンスサービスの方法と意義をについて最低限の説明ができる。(知識・理解) レファレンスサービスに使用される種々の情報源について最低限の説明ができる。(知識・理解) 図書館利用者教育の必要性と方法について最低限の説明ができる。(知識・理解)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
情報サービス演習	文芸学部　その他資格関連科目	3	1	情報や文献の探索能力を身につけるため、レファレンスツールを用いた探索方法を体得することを目標とする。従来から利用されている主要な参考図書や各種情報源の調査と評価、質問の受付から回答に至るプロセスの学習などにより、レファレンスサービスの基本を理解することを目指す。加えて、新しいレファレンス情報源であるネットワーク上に存在する情報源の調査、評価、活用についても学ぶ。演習問題の解決を通して、質問の受付から回答までの実際の業務を体験することで、実践的なレファレンスサービスの方法や技術の習得とプロセスの理解を目指す。具体的には、参考図書やその他のレファレンス情報源の評価、それらを用いたレファレンス質問への回答技法、レファレンス記録の作成などについて学ぶ。併せてインターネット上の情報源の基礎的な活用も演習する。さらにレファレンスサービスの現状と課題についても検討する。	基本的なレファレンスツールの使用に習熟し，それらを難易度の高いレファレンスサービスへ自ら考えて適用することができる。（技能） 基本的なレファレンスツールに加え，応用的なレファレンスツールを使用することができる。（技能） 利用者の情報要求を引き出すにあたり，自ら考えて方法(レファレンスインタビュー等)を適用することができる。（技能） レファレンスサービスの結果を自らの考えで，また，自ら方法を選んで，わかりやすく回答することができる。（技能） レファレンス情報源の評価を行うことができる。（技能）	基本的なレファレンスツールを，難易度の低いレファレンスサービスへ指示通りに適用することができる。（技能） 基本的なレファレンスツールに加え，応用的なレファレンスツールの名称を調べる方法を知っている。（技能） 利用者の情報要求を引き出すにあたり，指示された方法で行うことができる。（技能） レファレンスサービスの結果を指示された方法で回答することができる。（技能）
図書館情報資源概論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	図書館サ－ビスを成り立たせる最も重要な要素は図書館情報資源である。図書館にとってなくてはならない代表的な情報資源として図書があるが、図書以外にも様々なメディアが図書館のコレクションを構成している。図書館員にとって情報資源に関する知識は必須である。これら図書館のコレクションを構成する多様な情報資源の収集とコレクションの構築と維持・管理、さらには出版流通に関する基本的な知識の修得を狙いとする。まず図書館情報資源とはなにかについて述べたうえで、図書や雑誌といった印刷資料や、マイクロ資料、電子資料、ネットワーク情報資源など様々な情報資源の特質を学び、図書館の情報資源の全体像を把握する。次いで、情報資源の選択と収集、維持・管理、評価と再編の実際について解説する。併せて図書館情報資源に関わる重要なトピックとして、出版流通の現状、「図書館の自由」、著作権などの問題を取り上げる。	図書や雑誌，新聞といった印刷情報資源の特徴や扱い方を深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 視聴覚情報資源の特徴や扱い方を深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） ネットワーク情報資源の特徴や扱い方を深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） コレクション形成の理論を体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 出版流通の現状を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 図書館情報資源に関わる宣言や法規を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解）	図書や雑誌，新聞といった印刷情報資源の特徴や扱い方について最低限の説明ができる。（知識・理解） 視聴覚情報資源の特徴や扱い方について最低限の説明ができる。（知識・理解） ネットワーク情報資源の特徴や扱い方について最低限の説明ができる。（知識・理解） コレクション形成の理論について最低限の説明ができる。（知識・理解） 出版流通の現状について最低限の説明ができる。（知識・理解） 図書館情報資源に関わる宣言や法規について最低限の説明ができる。（知識・理解）
図書館情報資源特論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	特殊資料としての専門資料を一般資料と対比して解説し、専門資料の捉え方、評価、利用方法について概説する。図書館資料学の中で特に文献の書誌構造に注目し、文献次数（1次文献、2次文献、3次文献）と書誌構造との相関関係から専門資料を理解する方法をいくつかの専門分野を例に論じ、その知識が全ての分野へ応用可能であることを示す。これにより、専門資料および専門的知識がどのようにレファレンスサービスに応用されているかを習得する。また、インターネット上にある専門資料に関してもその特徴と役割、印刷物との相違等について解説する。	専門資料の概念および概要について網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 多くの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 2次文献，3次文献が何であるかを理解し，それをどのように図書館活動に活かすことができるのかを深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） インターネット上の専門資料について網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 自ら専門資料を探索し，それをレファレンスサービスに応用することができる。（関心・意欲・態度）	専門資料の概念および概要について最低限の説明ができる。（知識・理解） いくつかの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて最低限の説明ができる。（知識・理解） 2次文献，3次文献が何であるかを理解し，それをどのように図書館活動に活かすことができるのかについて最低限の説明ができる。（知識・理解） インターネット上の専門資料について最低限の説明ができる。（知識・理解）
情報資源組織論演習Ｂ	文芸学部　その他資格関連科目	3	1	情報資源組織論の理解に基づき、『日本目録規則(NCR)』による目録作成演習をおこない、目録規則を実践的に理解することを目指す。またメタデータの作成などを通してネットワーク情報資源の組織化の現状を理解する。さらに図書館の情報資源組織の仕組みを理解するとともに、書誌データベースの構造を知ることを目指す。演習では『日本目録規則(NCR)』を使用し、情報資源は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成の技術を習得する。また、大規模書誌作成機関が集中的に目録作業を行った結果を利用して自館の目録を作成することが一般的になってきている。そうした目録情報の検索と目録作業への適用についても学ぶ。	『日本目録規則(NCR)』に基づく基本的な記述の作成に加え，応用的な記述の作成ができる。（技能） 典拠に基づく基本的な標目選定に加え，応用的な標目選定ができる。（技能） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の基本を理解したうえで，メタデータ作成ができる。（技能） 集中目録のしくみを深く理解し，所在情報入力を行うことができ，応用的なデータ入力・修正ができる。（技能）	『日本目録規則(NCR)』に基づく基本的な記述の作成ができる。（技能） 典拠に基づく基本的な標目選定ができる。（技能） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の基本を理解し，最低限の説明ができる。（知識・理解） 集中目録のしくみを理解し，所在情報入力を行うことができ，基本的なデータ入力・修正ができる。（技能）
児童サービス論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	児童サービスの目的は、図書館に所蔵している児童資料を媒介とし、子どもたちに本を読む面白さ楽しさを知ってもらい、自発的に読書をする習慣を身に付けさせ、本を読むことによって思考力や創造性を高め、豊かな人間性をもった大人へと成長することを、側面から援助してゆくことにある。児童への援助をより適切に行うためには、子どもたちの読書能力・読書興味の発達段階に即応した指導の方法と、媒介となる適切な読書資料についての基本的知識が必須となる。読書指導の意義、児童資料の選択、児童を対象とした各種サービス、児童図書館の運営などについて解説し、児童サービスへの理解を深めてもらうことを目的とする。	子どもの読書の意義と重要性について深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 公共図書館の児童サービスの役割と実際について深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 子どもと本を結びつけるために必要な知識と技術を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 発達段階に応じた読書資料の選定について深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 近年の子どもの読書環境の変化について自ら学び，児童サービスと児童図書館員の在り方を積極的に考えられるようになる。（関心・意欲・態度）	子どもの読書の意義と重要性について最低限の説明ができる。（知識・理解） 公共図書館の児童サービスの役割と実際について最低限の説明ができる。（知識・理解） 子どもと本を結びつけるために必要な知識と技術について最低限の説明ができる。（知識・理解） 発達段階に応じた読書資料の選定について最低限の説明ができる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
図書及び図書館史	文芸学部　専門分野Ⅰ	3	2	いずれの時代に作られた図書にしろ図書館にしろ、その時代に生き生活していた人たちの要求を反映した社会的な産物であったことは言うまでもない。 従って、それぞれの時代の社会体制の変化や文化の発達などと密接に関連付けて図書や図書館を考えなければ、本当の理解を得ることはできない。図書をはじめとする情報の記録媒体と図書館の発展の過程を概説し、図書館の基本的な機能と社会的役割を考える。ヨーロッパおよびアメリカを中心に、近代的な図書館思想が成立してゆく過程を歴史的に跡付けることにより、近代図書館が有している特有の思想や性格を知り理解を深めてもらうことを目的とする。	図書をはじめとするメディアの形態の歴史について網羅的に理解し，それを現代のメディアと対比させつつ他者に説明できる。（知識・理解） 印刷の歴史について網羅的に理解し，それを現代の印刷技術と対比させつつ他者に説明できる。（知識・理解） 図書の流通の歴史について網羅的に理解し，それを現代の流通(日本及び諸外国)と対比させつつ他者に説明できる。（知識・理解） 近代的図書館思想が成立してゆく過程を網羅的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） 図書館の持つ基本的機能と社会的役割の変遷について網羅的に理解し，それを現代の図書館と対比させつつ他者に説明できる。（知識・理解）	図書をはじめとするメディアの形態の歴史について最低限の説明ができる。（知識・理解） 印刷の歴史について最低限の説明ができる。（知識・理解） 図書の流通の歴史について最低限の説明ができる。（知識・理解） 図書館の歴史をおおよそ理解し，それを具体的に述べることができる。（知識・理解）
図書館サービス特論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	図書館司書は、情報とそれを必要とする利用者との橋渡しをする。そのためには利用者との会話をする能力が必要である。本科目では、伝えたいことを相手にわかりやすく伝える方法や相手の話を聞き趣旨を理解する方法について論ずる。さらに、公共図書館における課題解決支援サービスの現状について，事例をあげつつ意義や役割について解説する。	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し，それを実践できる。（技能） 公共図書館における課題解決支援サービスの意義や役割を深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解）	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 公共図書館における課題解決支援サービスについて最低限の説明ができる。（知識・理解）
図書館基礎特論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	「生涯学習概論」「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館制度・経営論」は特に図書館司書課程の中でも基礎部分を成す重要な必修科目である。本科目ではこれら4科目で学ぶ内容のうち、いくつかの話題についてさらに深く学ぶ。変化の早い分野であるので、ここ5～10年以内の話題をとりあげる予定である。	授業で採り上げる以下のいずれかについて深く理解し，それを他者に説明でき，それについて有効な意見を述べることができる。（知識・理解） * 図書館における情報技術に関すること * 図書館の運営に関すること * 図書館と社会との関係に関すること	授業で採り上げる以下のいずれかについて最低限の説明ができる。（知識・理解） * 図書館における情報技術に関すること * 図書館の運営に関すること * 図書館と社会との関係に関すること
図書館情報技術論	文芸学部　その他資格関連科目	3	2	図書館業務に必要な基礎的な情報技術、すなわち、コンピュータ、ネットワーク、検索エンジン、データベース、図書館情報システム(図書館業務システム)、デジタル図書館、デジタルアーカイブ、電子文書などについて解説する。また、コンピュータやネットワークが図書館のみならず社会全体にどのような恩恵をもたらすのかについて述べる。	以下の事物について深く理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） * コンピュータ，周辺機器，およびコンピュータネットワークのしくみと利用方法 * 文字・画像・音声・動画のデジタル化の方法 * 図書館情報システムの導入意義と各機能 * データベースの役割と各機能 * デジタルアーカイブ，およびそれのネットワーク経由での公開 * 電子文書や電子書籍 * デジタル図書館およびその実例	以下の事物について最低限の説明ができる。（知識・理解） * コンピュータ，周辺機器，およびコンピュータネットワークのしくみと利用方法 * 文字・画像・音声・動画のデジタル化の方法 * 図書館情報システムの導入意義と各機能 * データベースの役割と各機能 * デジタルアーカイブ，およびそれのネットワーク経由での公開 * 電子文書や電子書籍 * デジタル図書館およびその実例
図書館実習	文芸学部　その他資格関連科目	4	1	司書課程科目の履修も最終段階に入り、基礎的な知識を得たことを前提に、図書館における実務を体験する。情報社会、生涯学習社会における図書館の業務の実際は、教室での授業だけでは完全に理解できるものではなく、図書館の現場でないと学べないこともある。実際の図書館現場における実務やサービスの現状を体験することにより、今までに学んだ内容をさらに深め、司書としての実践的能力を身に着けることを目標とする。実習先の図書館には、原則として身近な公共図書館を選び、約2週間の実習を行う。実習は、各自が直接実習希望先と交渉し許可を得るところから始まる。実習の準備段階、図書館での実習体験を通して、社会人としての基本的なマナーを習得することも重視する。実習に先立って、これまでに学んだことを踏まえ、実際の図書館現場での心構えや具体的対応を中心に講義を行う。	これまで司書課程の各科目で学んできた知識を網羅的かつ体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） これまで司書課程の各科目で学んできた技能を網羅的かつ体系的に理解し，それを実践できる。（技能） 実習先で与えられた種々の業務ついて，自ら考えて技能を適用して処理することができる。（技能） 社会人としてのマナーを深く理解し，図書館職員や利用者に接することができる。（関心・意欲・態度）	これまで司書課程の各科目で学んできた知識を網羅的かつ体系的に理解し，それを他者に説明できる。（知識・理解） これまで司書課程の各科目で学んできた技能を網羅的かつ体系的に理解し，それを実践できる。（技能） 実習先で与えられた種々の業務ついて，指示されたとおりに処理することができる。（技能） 社会人としての基本的マナーを理解し，図書館職員や利用者に接することができる。（関心・意欲・態度）
放送ドラマ論C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	テレビメディアが日本の社会に登場して60年以上の月日が経過した。本授業ではテレビメディアの特性を学び、時代とともに社会との関わり方がどのように変容をとげてきたかをたどっていくこととする。	1、テレビ放送誕生から今日までの変遷を詳しく理解できるようになる（知識・理解） 2、テレビメディアの特性について具体的な事例にそって主体的に考察できるようになる（思考・判断・表現） 3、テレビメディアが社会の中で果たすことができる役割について主体的に関心をもつことができるようになる（関心・意欲・態度）	1、テレビ放送誕生から今日までの変遷を理解できるようになる（知識・理解） 2、テレビメディアの特性について具体的な事例にそって考察できるようになる（思考・判断・表現） 3、テレビメディアが社会の中で果たすことができる役割について関心をもつことができるようになる（関心・意欲・態度）
映画論C	文芸学部　専門分野Ⅰ	2	4	映画の歴史は既に１００年を超え、人類史上最も新しく最も可能性を秘めた芸術分野として依然として発展を続けている。様々な映像メディアやインターネットの技術革新により、製作過程や表現形態、発信と受容のモデルに至るまで、限りない変化の兆しさえ認められる。具体的な事例についての知見を深めながら、映像芸術の本質や映画があわせもつ多様な特質について考えていく。	映画を見る方法を意識的に習得する。（関心・意欲・態度） 映画史についての深い知識を持つ。（知識・理解） 映像作品について学んだことによりつつ自らの考察を主体的に表現できるようになる。（思考・判断・表現）	映画を見る方法を習得する。（関心・意欲・態度） 映画史についての知識を持つ。（知識・理解） 映像作品について学んだことによりつつ自らの考察を表現できるようになる。（思考・判断・表現）